佐久市埋蔵文化財

年報 7

平成9年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財

年　報　7

平成９年度

長野県佐久市教育委員会

鳴沢遺跡群五里田遺跡　第２号円形周溝墓

鳴沢遺跡群五里田遺跡　第２号円形周溝墓の主体部より出土した銅釧

鳴沢遺跡群五里田遺跡　第１号円形周溝墓

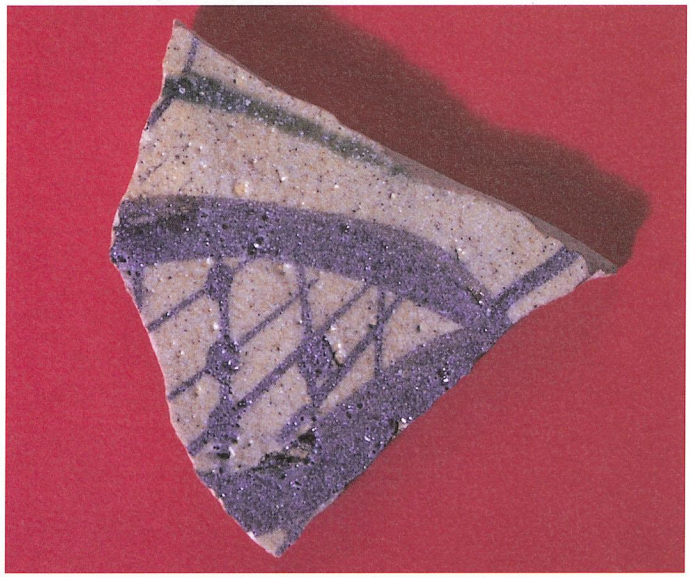
鳴沢遺跡群五里田遺跡　古墳周溝

上の城遺跡群観音堂遺跡航空写真　　株式会社こうそく撮影

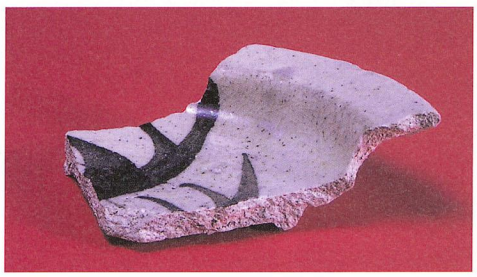
巻頭四

前藤部遺跡出土金銅製仏具

前藤部遺跡出土土硯



中宿遺跡出土
織部 大皿



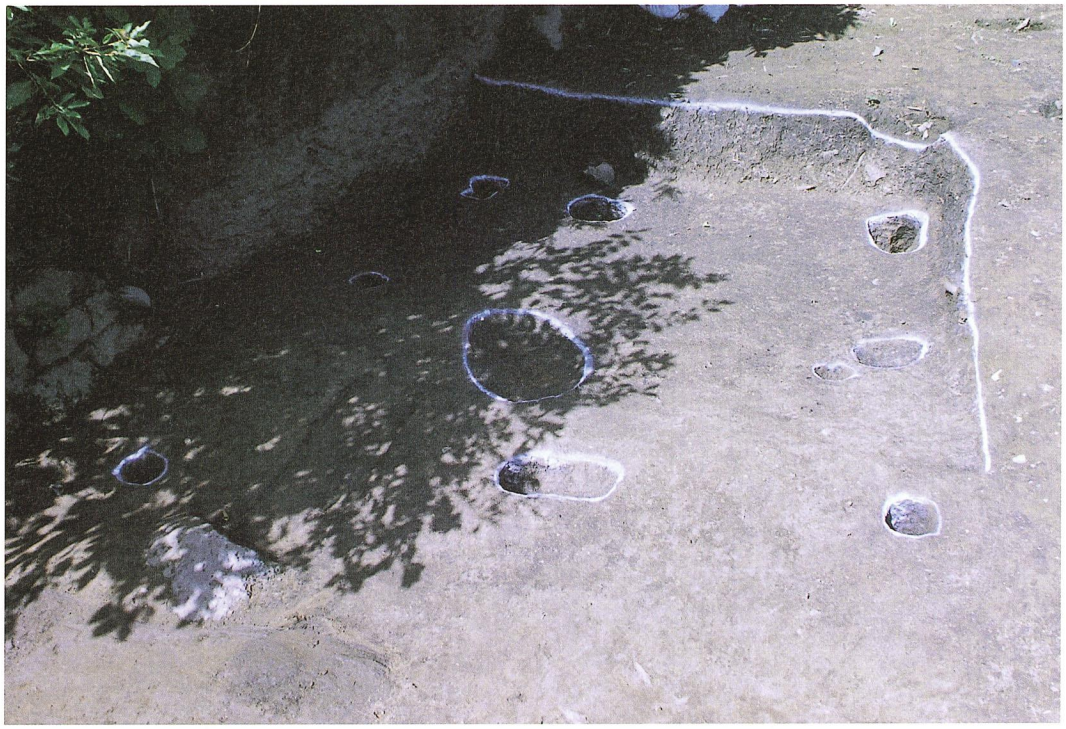
中宿遺跡出土
志野織部 向付

地ヶ入砦跡　航空写真（上が東）　　朝日航洋株式会社撮影

巻頭六

地ヶ入遺跡周辺航空写真（中央○印が笠原遺跡・右下○印が地ヶ入砦跡、上が東）
朝日航洋株式会社撮影

地ヶ入砦跡段曲輪検出状況（東方より、○印は五輪中世墓検出位置）



地ヶ入遺跡　岩陰を利用した中世の竪穴遺構（南より、中央の円形の窪みが炉址）

地ヶ入砦跡　段曲輪検出状況（南西より）

地ヶ入砦跡　段曲輪検出状況（東より）

目　　次

Ⅰ　組　　織

1　組　織……2
2　体　制……2

Ⅱ　事　　業

1　調査事業費……5
2　保護・保存事業……5
（1）現状および指定保護・保存 ……5
（2）保存処理 ……5
（3）記録保存 ……6
1）概要 ……6
2）発掘調査 ……7
3　普及・公開事業……11
（1）第18回少年考古学教室 ……11
（2）現地説明会 ……11
（3）埋蔵文化財資料展示室利用状況 ……11
4　刊行図書……12
5　庶務日誌……12
6　施設……15

Ⅲ　調査概要

発掘調査カレンダー……17
1　枇杷坂遺跡群　下伯母塚遺跡……18
2　枇杷坂遺跡群　直路遺跡……20
3　中道遺跡……22
4　西大久保遺跡群　西大久保遺跡Ⅲ……24
5　栗毛坂遺跡群　前藤部遺跡……25
6　鳴沢遺跡群　五里田遺跡……29
7　上の城遺跡群　観音堂遺跡……31
8　枇杷坂遺跡群　下穴虫遺跡……33

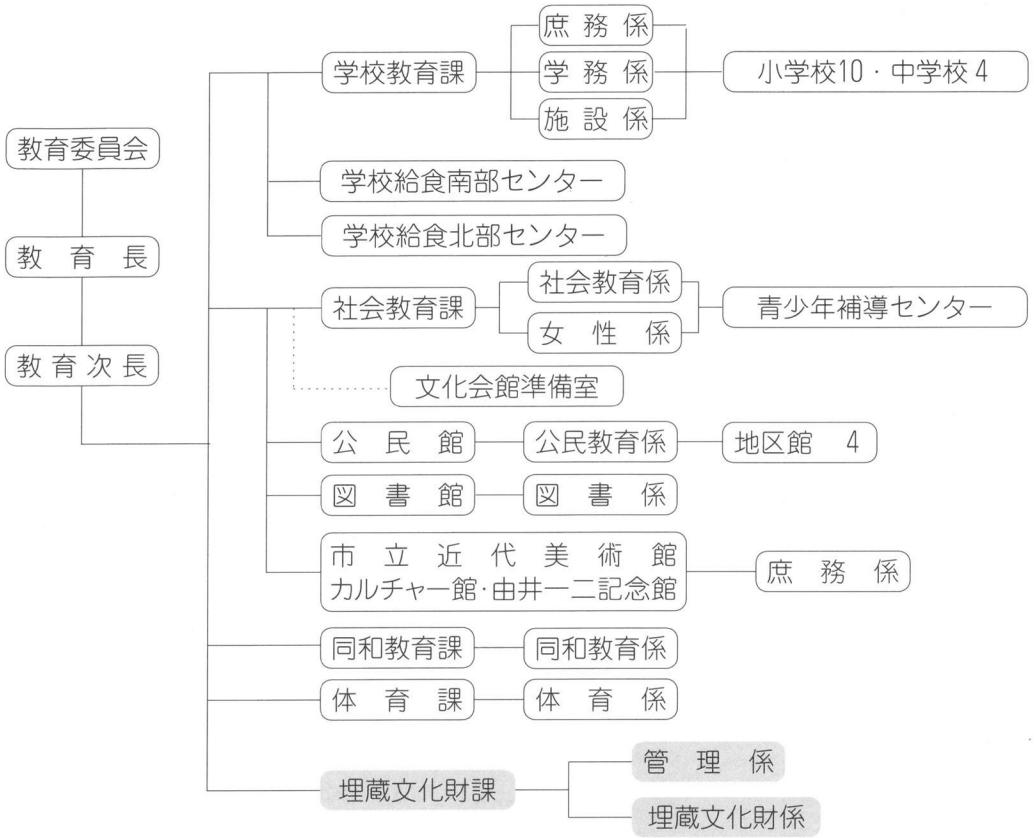
9　岩村田遺跡群　菅田遺跡Ⅴ……35
10　石附遺跡Ⅳ……37
11　中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅳ……41
12　芝宮遺跡群　上芝宮遺跡Ⅵ・下曽根遺跡Ⅴ……43
13　跡坂遺跡群　跡坂遺跡……45
14　中西の久保遺跡Ⅲ……51
15　西一本柳遺跡Ⅵ・松ノ木遺跡Ⅱ……55
16　久禰添遺跡……57
17　地ヶ入遺跡……59
18　地ヶ入遺跡Ⅱ……63
19　岩村田遺跡群　中宿遺跡……65
20　宮の上遺跡群　割地遺跡……67
21　曽根城遺跡Ⅱ……69
22　蛇塚Ｂ遺跡群　野馬久保遺跡Ⅱ……71
23　周防畑遺跡群　南近津遺跡　……73

Ⅳ　前田遺跡群姫子石遺跡発掘調査報告書……75

Ⅰ　組　織

平成９年４月　事務所前にて

1　組織



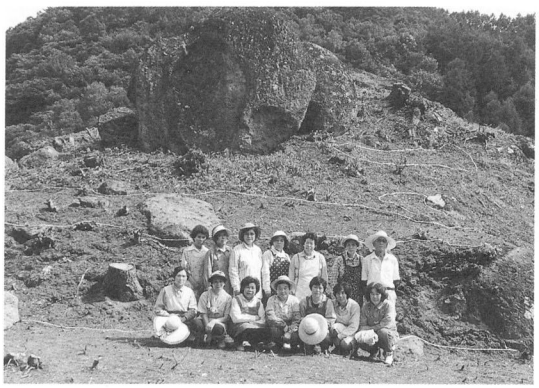
2　体制

佐久市教育委員会　　教育長　依田英夫

（事務局）　　佐久市教育委員会　埋蔵文化財課

教育次長	市川　源			
課長	須江　仁胤			
管理係長	棚沢　慶子			
埋蔵文化財係長	大塚　達夫			
埋蔵文化財係	林　幸彦	三石　宗一	須藤　隆司	小林　眞寿
	羽毛田卓也	冨沢　一明	上原　学	
調査主任	佐々木宗明	森泉かよ子		
調査副主任	堺　益子			

調　査　員　　浅沼ノブ江、阿部　和人、荒井　利男、荒井ふみ子、飯沢つや子
磯貝　はな、井出　愛子、井出徳四郎、出沢　力、井上　行雄
岩崎　重子、岩下　吉代、岩下　友子、岩下　文子、上原　幸子
上原　芳男、江原　富子、遠藤しづか、大井みつる、小田川　栄
小幡　弘子、柏原　松枝、金森　治代、川多アヤ子、木内　明美
倉見　　渡、神津ツネヨ、神津よしの、小金沢たけみ、小須田サクエ
小林　幸子、小林　淳子、小林　妙子、小林　立江、小林まさ子
小林百合子、小林よしみ、小松三喜枝、小山　澄恵、小山　正吉
斎藤　真理、斎藤　義男、桜井　牧子、佐々木　正、佐々木久子
佐藤　愛子、佐藤志げ子、島田　幹子、篠崎　清一、篠原　昭子
清水佐知子、関口　　正、高橋サチコ、高瀬　武男、高橋　敬子
高橋　ふみ、田中　章雄、土屋　貞子、角田すづ子、角田トミエ
東城　友子、東城　幸子、徳田　代助、樋田　咲枝、中嶌武三郎
中島　照夫、中島とも子、中嶋フクジ、中條　悦子、並木ことみ
成澤　冨子、新津　幸雄、羽毛田香里、橋詰　勝子、橋詰けさよ
橋詰　信子、花岡美津子、花里香代子、花里四之助、花里三佐子
花里八重子、林　美智子、比田井久美子、星野　良子、細萱ミスズ
細谷　秀子、堀籠　滋子、堀篭　　因、堀篭みさと、真嶋　保子
増野　深志、水間　雅義、三石　和子、宮川百合子、武者　幸彦
桃井もとめ、森泉富美子、柳澤千賀子、山浦　豊子、山口　丑男
山崎　　直、依田　　巖、依田　みち、若林　　希、和久井義雄
渡辺久美子、渡辺　倍男



地ヶ入砦　頂上大テラスにて

Ⅱ　事　業

地ヶ入遺跡　中世集落調査スナップ

1　調査事業費

平成９年度埋蔵文化財調査事業費	予算額	319,548,000 円
	決算額	319,394,685 円
	受託事業費	146,276,000 円

2　保護・保存事業

（１）現状および指定保護・保存

現状保存	保存遺跡名	西久保古墳群450－３号墳・450－４号墳
	所在地	佐久市大字平賀字城平4643番地（450－３）
		佐久市大字常和字城下2607番地（450－４）
	保存面積	2,629㎡
	保存方法	盛土保存
	保存状況	宅地造成に伴う緑地化

（２）保存処理

金属製品	処理物件名	東一本柳古墳出土銅地金張飾り金具２点
		（遺物ナンバー８・41）
		五里田遺跡出土金属製品
		鉄剣１点、鉄戈１点、銅釧５点、鉄釧１セット
		長峯古墳群出土金属製品
		直刀１点、銅地金張耳環５点
		鉄鏃１点、馬具１式、小柄１点
		高師町遺跡ⅡＨ４号出土「富寿神寶」１点
		下聖端遺跡ⅡＨ45号出土「隆平永寶」１点
		下聖端遺跡ⅡＨ55号出土銅製巡方１点
		下伴助Ａ遺跡Ⅱ出土鉄製品２点
	処理方法	樹脂含浸・樹脂塗布による強化
		除錆処理、防錆処理、一部復元等
木製品	処理物件名	松の木遺跡出土堰構築材
		赤岩弁天池出土修羅
	処理方法	防腐処理、処理水取換

（3）記録保存

1）概要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県等	国・県補助						1
	長野県土地開発公社	1			1	2	
	長野県土地改良課		1			1	
	佐久建設事務所	5	5	3		13	1
	佐久市土地開発公社	1	2		4	7	1
	佐久市開発公社		1			2	1
佐久市	区画整理課	2	2			4	
	新幹線高速道課	1	1	1		3	
	建築課	1				1	
	耕地課	1	1			2	
	土木課	1				1	
	企画調整課		1			1	
	厚生課		1			1	
	都市計画課		1		1	2	
	老人副址拠点整備推進室		1			1	
個人・民間企業		9	18	1	1	29	5
合計		23	35	5	7	70	9
原因者負担		23	35	5	7	70	8
国・県補助							1

2）発掘調査

No.	遺　跡　名	所　在　地 面　積	備　考
1	枇杷坂遺跡群 下伯母塚遺跡	長土呂字下伯母塚 3,500㎡	弥生末住居９軒、土坑２基、溝５条
2	枇杷坂遺跡群 直路遺跡	長土呂字直呂 1,800㎡	弥生住居５軒、土坑18基　溝１条
3	中道遺跡	前山字中道113－１外 1,178㎡	古墳住居11軒、平安住居１軒 土坑、溝、ピットなど
4	西大久保遺跡群 西大久保遺跡Ⅲ	上平尾字西大久保651－1外12 1,260㎡	溝１ 佐久市埋蔵文化財調査報告書第62集
5	栗毛坂遺跡群 前藤部遺跡	小田井字前藤部 15,000㎡	中世集落、平安住居 竪穴、土坑、溝など
6	鳴沢遺跡群 五里田遺跡	根々井字五里田945－１外 3,300㎡	弥生住居21軒、周溝、壺棺、土坑 古墳周溝、溝など 銅釧・鉄釧・鉄剣出土
7	上の城遺跡群 観音堂遺跡	岩村田字観音堂2119－１外９ 3,071㎡	平安住居１軒、中世竪穴27軒、 井戸４基、墓５基、土坑186基 溝３条　ピット800基
8	枇杷坂遺跡群 下穴虫遺跡	岩村田字下穴虫241－１外１ 500㎡	住居３、土坑３ 佐久市埋蔵文化財調査報告書第58集
9	岩村田遺跡群 菅田遺跡Ⅴ	岩村田字菅田415外１ 250㎡	溝３条、竪穴５軒、土坑19基
10	石附遺跡Ⅳ	根岸字萩原4051－１外30 566㎡	溝１条 本報告
11	中原遺跡群 梨の木遺跡Ⅳ	中込字梨の木3768－１ 744㎡	土坑18基、溝１条、ピット31基 佐久市埋蔵文化財調査報告書第64集
12	芝宮遺跡群 上芝宮遺跡Ⅵ 下曽根遺跡Ⅴ	長土呂字上芝宮780－４外２ 小田井字穴沢166－６外５ 874㎡	下曽根－住居14軒、掘立址１棟、 ピッ50基 上芝宮－土坑１基、ピット４基

No.	遺　跡　名	所　在　地 面　積	備　考
13	跡坂遺跡群 跡坂遺跡	小田井字中金井760－６外 4,020㎡	平安住居１軒 本報告
14	中西の久保遺跡Ⅲ	岩村田字中西ノ久保2423－２外13 1,585㎡	弥生～平安住居23軒、掘立址５棟、 溝２条、土坑11基ほか
15	西一本柳遺跡Ⅵ 松ノ木遺跡Ⅱ	岩村田字松ノ木・下樋田外 西1,440㎡・松2,012㎡	西一本柳、溝７条 松の木、弥生後期住居４、溝３
16	久禰添遺跡Ⅰ	太田部字西屋敷221－１外 1,904㎡	弥生住居、土坑、井戸など
17	地ヶ入遺跡	志賀字畳石1875他 7,100㎡	砦１ヶ所、墳墓３基、竪穴７軒 土坑８基、火葬施設１ヶ所など
18	地ヶ入遺跡Ⅱ	志賀字畳石1850外 3,880㎡	平安住居３軒、特殊遺構２基 縄文土坑１基など
19	岩村田遺跡群 中宿遺跡	岩村田字中宿808－１ 450㎡	住居３、竪穴７、土坑14他 佐久市埋蔵文化財報告書第65集
20	宮の上遺跡群 割地遺跡	横和字割地211－１外 745㎡	掘立１、柵列１、道路２他 佐久市埋蔵文化財報告書第61集
21	曽根城遺跡Ⅱ	小田井字曽根城197－３ 80㎡	溝２、ピット他 佐久市埋蔵文化財報告書第60集
22	蛇塚Ｂ遺跡群 野馬久保遺跡Ⅱ	新子田字野馬久保1930 1,000㎡	溝２ 佐久市埋蔵文化財報告書第62集
23	周防畑遺跡群 南近津遺跡	長土呂字南近津1163－６外 2,020㎡	古墳～平安住居35、掘立址３、 溝３、土坑１など 佐久市埋蔵文化財報告書第76集

試掘・立会調査一覧表（1）

遺　跡　名	所　在　地	対象面積	調 査 期 日
宮の上遺跡群	横和字割地211－1外15	10890㎡	平成9年 4/1～4/8
蛇塚B遺跡群	新子田字野馬久保1930外1	2904㎡	4/3～4/4
立石遺跡	根岸字立石3872－1外10	6783㎡	4/16～4/17
立石遺跡	根岸字立石3870－1外5	3883㎡	4/16～4/17
西妻神遺跡	中込字西妻神3252－2	5042㎡	5/6
西久保古墳群	平賀字城平4643外	2629㎡	5/21～5/23
中原遺跡群12	根々井字南原1－1	2500㎡	5/27
西大久保遺跡群7	上平尾字西大久保651－1外12	1260㎡	5/28
小池遺跡(立会)	新子田字下原2050－1外2	905㎡	6/3
前田遺跡群2	塚原字宮の前873－1外4	220㎡	6/5～6/6
平賀城跡4	平賀字北谷津4388－1	845㎡	6/10～6/13
西大久保遺跡群5	下平尾字六間539－1	1259㎡	6/17
枇杷坂遺跡群	岩村田字下穴虫241－1外1	1406㎡	6/19･6/24
岩村田遺跡群18	岩村田字諏訪宮1125	6500㎡	7/22～8/1
芋の原遺跡群2	横根字伊勢石1173－1外2	1300㎡	7/24
志賀神明の木遺跡	志賀字神明の木5953	302㎡	8/6
中鳴沢遺跡群	岩村田字下福王寺2499外34	19350㎡	8/1～8/6
藤塚遺跡3	塚原字下荒町1540－3	4894㎡	8/20～8/22
西大久保遺跡群	下平尾字中大久保552－2外2	1247㎡	9/5
下蟹沢遺跡2	長土呂字中蟹沢247－1	1815㎡	10/8
枇杷坂遺跡群13	岩村田字枇杷坂991	492㎡	10/16
野沢館跡2（立会）	原字屋敷416－1外12	3760㎡	10／20

試掘・立会調査一覧表（2）

遺　跡　名	所　在　地	対象面積	調 査 期 日
久禰添遺跡	太田部字石田197－1外20	9650㎡	10/21
根々井大塚古墳2	根々井字大塚越1179－8	900㎡	10/27～11/27
岩村田遺跡群	岩村田字柳堂1931－7外13	5200㎡	10/30～11/10
岩村田遺跡群	岩村田字菅田415外1	615㎡	11/11
深堀遺跡群	瀬戸	15000㎡	11/18～12/25
新町遺跡	平賀字新町1820－1外	21000㎡	11/21～11/25
石附遺跡Ⅳ	根岸字萩原4051－1外30	19981㎡	11/26～12/1
松の木遺跡	岩村田字下塚本1354－5	1114㎡	12/2
中原遺跡群	中込字梨の木3768－1	744㎡	12/3
市道遺跡	三塚字市道126－1外2	2230㎡	12/11～12/12
金山遺跡2（立会）	跡部字舞台9－1外1	1500㎡	12/15
前田遺跡群3	塚原字前田1201－3外3	2850㎡	平成10年 2/13～2/16
戸坂遺跡群	新子田字供養塚897－1外1	1798㎡	2/19～2/20
根々井大塚古墳 （立会）	根々井字駒場1080－1	100㎡	2/23
白拍子遺跡群4	取出町字白拍子301－1外	1506㎡	2/26～2/28
前田遺跡群4（立会）	塚原字前田1219－1外	600㎡	3/6
番屋前遺跡群10	中込字平尾道2913	1961㎡	3/18～3/19
戸坂遺跡群	新子田字供養塚866外1	7500㎡	3/16～3/24

3　普及・公開事業

（1）　第18回少年考古学教室

開催場所　三河田大塚古墳、大井城址、横根古墳群、埋蔵文化財課

開催期日　平成９年８月６日から８日

対　　象　市内小中学校生徒　51名

内　　容　見学

三河田大塚古墳、大井城址、横根古墳群を見学し、それぞれの説明を実施。埋蔵文化財課施設および資料室の見学。

（2）　現地説明会

開催遺跡　地ヶ入遺跡

開催期日　平成９年９月28日

対　　象　志賀地区民

参 加 者　56名

内　　容　志賀駒込地区の遺跡の概要説明。

志賀城跡・高棚城跡・笠原城跡の概要説明。

調査された地ヶ入砦跡と砦下の中世集落の説明。

砦頂上岩陰より発見された３基の五輪塔と中世集落で発見された火葬施設の説明。調査地に存在する馬頭観音と道祖神の説明など。

（3）　埋蔵文化財資料展示室利用状況

埋蔵文化財資料展示室見学者数

		月	人数			月	人数
上半期	平成9年	4月	32名	下半期	9年	10月	22名
		5月	80名			11月	
		6月	30名			12月	
		7月	8名		10年	1月	2名
		8月	54名			2月	
		9月	3名			3月	13名
	合計		207名		合計		37名
				総計			244名

4　刊行図書

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第49集　『宮の上遺跡群 根々井芝宮遺跡』

弥生中期住居43軒、古墳後期住居３軒、平安住居11軒、弥生以降土坑９基

建物址２棟、溝３条、道路址１条

第58集　『枇杷坂遺跡群 下穴虫遺跡Ⅰ』

平安後期住居３軒、土坑３基

第59集　『市内遺跡発掘調査報告書1996』

第60集　『曽根城遺跡Ⅱ』

中近世溝２条、ピット１基他

第61集　『宮の上遺跡群 割地遺跡』

中世建物址１棟、中世柵列１条、中世溝１条、近世道路２条

第62集　『蛇塚Ｂ遺跡群 野馬久保遺跡Ⅱ』

平安溝２条

第63集　『西大久保遺跡群 西大久保遺跡Ⅲ』

平安以降大溝１条

第64集　『中原遺跡群 梨の木遺跡Ⅳ』

中世以降土坑18基、溝１条、ピット39基

第65集　『岩村田遺跡群 中宿遺跡』

古墳後期住居３軒、中近世竪穴７軒、中近世土坑14基、中近世墓坑３基他

5　庶務日誌

平成９年

４月４日　調査員委嘱式

４月７日　各現場発掘調査開始

４月８日　平成８年度補助事業実績報告（県庁）

４月16日　市役所新規採用職員研修32名

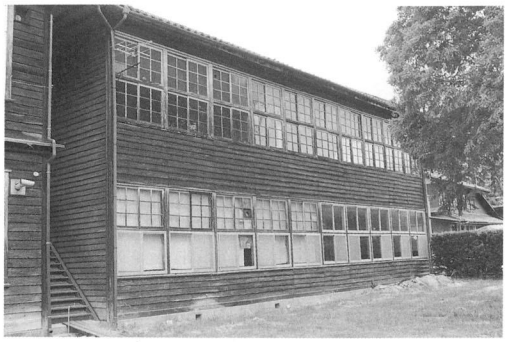
調査員健康診断

４月17日　佐久市城山小学校歴史講演会

４月28日　全体会議

５月１日　五里田遺跡銅釧出土で新聞報道（信濃毎日）

５月９日　埋蔵文化財課研修（長野県立歴史館）



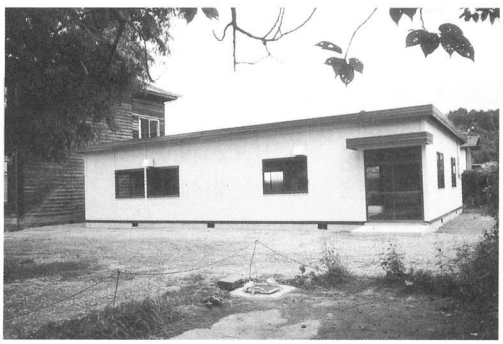
北棟校舎取り壊し前（南西より）

北棟校舎取り壊し前（北より）

重機による取り壊し（南より）

廃材と化した校舎（南西より）

北プレハブ棟建設風景（南より）



北プレハブ棟完成（南より）

北校舎は大正13年に建設された木造建築で、今回取り壊した部分は東側の昭和に入り増築された４教室である。埋蔵文化財課移転当時から老朽化が著しく、度重なる修繕の甲斐なく今回取り壊しとなった。なお北校舎の西側部分は現存し、調査室等に使用されている。さらに取り壊しとなった校舎の跡地に新たにプレハブ棟が建設された。

5月15日　佐久東小学校6年生施設見学

5月26日　全体会議

6月6日　平成9年度埋蔵文化財事務担当者会議（県庁）

6月9日　全体会議

6月12日　野沢公民館ふれあい学級発掘調査現場・資料展示室見学

6月24日　五里田遺跡出土金属製品保存処理依頼（財団法人元興寺文化財研究所）

6月30日　全体会議

7月4日　全体会議

7月25日　平成9年度中間報告会

7月25日　北校舎東棟解体・北プレハブ棟新築工事開始

8月6日　第18回少年考古学教室

～8日

8月27日　佐久東中学校2年生施設見学

8月29日　全体会議

9月16日　北プレハブ棟新築工事終了

9月28日　地ヶ入遺跡現地説明会

地ヶ入遺跡現地説明会テレビ報道（テレビ信州）～29日

10月3日　全体会議

10月8日　佐久市職員綱引き大会

10月25日　埋蔵文化財課研修旅行　～27日

10月28日　野沢郷土史研究会22名資料展示室見学

10月30日　全体会議

11月20日　佐久市中学校社会科教員施設見学

12月1日　全体会議

12月17日　埋蔵文化財実務研修会（長野県）

平成9年度報告会準備

12月19日　埋蔵文化財課平成9年度報告会

12月25日　埋蔵文化財課仕事納め

平成10年

1月5日　全体会議

1月8日　埋蔵文化財課仕事始め、大雪で降雪36cm

1月15日　大雪で降雪68cm

1月16日　総出で雪かき

2月2日　全体会議

2月15日　大雪で降雪40cm（降雪量合計で100cmを越え4月上旬まで雪が残る）

2月26日　佐久地区文化財担当者会議

3月3日　全体会議

3月19日　市議会議員12名資料展示室見学

3月23日　埋蔵文化財課年度納め

　　全体会議

3月26日　年度末最終全体会議

6　施　設

※平成2年に野沢旧水道企業団跡地より旧志賀小学校跡地に移り現在にいたる。施設は旧志賀小学校の校舎を一部改良・修繕して使用。平屋の事務棟（南校舎）は明治34年に、二階建ての北棟は大正12年に増築された校舎である。佐久市では日本最古の洋風小学校として明治8年に建てられた中込学校（国重要文化財）が現存しており、本施設は現存する木造小学校施設として市内2番目に古い貴重なものである。本年度北棟の一部が老朽化のため度重なる修繕の甲斐なく取り壊しとなった。

施設総面積　8,050㎡（グランドは除く）

事務室　1室（2室分）、　管理・更衣室・事務用品倉庫　1室

図書室　1室　資料展示室　1室

調査整理室　15室（平成9年度に4室の取り壊しをし、2室を増室）

水洗室　2室、　スタジオ　1室、　保存処理室　1室、

木製品収蔵室　1室、　機材整備室　1室、　機器材倉庫　2ヶ所

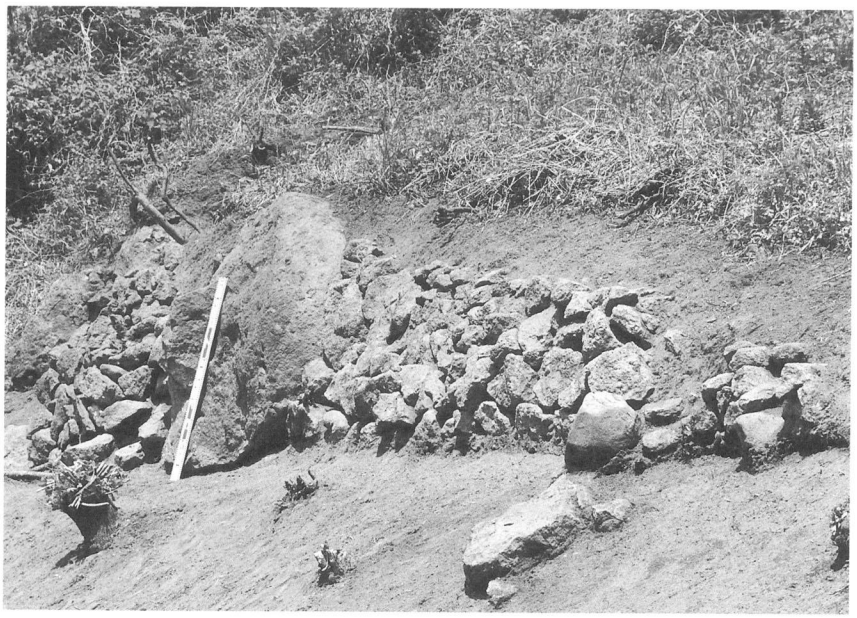
測量用具倉庫　1室　大型遺物収蔵庫　1棟、　耐火収蔵室　1室

小倉庫　2室、　防火器具庫　2ヶ所、　防火水槽　1ヶ所

給湯施設　3ヶ所、　屋内トイレ　2ヶ所、　屋外トイレ　2ヶ所

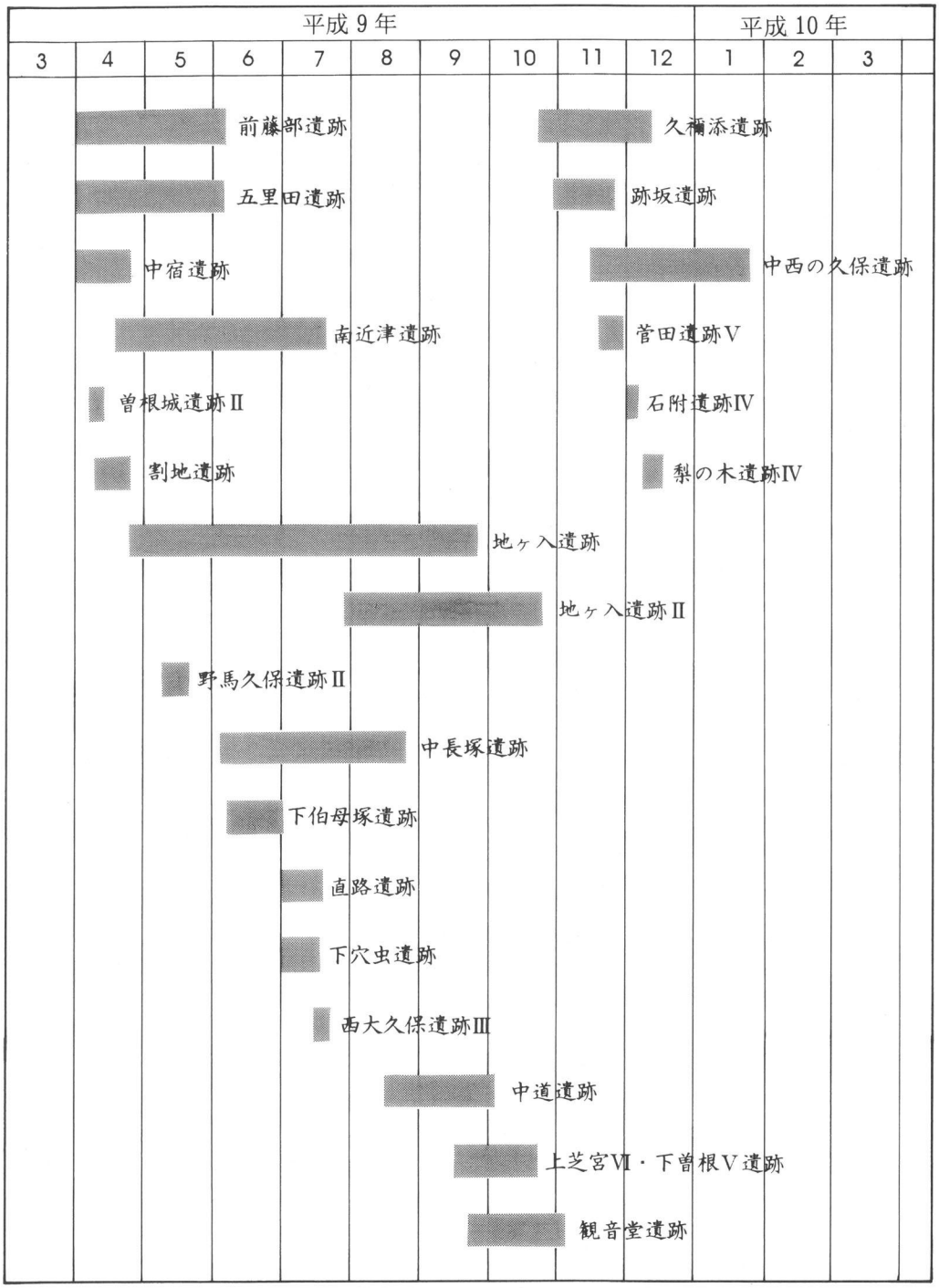
休憩・シャワー室　1室

Ⅲ　調査概要



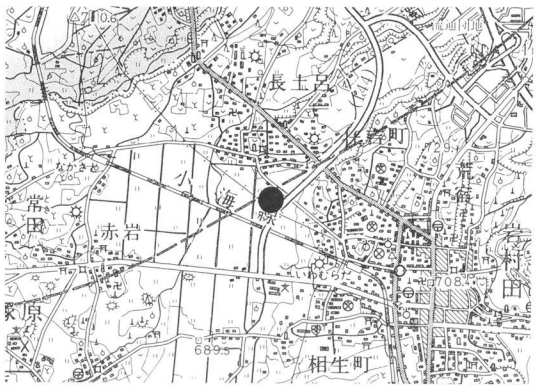
地ヶ入遺跡　石垣調査状況（南より）

発掘調査カレンダー


平成9年
平成10年
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2
3
前藤部遺跡
久福添遺跡
五里田遺跡
跡坂遺跡
中宿遺跡
中西の久保遺跡
南近津遺跡
菅田遺跡Ⅴ
曽根城遺跡Ⅱ
石附遺跡Ⅳ
割地遺跡
梨の木遺跡Ⅳ
地ヶ入遺跡
地ヶ入遺跡Ⅱ
野馬久保遺跡Ⅱ
中長塚遺跡
下伯母塚遺跡
直路遺跡
下穴虫遺跡
西大久保遺跡Ⅲ
中道遺跡
上芝宮Ⅵ・下曽根Ⅴ遺跡
観音堂遺跡

1　枇杷坂遺跡群　下伯母塚遺跡

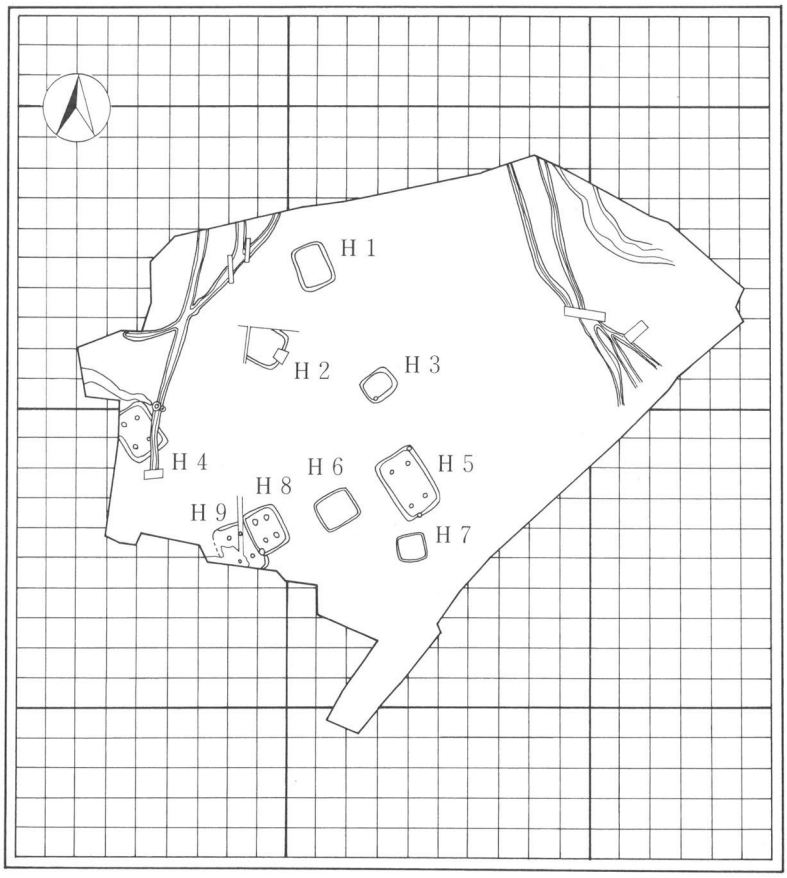
所　在　地　佐久市大字長土呂下伯母塚
佐久平駅周辺区画整理事業地区内
調査委託者　佐久市区画整理課
開発事業名　佐久平駅周辺区画整理
調 査 期 間　平成９年６月10日～７月１日
調 査 面 積　3,500㎡
調査担当者　冨沢　一明・上原　学



下伯母塚遺跡位置図（１：50,000）

経過と立地

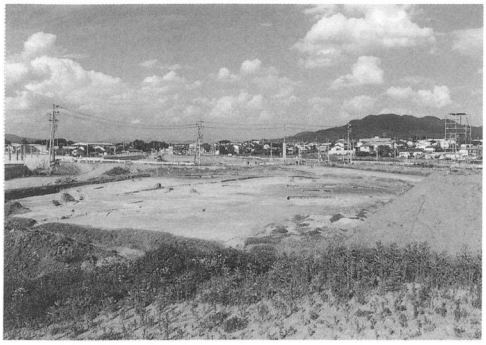
遺跡は佐久市岩村田市街地の西にあり、標高703m内外の台地上に位置する。遺跡を含めた南方向は北側に比べ、若干低地帯となっており広く水田として利用されてきた地域である。しかし、近年は長野新幹線佐久平駅開業に伴う新幹線駅周辺区画整理事業が盛んに行われ、急速に開発が進んでいる。今回の調査も、こうした区画整理事業に伴う発掘調査である。



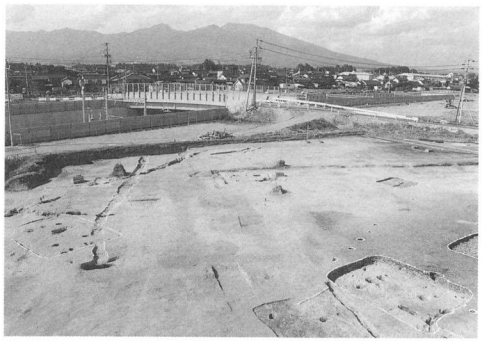
下伯母塚遺跡全体図（１：1,000）

調査の概要

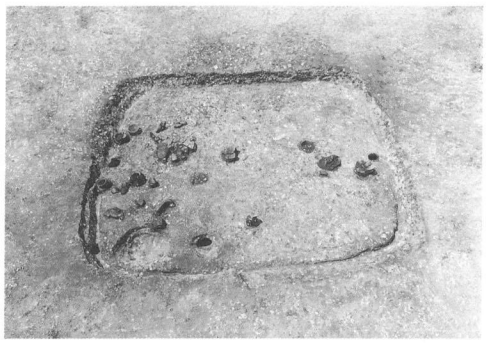
調査の結果、弥生時代から古墳時代初頭に位置付けられる竪穴住居址９軒、土坑２基、溝５本が認められた。遺物は弥生土器、土師器・須恵器、銅鏃、磨り石が出土した。



下伯母塚遺跡全景（南西から）

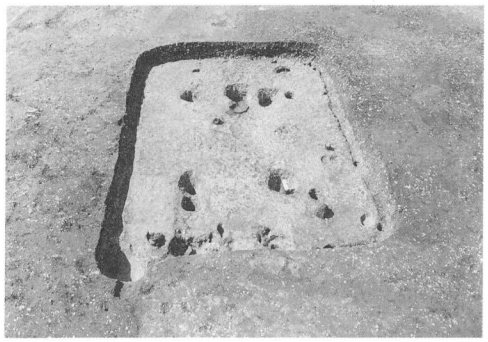


下伯母塚遺跡全景（南から）

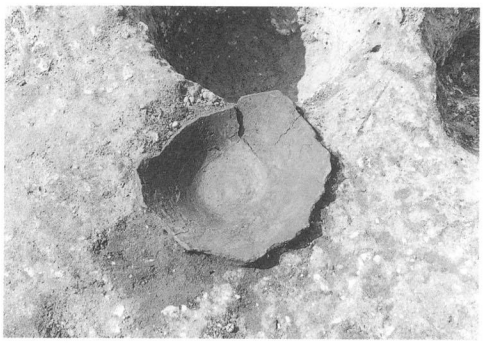


Ｈ３号住居址全景

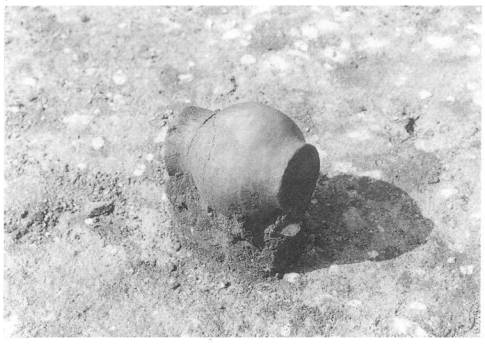
Ｈ３号住居址遺物出土状況



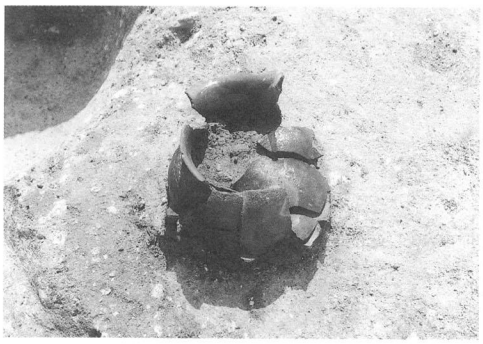
Ｈ８号住居址全景



Ｈ８号炉址



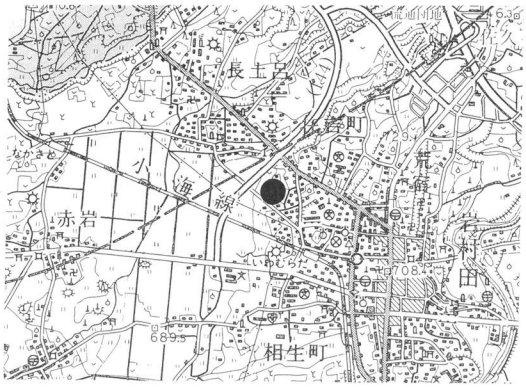
Ｈ３号住居址出土遺物



Ｈ３号住居址出土遺物

2　枇杷坂遺跡群　直路遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字直路
佐久平駅周辺区画整理事業地区内
調査委託者　佐久市区画整理課
開発事業名　佐久平駅周辺区画整理
調 査 期 間　平成９年７月１日～７月18日
調 査 面 積　1,800㎡
調査担当者　上原　学



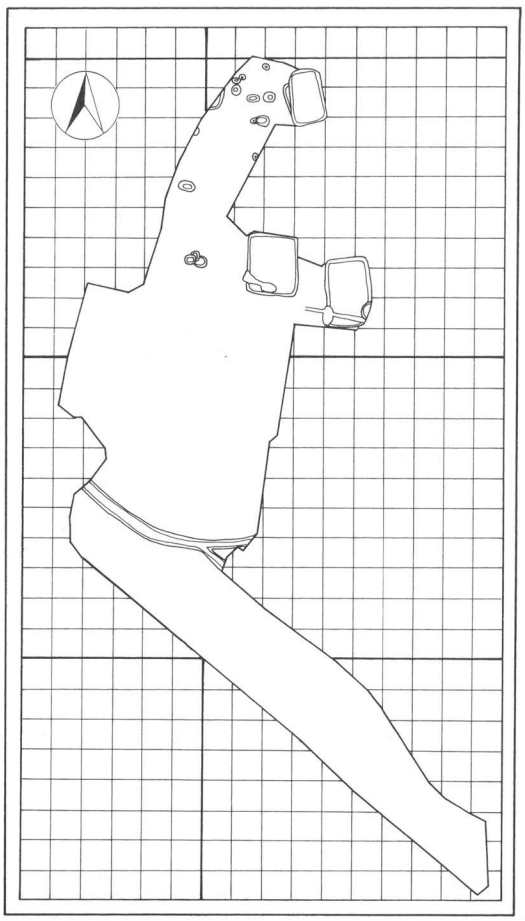
直路遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

直路遺跡は、佐久市岩村田市街地の西にあり、標高707m内外の台地の縁辺部に位置する。遺跡の南西方向は調査区に比して低地であり、広く水田として利用されてきた地域である。しかし、近年は長野新幹線開業に伴い新幹線駅周辺区画整理事業が行われ、急速に開発が進んでいる。今回の調査も、こうした区画整理事業に伴う発掘調査である。

調査の概要

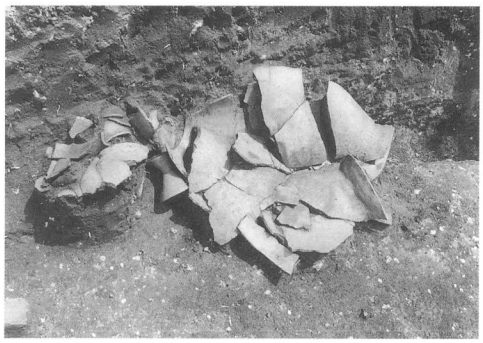
遺構は調査区北側を中心に認められ、南側は大部分が掘削されていた。検出遺構は弥生時代の竪穴住居址５軒、弥生時代・中世の土坑18基、時期不明の溝１で、遺物は弥生土器、骨製品、石器、古銭が出土した。特筆すべきものとしては、調査区東端に位置する弥生時代中期の住居址があげられ、住居址覆土内には多量の焼土炭化物が含まれる事から焼失住居と考えられた。また床面上には土器、石器といった生活用具が多数散在しており、当時の生活の様子をうかがい知ることができた。


直路遺跡位置図（1：1,000）

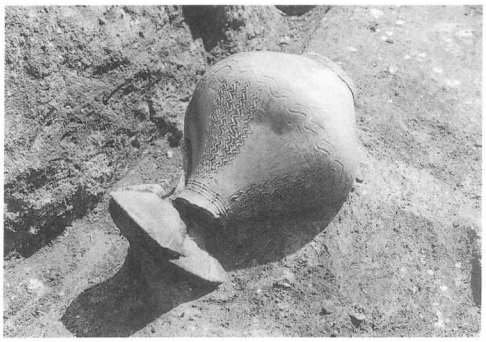
直路遺跡調査風景（南から）

直路遺跡調査風景（西から）

Ｈ１号住居址全景（西から）



Ｈ１号住居址遺物出土状況（１）



Ｈ１号住居址遺物出土状況（２）

Ｈ１号住居址遺物出土状況（３）

Ｈ３号住居址全景（西から）

土坑遺物出土状況

3　中道遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字前山字中道113－１他

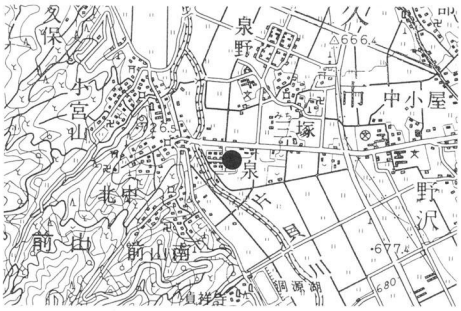
調査委託者　佐久市建築課

開発事業名　岸野工場団地造成事業

調 査 期 間　平成９年８月25日～10月３日

調 査 面 積　1,178㎡

調査担当者　冨沢　一明



中道遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

経過と立地

中道遺跡は野沢平の西方、千曲川と片貝川に挟まれた沖積低地に立地する。遺跡周辺の標高は670m 前後を測る。遺跡内では昭和46年に一部分の調査が行われ古代律令期の竪穴住居址が検出され、奈良三彩「蓋」などが出土している。今回、佐久市において公営住宅建て替え工事が計画され、発掘調査を行うこととなった。

調査の概要

調査は継続中であるが、現在までに竪穴住居址12軒（古墳時代中後期11軒・平安時代１軒）、土坑、溝状遺構、ピット列等が検出されている。また、弥生土器等も検出されることから、今後は、弥生時代の遺構も確認される可能性がある。

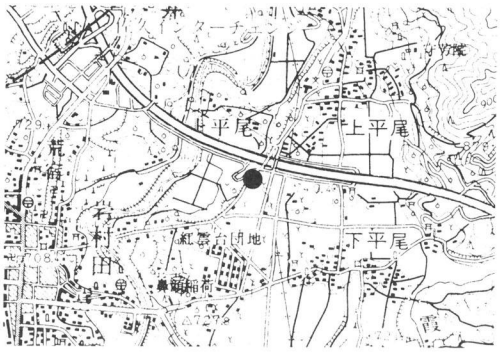
中道遺跡Ⅱ調査全景（東より）

中道遺跡Ⅱ　Ｈ２号住居址　遺物出土状況（北より）

中道遺跡Ⅱ　Ｈ６号住居址全景（南より）

4　西大久保遺跡群　西大久保遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字上平尾651－1他
調査委託者　長野県佐久建設事務所
開発事業名　県単高速道関連道路改良事業
調 査 期 間　平成9年7月14日～7月22日
調 査 面 積　1,260㎡
調査担当者　三石　宗一・森泉かよ子



西大久保遺跡Ⅲ位置図（1：50,000）

経過と立地

本遺跡群は佐久市の北東部上平尾地区にある。西に湯川が南流する湯川左岸の台地上に位置し、標高は732m内外を測る。本遺跡群内では昭和61年度～63年度にかけて市道平根南北線、北部幹線道路建設工事事業、上信越自動車道などの事業に伴い発掘調査が実施されている。本遺跡群からは集落は未だ検出されておらず、台地地形上では希有な例である。西側の一段下がった河岸段丘のテラス、腰巻遺跡からは古墳時代初頭と平安時代の竪穴住居址が検出されている。

今回、佐久建設事務所により道路の改良が計画され、遺構の状況を把握するため試掘調査を実施した。調査の結果、溝状遺構が検出されたため保護協議を行い、発掘調査を行うこととなった。

調査概要

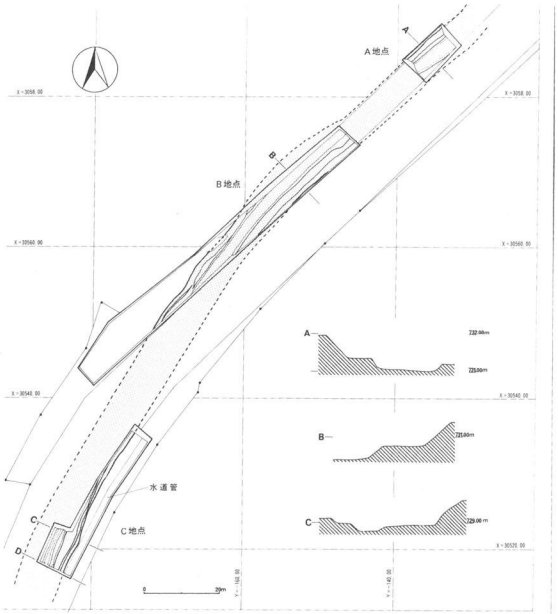
溝状遺構　1（平安時代以降）

主な出土遺物

石鏃・縄文式土器片・須恵器甕片・他

全5点

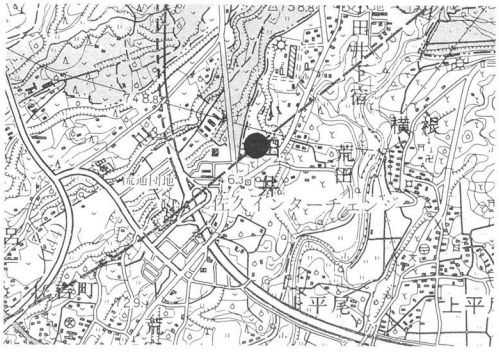
西大久保遺跡Ⅲ溝状遺構Ｂ地点（北より）



西大久保遺跡Ⅲ遺跡全体図（1：1,000）

5　栗毛坂遺跡群　前藤部遺跡

所　在　地　佐久市大字小田井字前藤部
調査委託者　オークサ・マッテクス株式会社
開発事業名　小田井ショッピングセンター建設
調 査 期 間　平成９年４月１日～６月６日
調 査 面 積　15,000㎡
調査担当者　冨沢　一明・上原　学



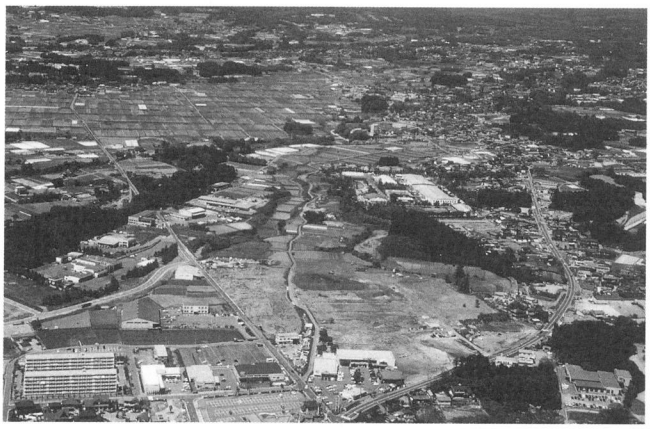
前藤部遺跡位置図（１：15,000）

経過と立地

遺跡は佐久市の北に位置し、浅間の麓からおよそ南北方向にのびる佐久地域特有の「田切り」と呼ばれる細長い沢に挟まれた台地上に展開する。標高は747m内外を測る。遺跡は平成８年度オークサ・マテックス株式会社（旧オークサ興産）による大規模なショピングセンター建設に伴い、遺跡の記録保存を目的として発掘調査が開始された。調査地域は河川の氾濫等によって堆積する砂礫層に広く覆われていたことから、砂礫層上面、下面の２面調査（調査区面積約32,000㎡ー延べ45,000㎡以上）が行われ、奈良時代から中世の遺構が多数確認された。本年度は平成８年度の継続調査である。

調査の概要

調査区は平成８年度調査区の北及び南の大きく２地区に分かれる。調査の結果、北側調査区からは平安時代の住居址、中世の竪穴状遺構、溝跡、土坑が認められ、遺物は土師器・須恵器、陶磁器、鉄製品（釘）、獣骨等が出土した。南側調査区では、中世の竪穴状遺構、溝跡、土抗・土坑墓が認められ、遺物は土師器、須恵器、陶磁器、古銭、鉄製品（釘・刀子）、金銅製品、石製品（石臼・砥石）等が出土した。また南北調査区からは、中世の遺構を切る畑の畝跡が確認できた。このことから調査区一帯は、中世以前には広く畑地として利用されていた可能性が考えられた。


前藤部遺跡航空写真（南から）

前藤部遺跡全体図（１：2,000）

前藤部遺跡　北側調査区全景

前藤部遺跡　南側調査区近景

前藤部遺跡遠景（北より）

前藤部遺跡上空南方より

6　鳴沢遺跡群　五里田遺跡

所　在　地　佐久市大字根々井字五里田
945－1他

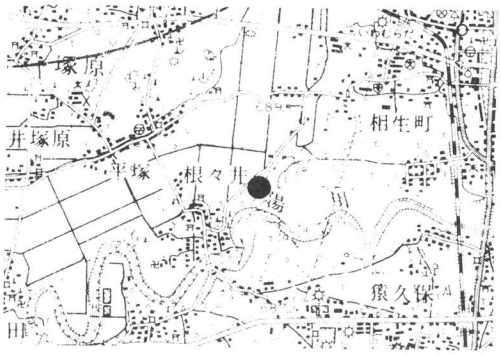
調査委託者　長野県土地開発公社

開発事業名　長野県警察本部佐久地区
職員待機宿舎建設

調 査 期 間　平成9年4月1日～6月5日

調 査 面 積　3,300㎡

調査担当者　三石　宗一・森泉かよ子



五里田遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

鳴沢遺跡群は湯川右岸の河岸段丘上に立地し、標高681～685mを測る。本遺跡群内では上鳴沢遺跡1・鳴沢遺跡群2の試掘調査が行われ、弥生時代中期から後期を中心とする竪穴住居址・円形周溝墓・土坑等多数の遺構が検出されている。また、遺跡群内東方に上鳴沢古墳群、西方に姫宮塚古墳、南方に根々井東原館跡が存在し、さらに東方には北西ノ久保遺跡・中西の久保遺跡群が展開している。

今回、長野県土地開発公社により長野県警察本部佐久地区職員待機宿舎建設事業が計画されたため、長野県土地開発公社と佐久市教育委員会において協議を行い、建物部分について平成8年度に試掘調査を行った。調査の結果、弥生時代を中心とする遺構の存在が確認されたため再度協議を行い、南側建物部分については発掘調査を実施し、北側駐車場部分については試掘調査を行い遺構の分布状況を確認した後現状保存されることとなった。

調査概要

発掘調査は調査区南側建物用地部分約1,400㎡について実施し、北側駐車場部分約1,900㎡については試掘調査によって遺構の分布状況の確認を行った。発掘調査によって弥生時代中期後半から後期と考えられる竪穴住居址21棟・周溝墓・壺棺墓・土坑の他、陥し穴、古墳の周湟、溝状遺構、ピット等が検出された。出土遺物には多量の弥生土器の他に銅釧・鉄釧・鉄剣などの金属製品、管玉・ガラス小玉などの玉類、石器がある。試掘調査によって検出された22棟をあわせると竪穴住居址は総数で43棟を数え、今回の調査地付近には弥生時代を中心とする遺構が多数存在するものと考えられる。

鳴沢遺跡群五里田遺跡航空写真

7　上の城遺跡群　観音堂遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字観音堂
2199－1他

調査委託者　株式会社エス・エス・ブイ

開発事業名　店舗新築

調 査 期 間　平成9年9月22日～11月4日

調 査 面 積　3,071㎡

調査担当者　三石宗一・森泉かよ子

観音堂遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

上の城遺跡群は佐久市大字岩村田に所在する。湯川右岸の台地上に位置し、標高は700m内外を測る。本遺跡群内では昭和48年度に上の城遺跡、昭和58年度に西八日町遺跡の発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代の大規模な集落址が確認されている。また、西側に隣接して弥生時代中期から平安時代の大遺跡である一本柳遺跡群が展開しており、本遺跡群と一本柳遺跡群は佐久では有数の遺跡にあげられるものである。

今回、株式会社エス・エス・ブイにより店舗新築が計画され、平成7年度に遺構の状況を把握するため試掘調査を実施した。調査の結果、竪穴住居址・竪穴遺構15棟以上の他土坑・溝状遺構等が検出されたため保護協議を行い、建物用地部分の約3,000㎡について記録保存のための発掘調査を行うこととなった。その結果岩村田の中世集落が検出された。

調査概要

竪穴住居址　1棟（平安時代）

竪穴建物跡・竪穴状遺構27棟（中世）

井戸跡　4基（中世）

土坑墓　5基（中世）

土坑　186基（中世～、時代不詳）

溝状遺構　3本（中世～）

単独ピット　800個

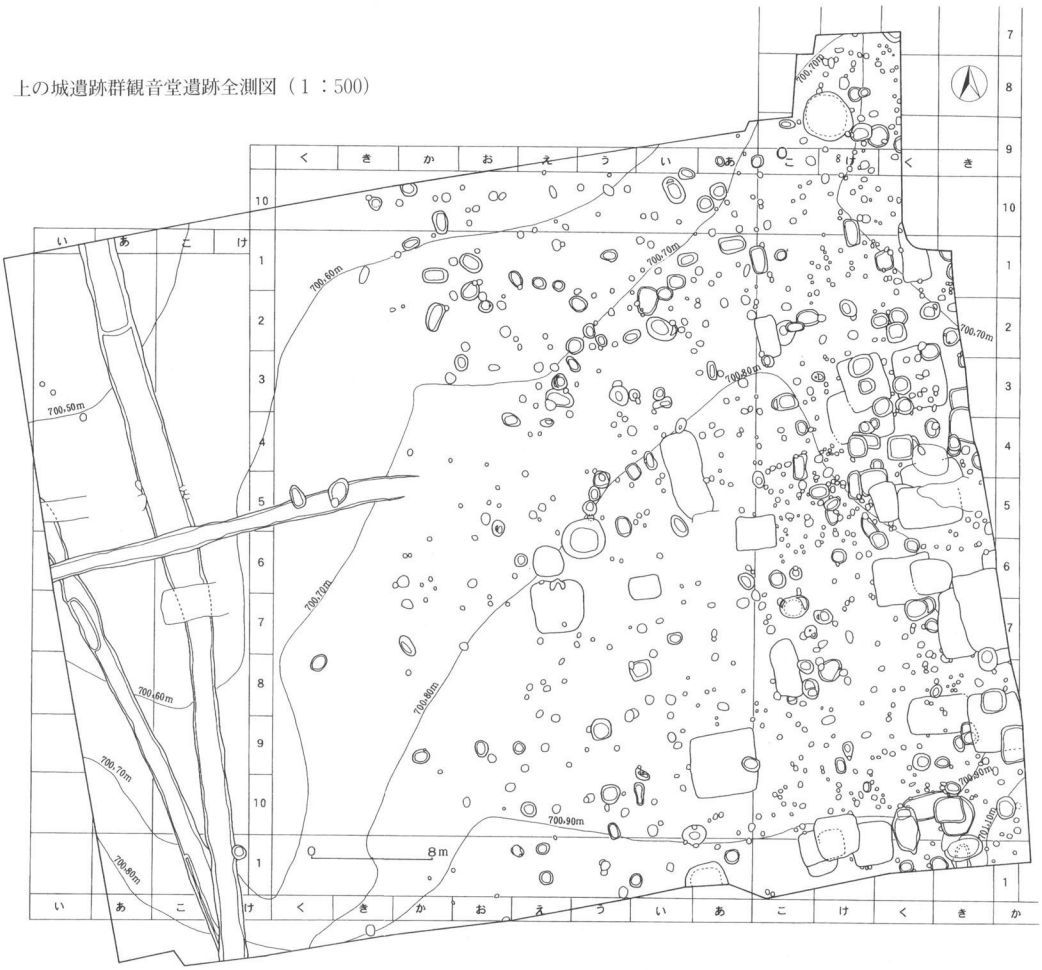
Ta11・12号竪穴建物址

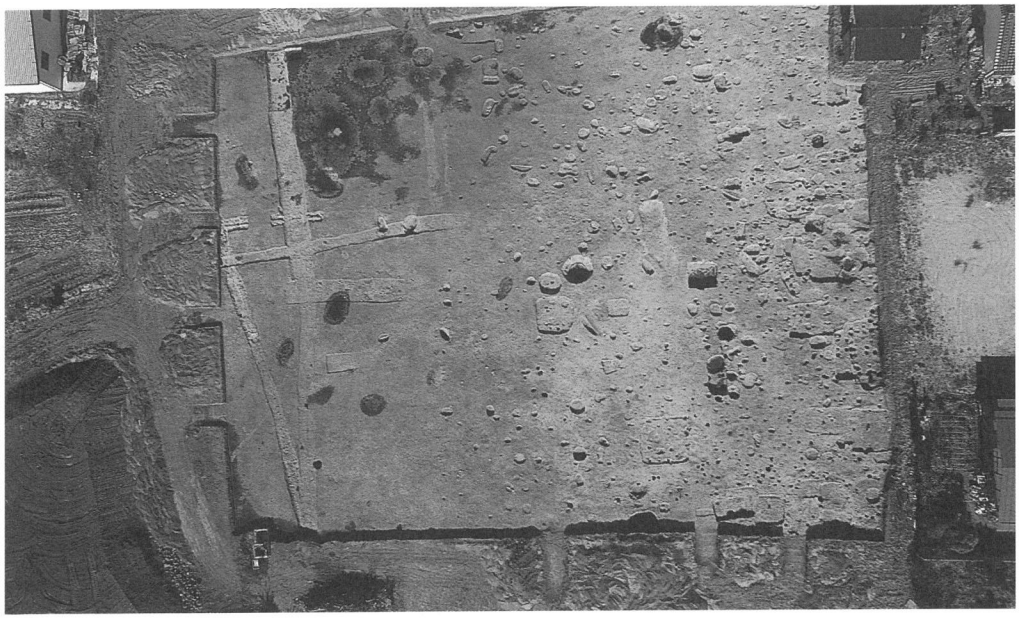
主な出土遺物

土師器・須恵器・陶磁器・石製品（凹石・硯）

鉄製品（釘）・渡来銭・人骨・獣骨・貝

上の城遺跡群観音堂遺跡全測図（1：500）





上の城遺跡群観音堂遺跡全景

8　枇杷坂遺跡群　下穴虫遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字下穴虫
241－1他

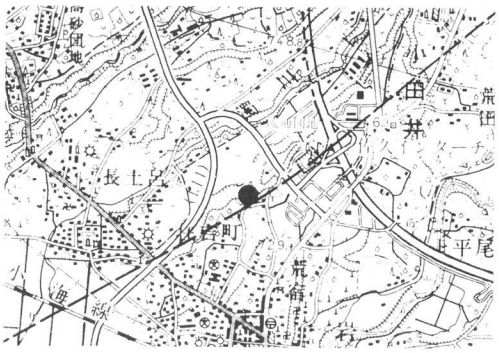
調査委託者　有限会社サンコー地所

開発事業名　宅地造成

調 査 期 間　平成9年6月30日～7月16日

調 査 面 積　500㎡

調査担当者　三石　宗一・森泉かよ子

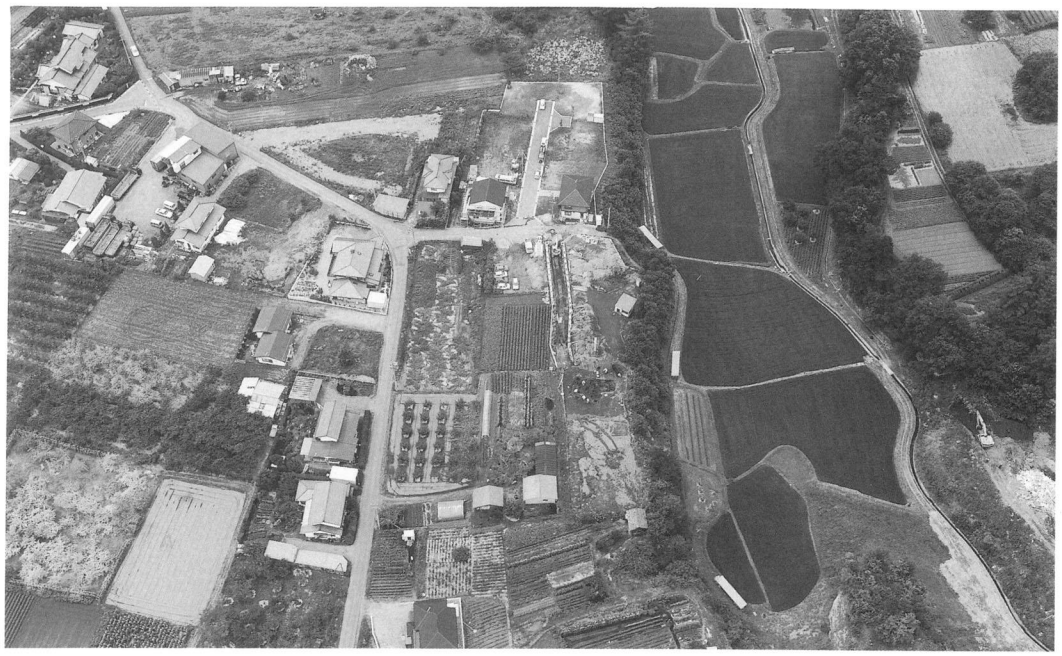


下穴虫遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

本遺跡は佐久市大字岩村田に所在する。浅間山麓の末端に位置し、標高は730m内外を測る。本遺跡に隣接して平成元年から6年度にかけて上久保田向遺跡・曽根新城遺跡が調査され、平安時代の集落が確認されている。

今回、宅地造成が計画され、平成9年度に遺構の状況を把握するため試掘調査を実施した。調査の結果、竪穴住居址7棟・竪穴状遺構1基と土坑・溝状遺構等が検出されたため保護協議を行い、道路用地部分の約500㎡について記録保存のための発掘調査を行うこととなった。



下穴虫遺跡航空写真（朝日航洋社、1997.7.14）

調査概要

竪穴住居址　２棟（平安時代末）

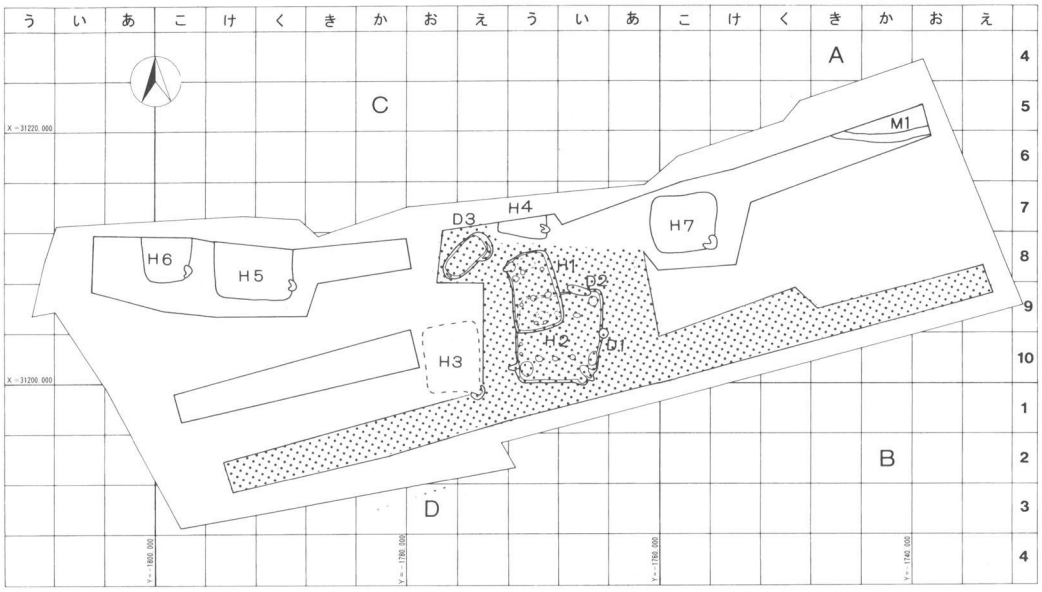
竪穴状遺構　１基（平安時代末）

土坑　２基（時代不詳）

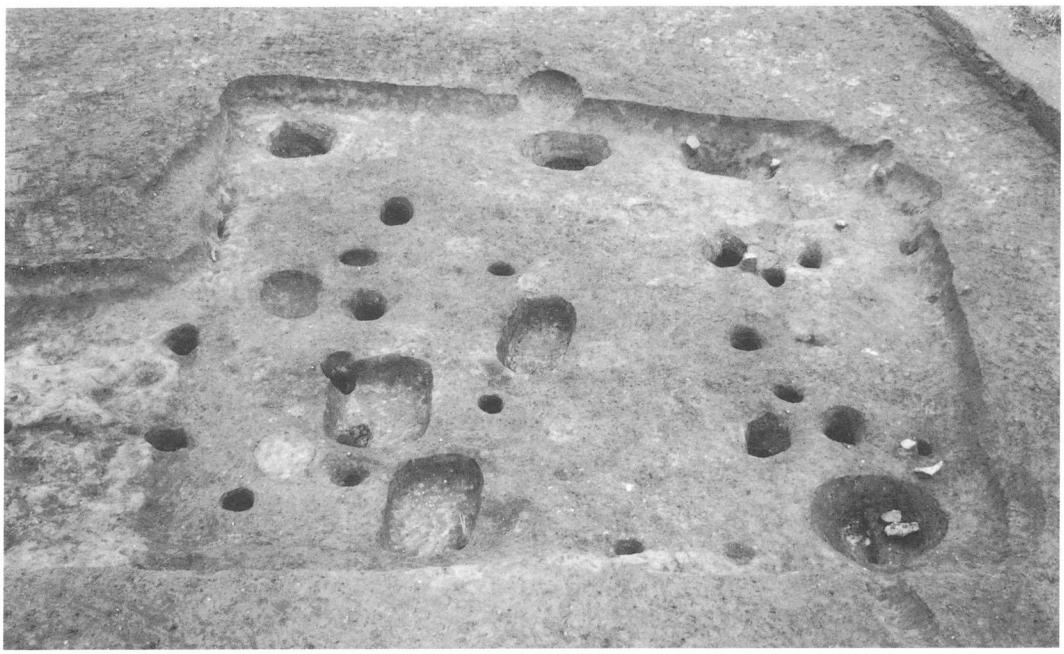
主な出土遺物

土師質小皿、羽釜・石製品（すり石）

鉄製品（刀子、鎌）・鹿の頭骨と角



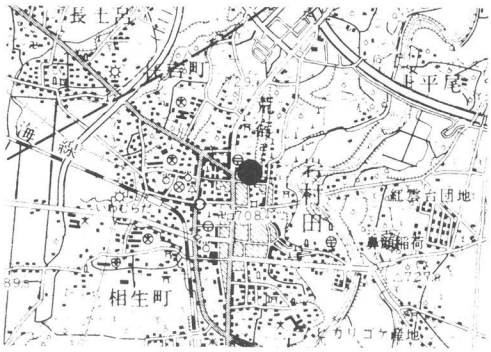
下穴虫遺跡全体図（１：600）



下穴虫遺跡Ｈ２号住居址（西より）

9　岩村田遺跡群　菅田遺跡Ⅴ

所　在　地　佐久市大字岩村田字菅田415外１
調査委託者　龍雲寺住職宮下孝海
開発事業名　龍雲寺檀信徒会館増築
調 査 期 間　平成９年11月18日～11月28日
調 査 面 積　250㎡
調査担当者　上原　学



菅田遺跡Ⅴ位置図（１：50,000）

経過と立地

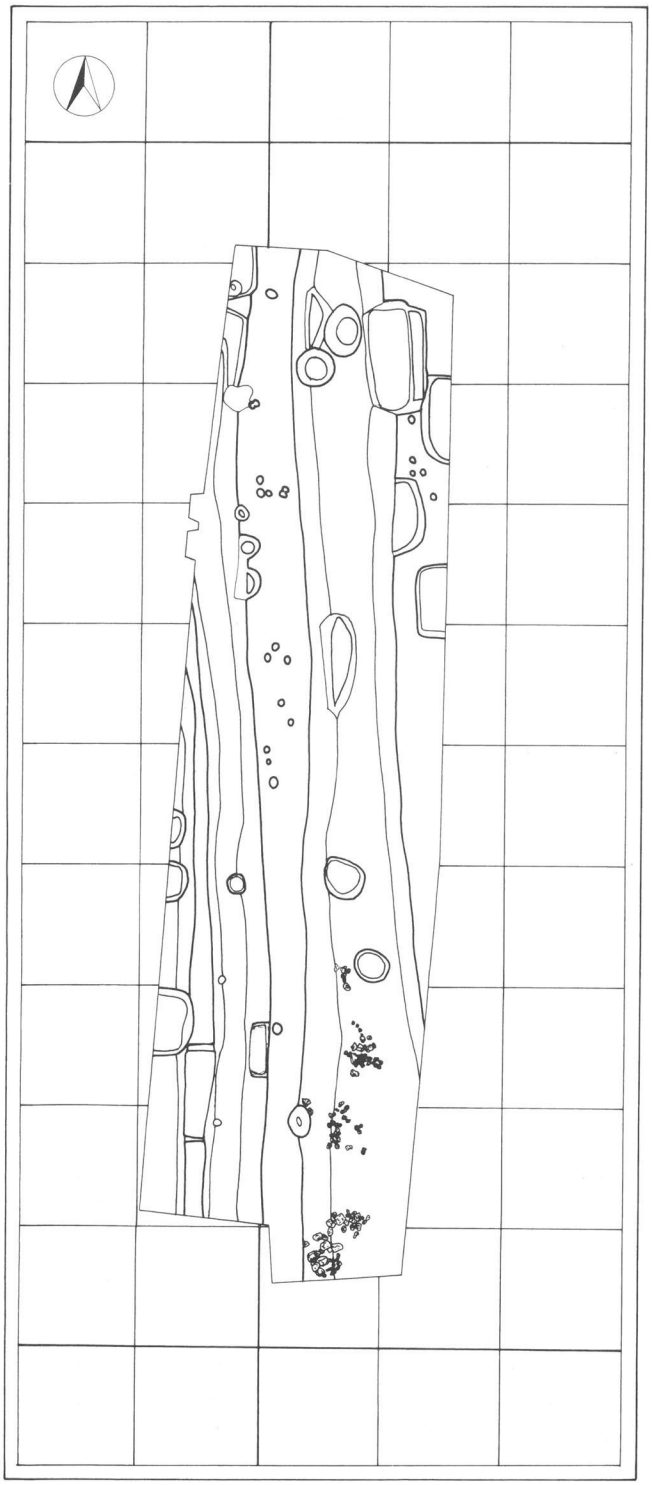
菅田遺跡は岩村田市街地の北、龍雲寺敷地内にあり、標高705m内外の台地上に位置する。今回、龍雲寺による壇信徒会館増築工事が行われることとなり、平成９年10月11日に遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、中世の溝跡、土坑、これに伴うと考えられる遺物(かわらけ）が認められたため、開発主体者と協議の結果、遺跡の記録保存を目的として、本調査を行う運びとなった。

調査の概要

調査の結果、南北方向に伸びる溝跡３本、竪穴状遺構５棟、土坑・土坑墓19基が確認でき、弥生土器、かわらけ、古銭、五輪塔、骨片といった遺物が出土した。特に中世の土師質の小皿であるかわらけは、調査面積、遺構数が僅かにも関わらず100個体近い数が出土した。

また住居址の確認はなかったが、溝の底面付近からは多くの弥生土器が出土した。付近に弥生時代の集落が存在する可能性が考えられる。

菅田遺跡Ⅴ調査風景（北から）



菅田遺跡Ⅴ全体図（1：250）

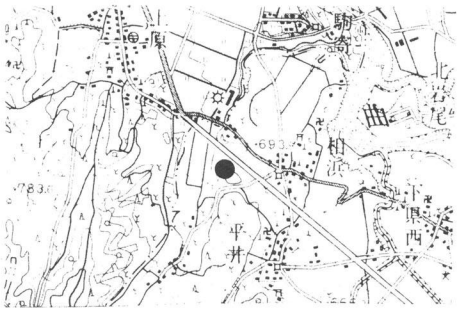
菅田遺跡Ⅴ調査風景（南から）

竪穴状遺構全景

かわらけ出土状況

10　石附窯址群Ⅳ

所　在　地　佐久市大字根岸字萩原4051－1
開発委託者　佐久市土地開発公社
開発事業名　岸野工場団地造成事業
調 査 期 間　平成９年12月１日～12月５日
調 査 面 積　566㎡
調査担当者　冨沢　一明



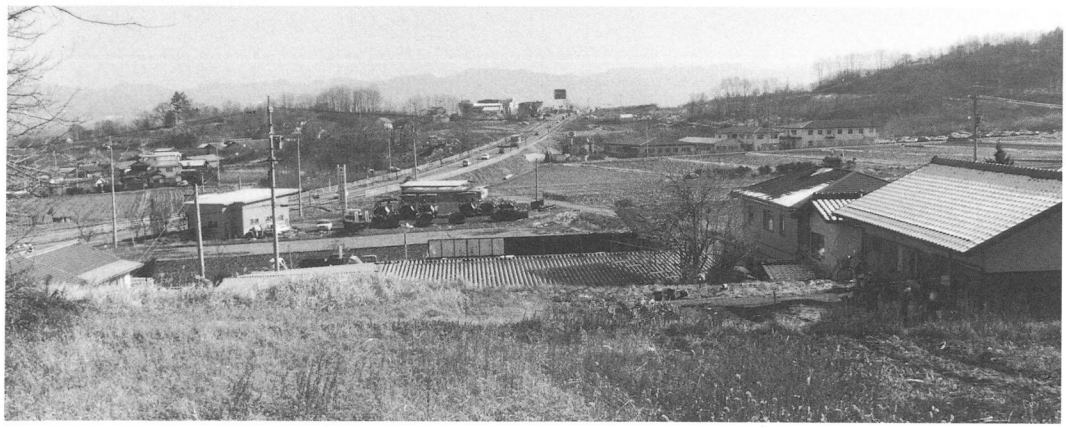
石附窯跡址位置図（１：50,000）

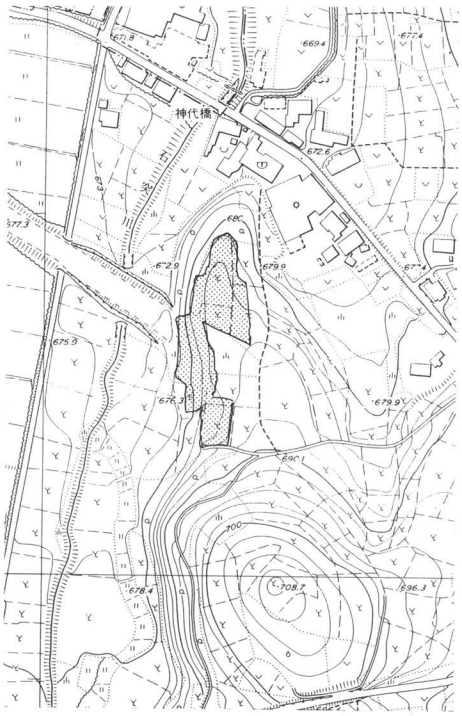
経過と立地

石附窯址群は佐久市の西方、浅科村と境界を接する石突川東岸の丘陵上に広がる窯址群である。周辺の標高は677～684mを測る。窯址は現在までに３次の調査が行われている。

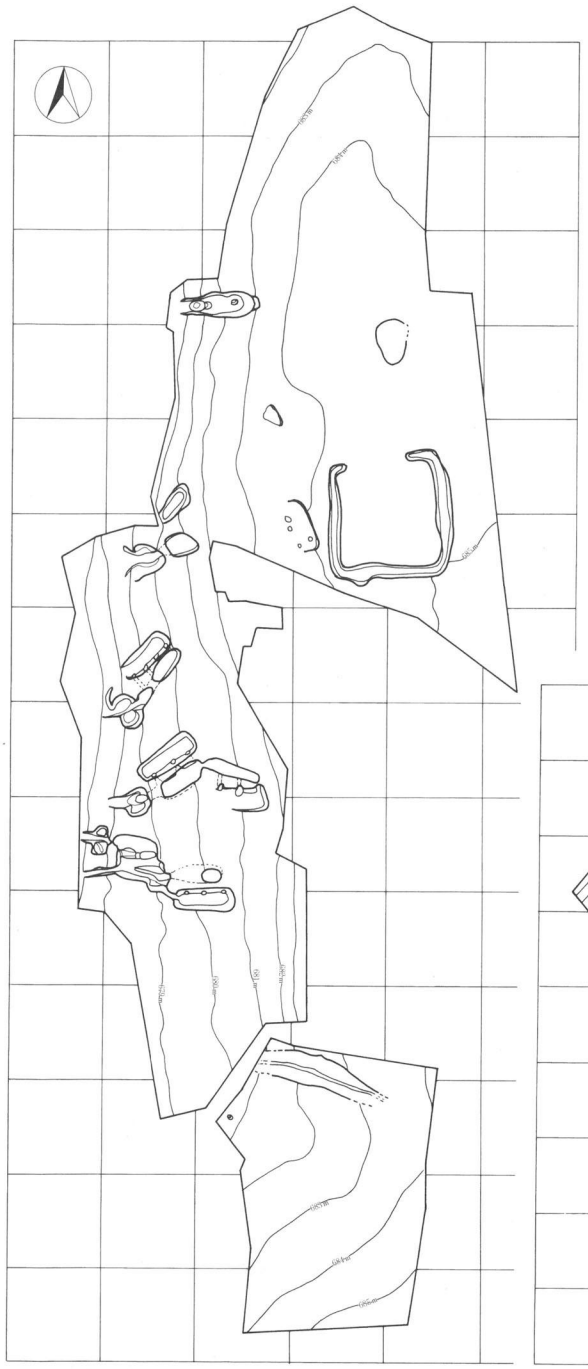
まず、第Ⅰ次の調査して昭和56年３月に国道142号線バイパス工事に伴うもので、検出された窯は、須恵器窯１基・横口付木炭窯３基であった。第Ⅱ次調査は、道路改良に伴いバイパスの南北の畑地を削平する計画がされ、工事に先立ち窯跡の有無を確認するために科学的探査（磁気・電気）を行ったもので、２基の窯址、１基の特殊遺構、２基の竪穴遺構、１基の方形周溝墓を確認した。第Ⅲ次は、Ⅱ次調査によって確認された本調査であり、これにより現在までに石附窯址群では２基の須恵器窯址と５基の木炭窯が検出されている。これら窯址の所産時期は出土須恵器の特徴より７世紀後半～末の実年代が与えられている。

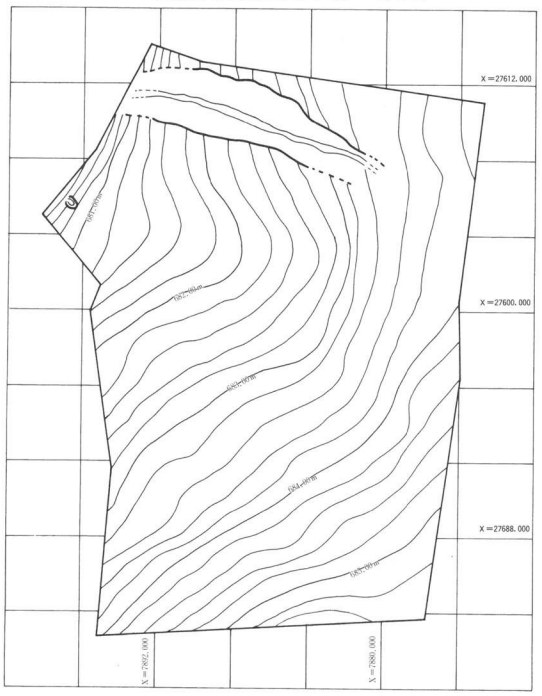
今回、佐久市土地開発公社によつてバイパス南側の遺跡内に工場団地造成が計画され、教育委員会が試掘調査を行った結果、溝状遺構１本が確認された為、記録保存を目的とする調査を行うこととなった。


調査区遠景・西より（中央の道路が国道142号線バイパス）



石附窯址調査位置図（1：5,000）





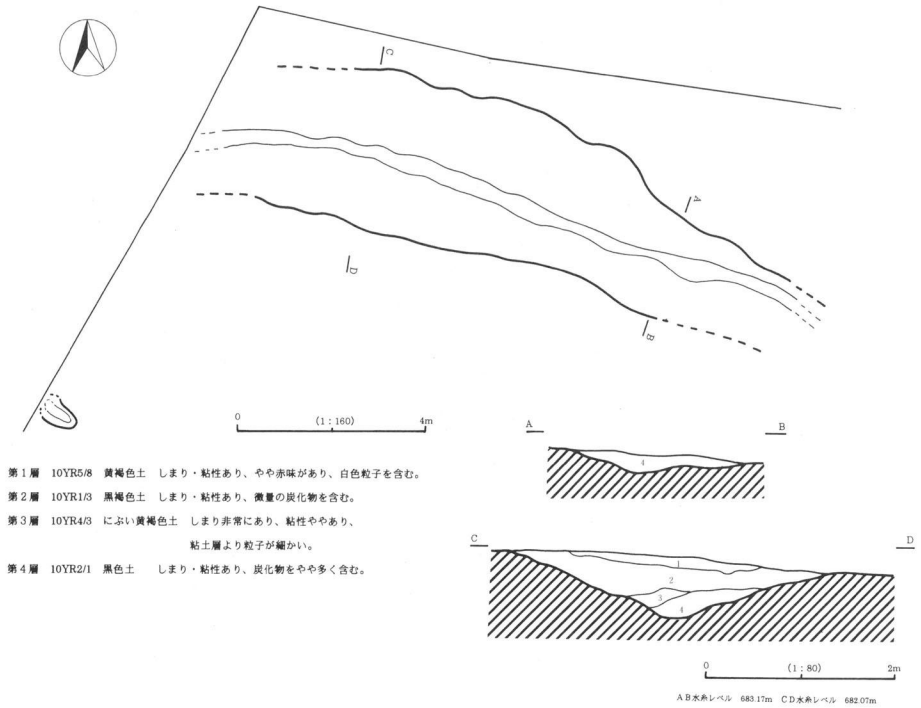
石附窯址群Ⅳ調査全体図

調査概要

石附窯址群Ⅳの調査地点は第Ⅲ次調査地点の南側に接する地点で、標高は681～685mを測る西傾斜の斜面である。調査区中央には南東に延びるように黒色土を主体とする小さな埋没谷が形成されていた。この埋没谷の北側に谷に添うような形でＭ１溝状遺構とピットが検出された。

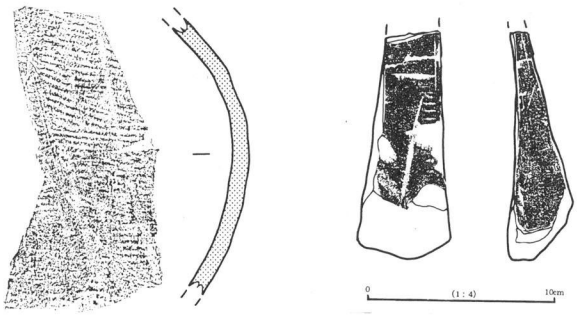
Ｍ１溝状遺構

本址は調査区の北側、標高681～683m付近で検出された。残存状況は西が畑境の斜面によって削平されており、東側が地形の傾斜により消滅しているため、全容は不明だが、ほぼ東西方向に延びる溝と考えられる。規模は、検出部で全長(下端長)12. 72m、幅(上端幅)3. 3m、深さ0. 54m



Ｍ１溝状遺構実測図

を測る。形態は逆台形状に掘りこまれており、底面は幅0.4m程の平坦な面を持つ。覆土の体積状態は４層に分割可能であった。特徴としては第３層状面が非常に硬質化しており、溝の埋没過程において、一時道として利用されたことが考えられる。



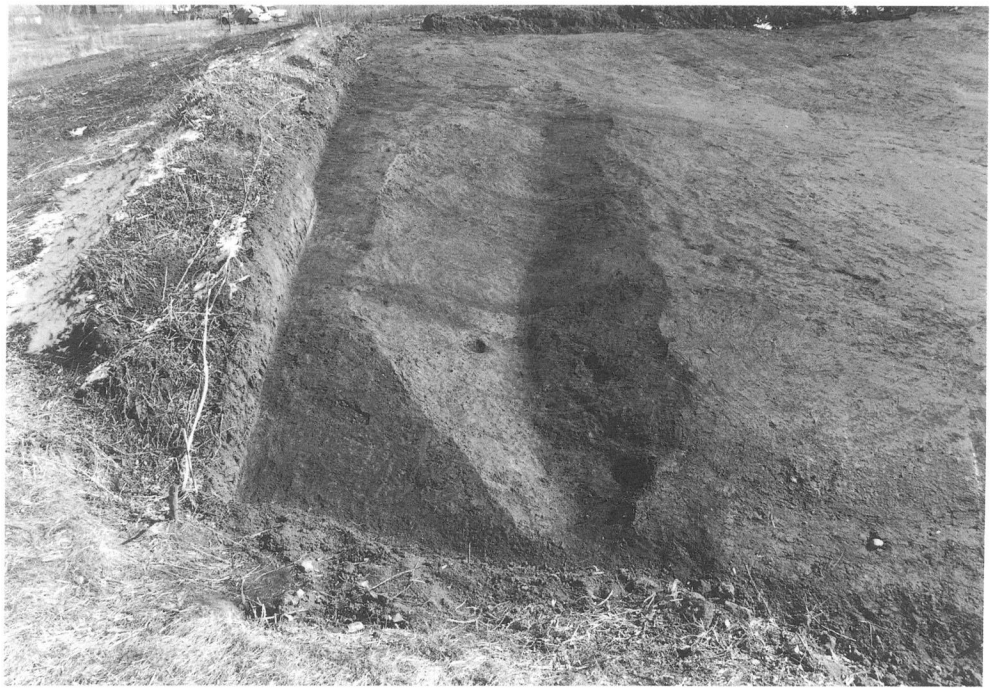
Ｍ１溝状遺構遺物実測図

出土遺物は須恵器甕片・横瓶、砥石があり、おも

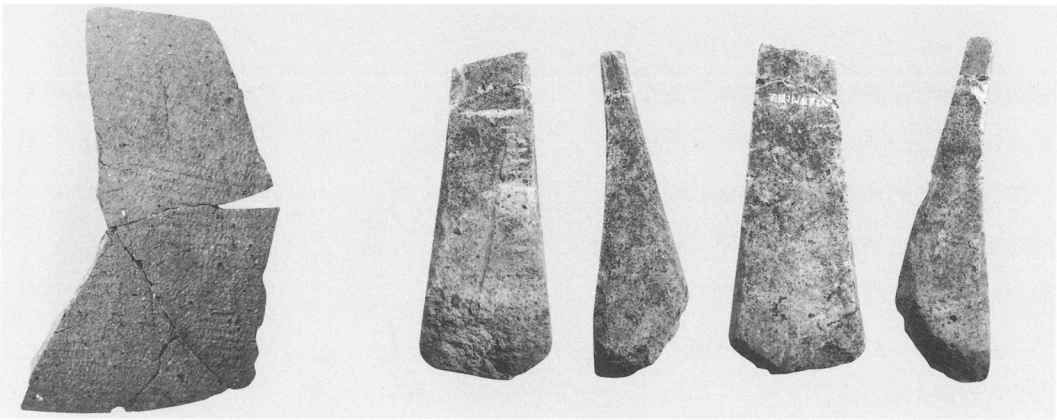
に第４層中から出土した。図示した１は須恵器横瓶の胴部とか考えられ、外面平行タタキと沈線、内面はナデの調整が施されている。２は砥石で一部欠損しており、刻みのような痕跡が残る。

調査のまとめ

今回の調査では残念ながら新たな窯跡や工房址などは発見できなかった。今までの調査された窯跡が標高679m前後で検出されている事から、今回の調査範囲はやや高所に位置するのかもしれない。とすれば今回の調査地点の西側はやや平坦となり絶好の窯の立地条件ともいえる。今後の調査に期待したい。



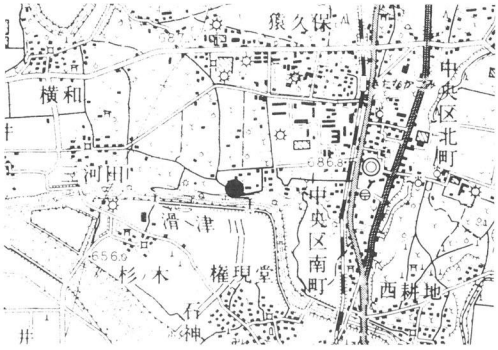
Ｍ１溝状遺構全景（西より）



Ｍ１溝状遺構出土遺物

11　中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字中込字梨の木3768－1
調査委託者　有限会社サンエイ開発
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成９年12月８日～16日
調 査 面 積　744㎡
調査担当者　三石　宗一・森泉かよ子



梨の木遺跡Ⅳ位置図（１：50,000）

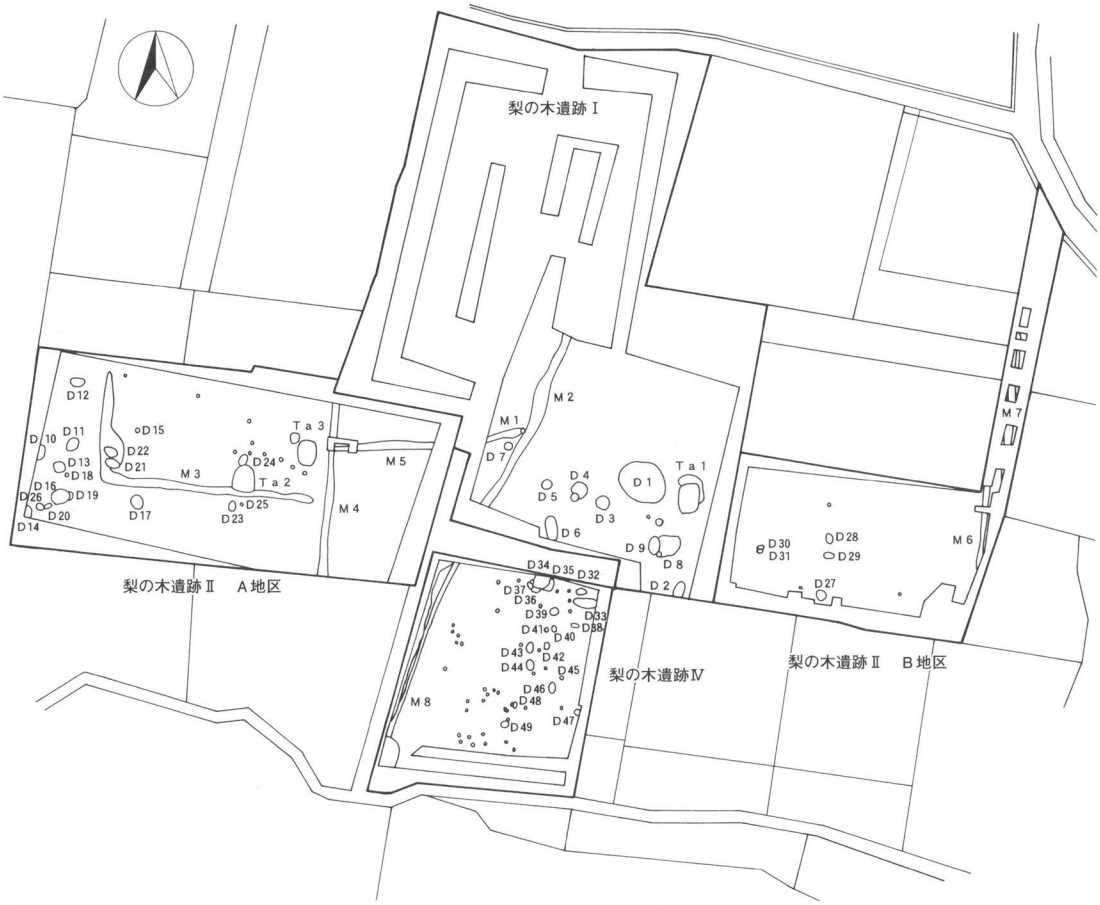
経過と立地

中原遺跡群梨の木遺跡は佐久平の中心部、佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地する。標高は約680mで、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西端には佐久地方最大の規模を誇る三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が表面採集されている。また、今回の調査区の北側に隣接する梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱでは、弥生時代の土坑・溝状遺構、中近世の竪穴状遺構・土坑等が調査されている。以上のことから、本調査区においても縄文時代から近世の遺構の存在が予想された。

今回、有限会社サンエイ開発により宅地造成事業が計画されたため、事前に試掘調査を行った。その結果、遺構の存在が確認されたため有限会社サンエイ開発と佐久市教育委員会において協議を行い、記録保存を目的とする発掘調査を実施することとなった。

調査概要

今回の調査で検出された遺構は土坑18基、溝状遺構１条、ピット39基である。出土遺物には土師器・土師質土器・陶器・鉄製品があるが、出土量は極めて少なく遺構との共伴性を窺えるものは皆無である。検出された土坑の分布状況は調査区内北東部分に集中する傾向が認められ、梨の木遺跡Ⅰ・ⅡＢ地区で調査された土坑群から連続して存在するものである。これらの土坑群は重複関係にあるものもあり同一時期の遺構として捉えることはできないが、規模・形態に類似性がみられることから大きな時間差をもつものではないことが窺える。遺構の性格については墓壙としての可能性が指摘されており、これらの土坑が墓壙と考えるならば、当遺跡が存在する台地の南端部は中世から近世における墓域として捉えられよう。

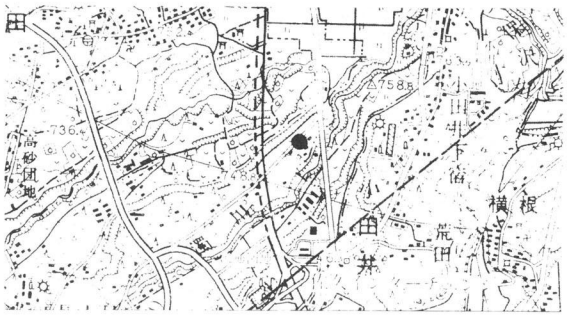


中原遺跡群梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ全体図（1：1,000）

梨の木遺跡Ⅳ全景（北方から）

12　芝宮遺跡群　上芝宮Ⅵ・下曽根Ⅴ

所　在　地　佐久市大字長土呂・小田井
調査委託者　佐久市新幹線高速道課
開発事業名　市道改良
調 査 期 間　平成９年９月16日～
　　平成10年３月23日
調 査 面 積　874㎡
調査担当者　小林　眞寿



上芝宮Ⅵ・下曽根Ⅴ位置図（１：50,000）

経過と立地

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代の集落遺跡として知られている。この付近は浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切地形の発達した地域であり、この田切に挟まれた台地上には多くの遺跡が存在している。

今回佐久市による市道改良事業に伴い、平成６年度から調査を行っている上芝宮Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、下曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに続いて調査を実施した。

調査経過

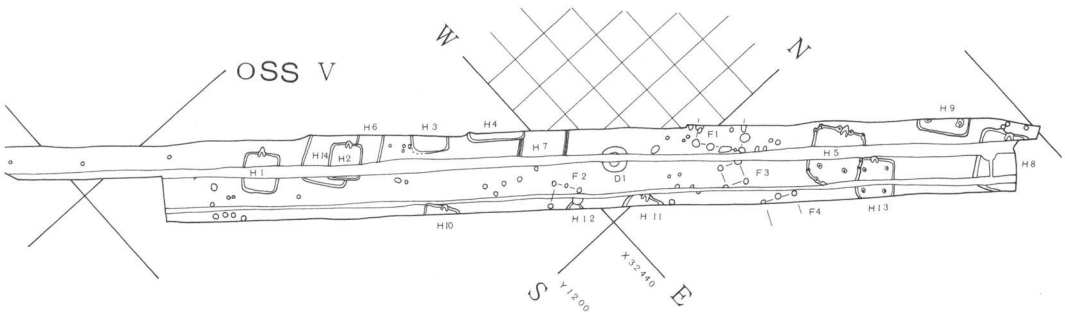
今回の調査で検出された遺構は以下のとおりである。

下曽根遺跡Ⅴ(OSSⅤ)

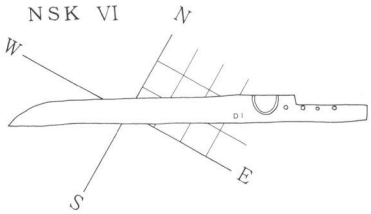
竪穴式住居址－14棟（古墳後期～平安時代）
掘立柱建物址－ 1棟
Ｐ　ｉ　ｔ－50基

上芝宮遺跡Ⅵ(NSKⅥ)

土　坑－ 1基
Ｐｉｔ－ 4基



下曽根遺跡Ⅴ全体図



上芝宮Ⅵ全体図

上芝宮Ⅵ全景

下曽根Ⅴ調査風景

13　跡坂遺跡群　跡坂遺跡

所　在　地　佐久市大字横根859外
（字跡坂・島原・芋）
大字小田井760－６外
（字下金井・中金井）

開発委託者　佐久市耕地課

開発事業名　団体営農道整備事業

調 査 期 間　平成９年10月28日～
12月２日

調 査 面 積　4,320㎡

調査担当者　林　幸彦

跡坂遺跡群跡坂遺跡位置図

立地と経過

跡坂遺跡群は佐久市の最北端に位置し、湯川の右岸に沿った標高739～747ｍを測る台地上にある。県道軽井沢・佐久線から湯川の断崖に沿った農道とその拡幅部分が調査対象地である。直下を長野新幹線が横切っている。対象地の北端50ｍ西方に島原古墳、南端西南方50ｍにはからむし古墳が存在する。遺跡群全体からは、弥生時代～平安時代の遺物が表面採集されている。

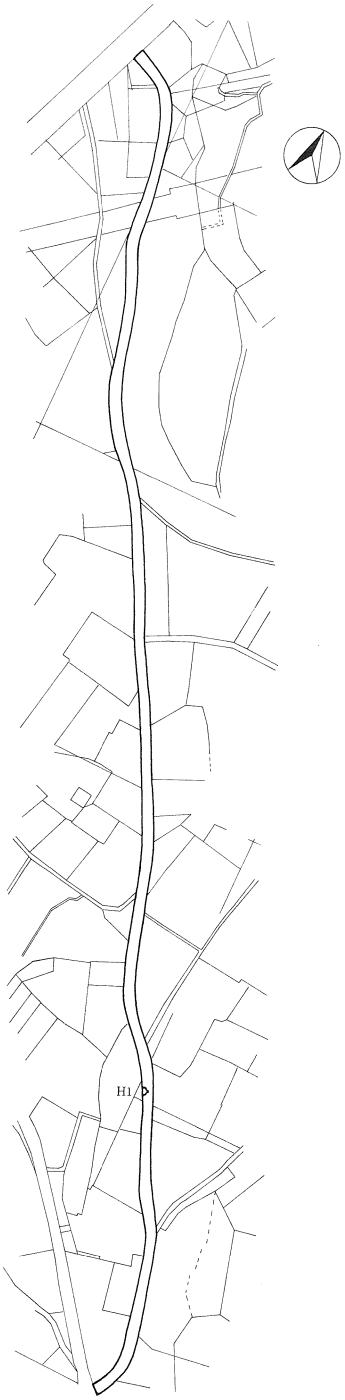
本遺跡では1992年に跡坂遺跡群１が、1995年に跡坂遺跡群２・跡坂遺跡群３がそれぞれ試掘調査されている。いずれからも遺構は検出されていない。「田切り」の西に展開している栗毛坂遺跡群前藤部遺跡は1996年度・1997年度に発掘調査され、平安時代の竪穴住居址10軒、中世の掘立柱建物址４棟・竪穴状遺構82基・土坑939基・溝38条が検出された。

今回、佐久市耕地課が農道の整備事業を計画したので、1997年10月28日～11月７日試掘調査を実施した。

調査の概要

遺跡群を南北に縦断するような全長732ｍの長い試掘トレンチとなったが、対象地の南端から竪穴住居址１軒が確認されただけであった。その付近以外のトレンチから出土遺物はない。

試掘調査に引き続き発掘調査を実施した。



跡坂遺跡群跡坂遺跡調査全体図（1：4000）

Ｈ１号住居址

本址は、調査区の南端から検出された。南半分は調査区外にのびており全貌は、不明である。遺構確認面は、浅間第一軽石流上面である。

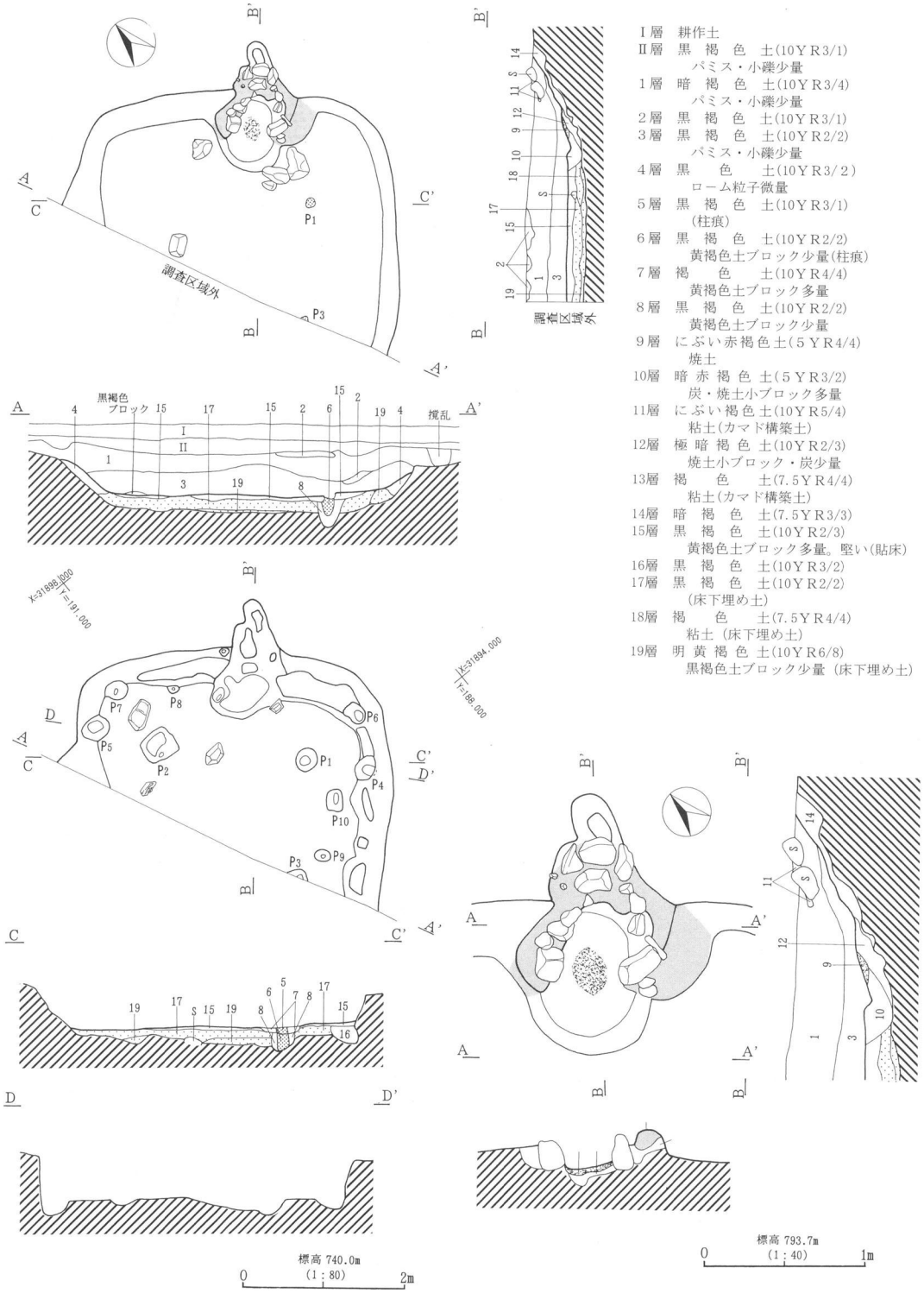
北壁3.6ｍを測る。確認面からの深さは、西壁で50㎝を測り、カマドを中心とする主軸方位はＮ－40°－Ｗを示す。

柱穴は貼床面から２個検出された。径約15㎝ほどの黒褐色の柱痕が確認された。柱穴の掘り方は、Ｐ１が径30㎝深さ40㎝、Ｐ３が径30㎝深さ28㎝を測る。貼床下からは、８個のピットが検出された。Ｐ２は位置から見てＰ１・Ｐ３とともに主柱穴であろう。東西の壁直下に対峙する位置で、深さ10㎝のＰ４・深さ18㎝のＰ５と、深さ12㎝のＰ６・深さ５㎝のＰ７がある。

床面はおおむね堅く平坦であるが、東壁際が緩く上がっている。床下の掘り方には主に明黄褐色土と黒褐色土が埋められていた。掘り方は、ほぼ平らに掘られている。北西コーナー付近から長辺40㎝の安山岩が出土した。

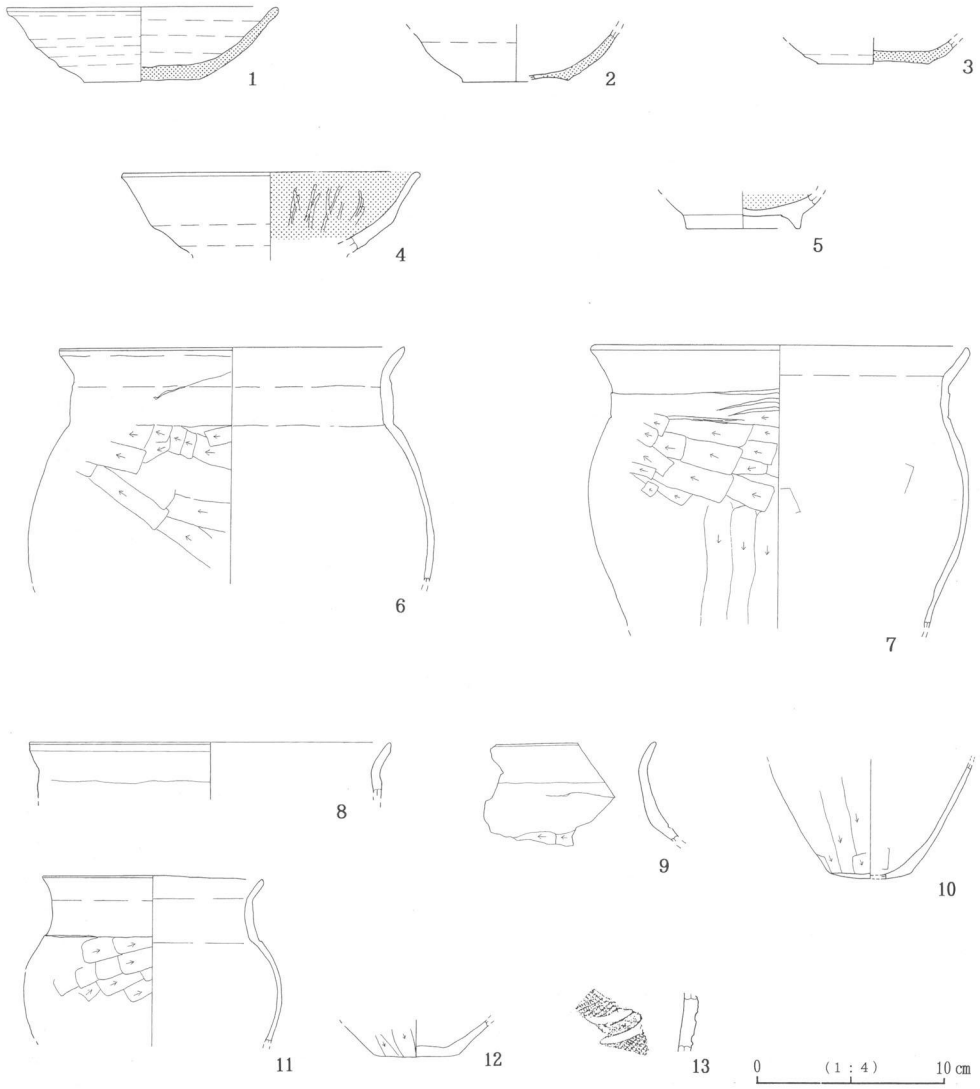
覆土は３層に分割されたが、２層の黒色土は、ブロック状に堆積している。

カマドは北壁中央に設置されていた。袖部と煙道路の一部が残っていた。袖部と煙道部は、加工されていない軽石と安山岩を芯とし、褐色の粘土および極暗褐色土で覆って構築されている



Ⅰ層　耕作土
Ⅱ層　黒　褐　色　土(10YR3/1)
　　パミス・小礫少量
1層　暗　褐　色　土(10YR3/4)
　　パミス・小礫少量
2層　黒　褐　色　土(10YR3/1)
3層　黒　褐　色　土(10YR2/2)
　　パミス・小礫少量
4層　黒　　色　　土(10YR3/2)
　　ローム粒子微量
5層　黒　褐　色　土(10YR3/1)
　　(柱痕)
6層　黒　褐　色　土(10YR2/2)
　　黄褐色土ブロック少量(柱痕)
7層　褐　　色　　土(10YR4/4)
　　黄褐色土ブロック多量
8層　黒　褐　色　土(10YR2/2)
　　黄褐色土ブロック少量
9層　にぶい赤褐色土(5YR4/4)
　　焼土
10層　暗赤褐色土(5YR3/2)
　　炭・焼土小ブロック多量
11層　にぶい褐色土(10YR5/4)
　　粘土(カマド構築土)
12層　極暗褐色土(10YR2/3)
　　焼土小ブロック・炭少量
13層　褐　　色　　土(7.5YR4/4)
　　粘土(カマド構築土)
14層　暗　褐　色　土(7.5YR3/3)
15層　黒　褐　色　土(10YR2/3)
　　黄褐色土ブロック多量。堅い(貼床)
16層　黒　褐　色　土(10YR3/2)
17層　黒　褐　色　土(10YR2/2)
　　(床下埋め土)
18層　褐　　色　　土(7.5YR4/4)
　　粘土(床下埋め土)
19層　明黄褐色土(10YR6/8)
　　黒褐色土ブロック少量(床下埋め土)

跡坂遺跡群跡坂遺跡　H1号住居址実測図



跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址出土遺物実測図

出土遺物には、須恵器・甕・土師器坏・甕がある。

須恵器坏には２・３は覆土３層中、１は貼床下の埋め土中から出土した。いずれも底部回転糸切りである。４・５は内面黒色研磨された土師器坏で、４はカマドから出土している。６～12は土師器甕で、長胴甕、小形甕がある。コの字状口縁を呈し、最大径は胴部上半にある。

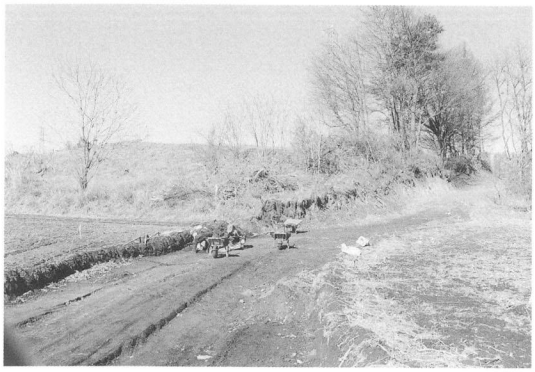
これらの遺物から本住居址は、９世紀後半に位置する。

跡坂遺跡群跡坂遺跡遠景（北方から）

跡坂遺跡群跡坂遺跡近景（南方から）

跡坂遺跡群跡坂遺跡近景（北方から）

跡坂遺跡群跡坂遺跡近景（北方から）

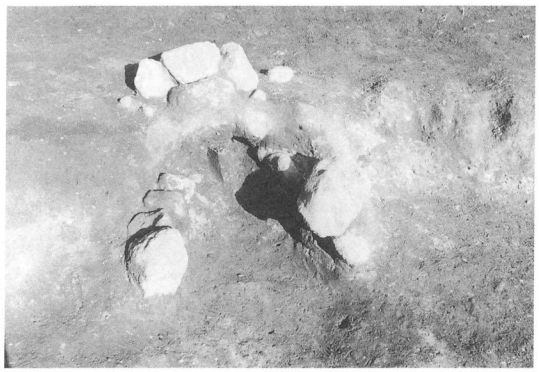


跡坂遺跡群跡坂遺跡近景（北方から）

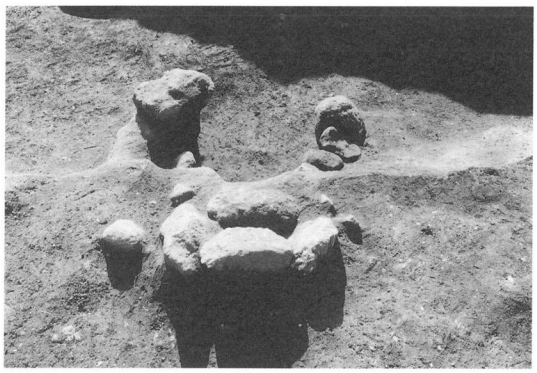
跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址（東方から）

跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址（北方から）

跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址掘り方（北方から）



跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址カマド（南方から）



跡坂遺跡群跡坂遺跡　Ｈ１号住居址カマド（北方から）

14　中西の久保遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字岩村田字中西ノ久保
2423外、字南西ノ久保2427外

開発委託者　佐久市土木課

開発事業名　市道改良
緊急地方道整備事業

調 査 期 間　平成９年11月14日～
平成10年３月11日

調 査 面 積　1,585㎡

調査担当者　林　幸彦

中西の久保遺跡位置図（１：50,000）

立地と経過

中西ノ久保遺跡Ⅲは、湯川の第三段丘上にあり標高680ｍを測る。湯川との比高は約10ｍで従前は、遺跡の存在は希薄であるとされていた。これより高位の段丘上には、県内では稀少な形象埴輪等を出土した古墳群、弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落が検出された北西ノ久保遺跡、弥生時代中期の人面付土器が出土し弥生時代中期～平安時代の大集落が調査された一本柳遺跡群が所在する。しかし、1992年度の佐久公共下水道工事に伴う中西ノ久保遺跡Ⅰでは予想を覆して、古墳時代～平安時代の竪穴住居址18軒掘建柱建物址１棟等が検出され、この段丘上にも古代の集落が存在したことが判明した。さらに、1995年度には、国道141号バイパス工事に伴う中西ノ久保遺跡Ⅱの調査では、古墳時代～平安時代の竪穴住居址34軒、掘建柱建物址７棟等が確認され、各時代の集落が密集した状況で複合している事がわかった。

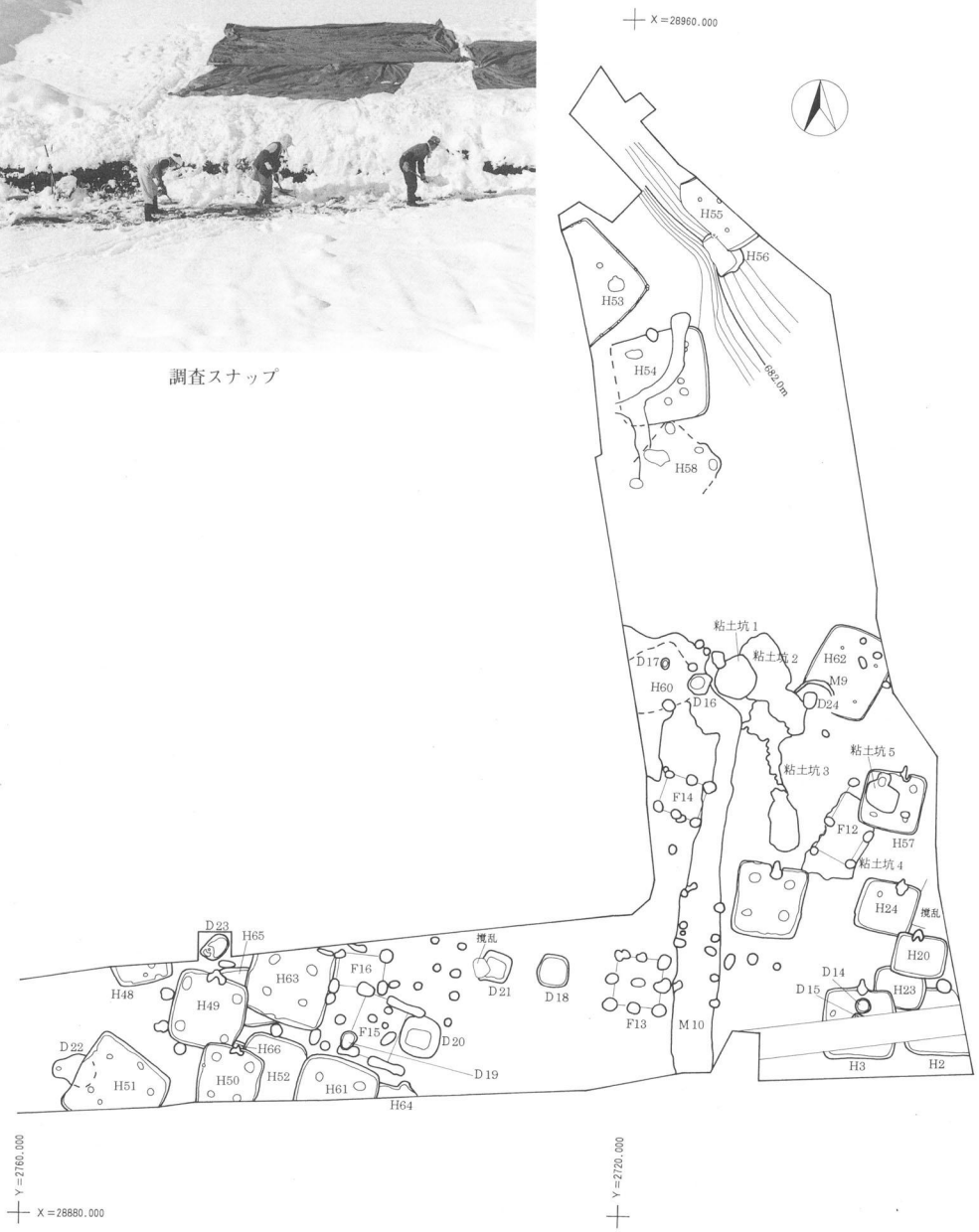
この両遺跡に隣接して市道改良が行われることになり、今回の発掘調査を実施した。対象地には一部、中西ノ久保遺跡Ⅰと重なるところがある。

調査の概要

調査の結果、本遺跡では初見の弥生時代後期の竪穴住居址・Ｓ字状口縁台付甕を伴う古墳時代前期の竪穴住居址・古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居址23軒、掘建柱建物址５棟、溝２本、土坑11基、粘土坑５基、ピット群が検出された。

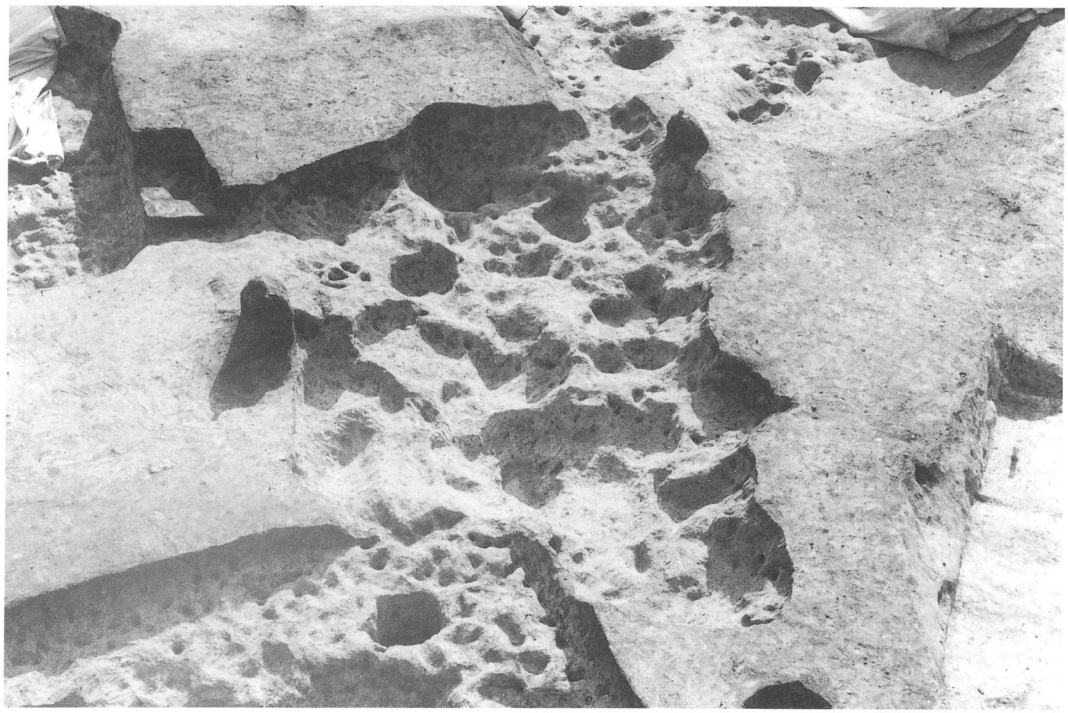
遺物は、弥生時代後期の土器、古墳・奈良・平安時代の土師器・須恵器、灰彩陶器長頸壺、古墳時代の滑石模造品等が出土した。

調査スナップ

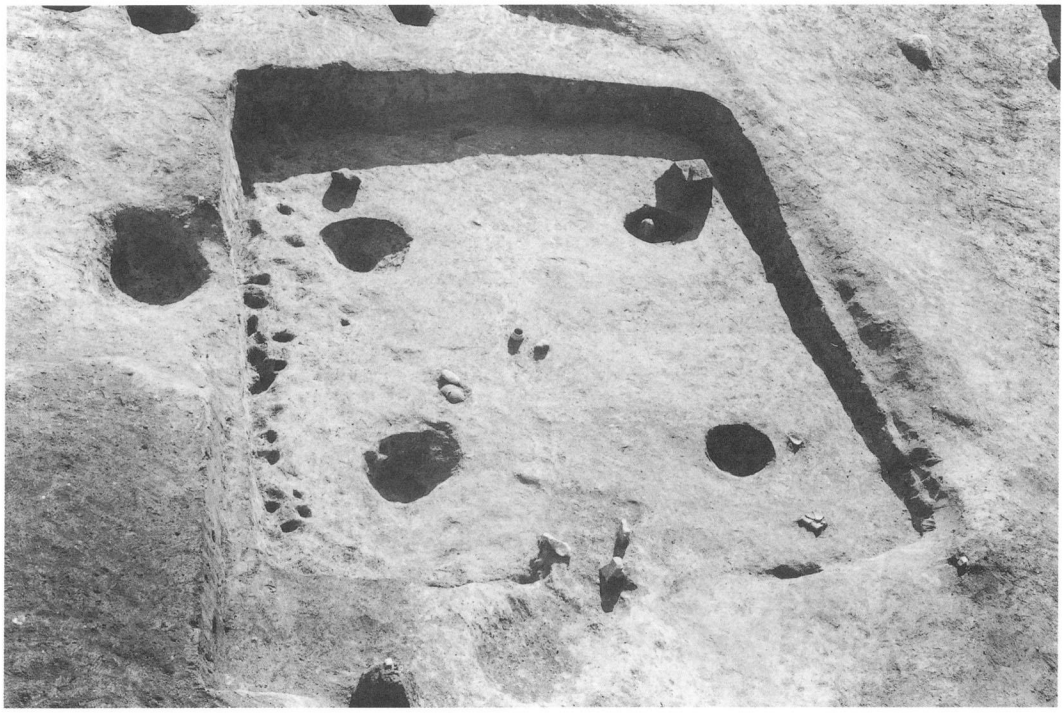


中西ノ久保遺跡Ⅲ調査全体図（1：500）

中西ノ久保遺跡Ⅲ調査区東側（北方から）



中西ノ久保遺跡ⅢＮ４号粘土坑（北方から）



中西ノ久保遺跡Ⅲ H59号住居址（北方から）

中西ノ久保遺跡Ⅲ D33号土坑（南方から）

15　西一本柳Ⅵ・松ノ木遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字松ノ木他

調査委託者　佐久建設事務所

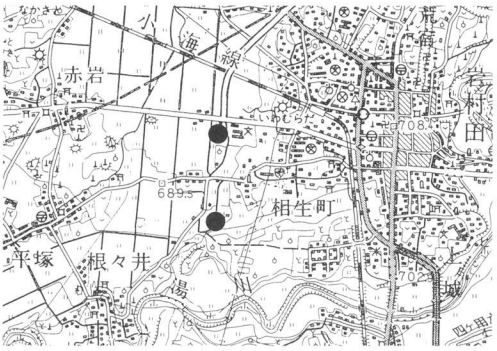
開発事業名　国道141バイパス建設工事

調 査 期 間　平成９年６月10日～８月25日

調 査 面 積　西一本柳　1,441㎡

松ノ木　　2,012㎡

調査担当者　林　幸彦

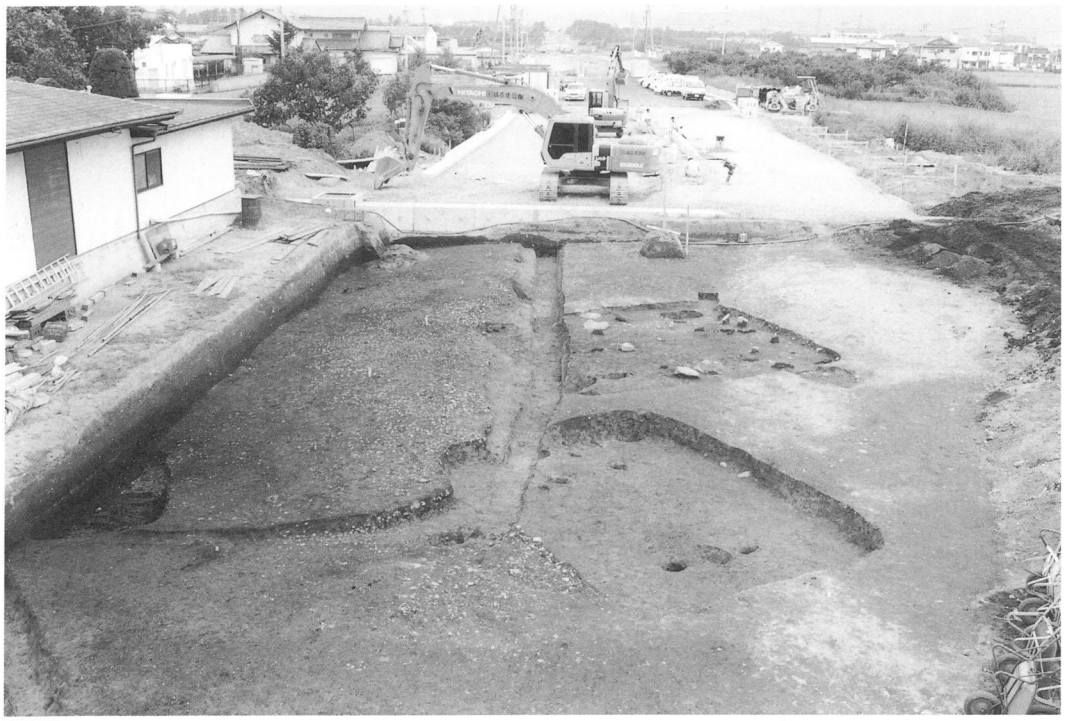


西一本柳遺跡Ⅵ・松ノ木遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

立地と経過

松ノ木遺跡は、佐久市立浅間中学校の西側に隣接している。遺跡付近では田切り地形が消滅し、対象地南端の塚原泥流の残丘から北に向けて、周辺の水田より２ｍ程高い微高地が形成されている。幅30ｍ程度の細い小規模な微高地である。松ノ木遺跡Ⅰの立地によく似る。

西一本柳遺跡Ⅵ・松ノ木遺跡Ⅱとも、国道141号バイパス工事に伴う継続調査である。

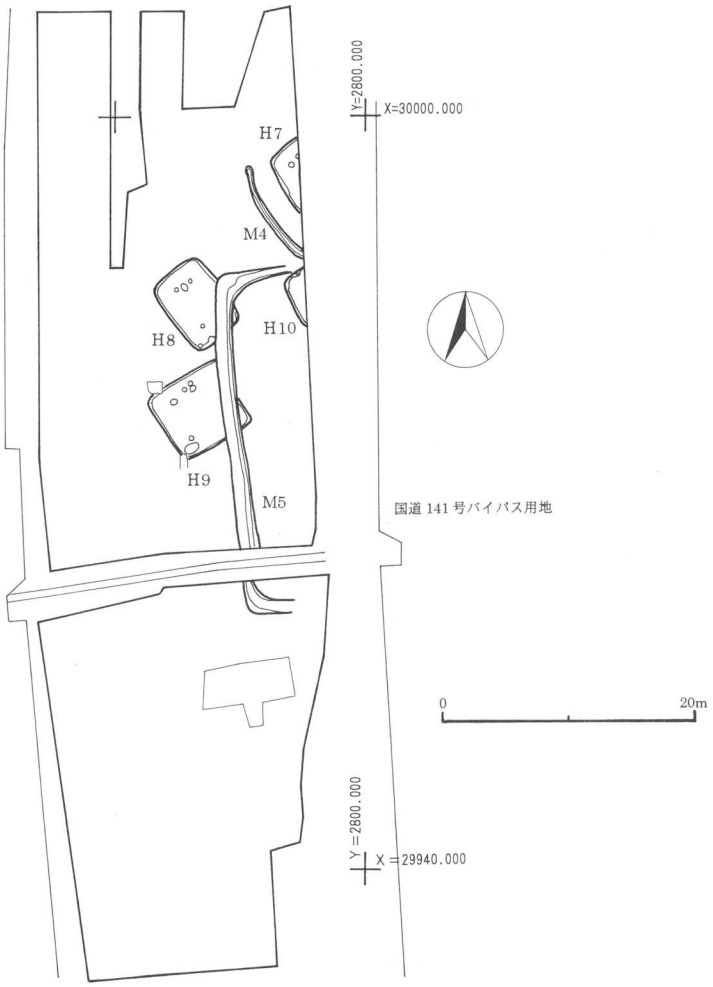


松ノ木遺跡Ⅱ全景（北方から）

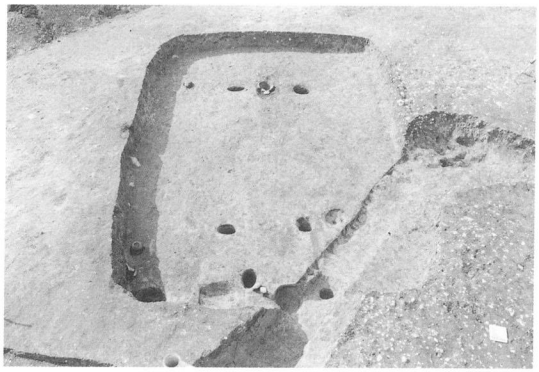
調査の概要

調査の結果、松ノ木遺跡からは、弥生時代後期の竪穴住居址４軒、溝３条等が検出された。

西一本柳遺跡Ⅵからは溝が７条検出された。



松ノ木遺跡Ⅱ全体図（１：600）



松ノ木遺跡Ⅱ　Ｈ８号住居址（南方から）

松ノ木遺跡Ⅱ　Ｈ８号住居址炉（南方から）

16　久禰添遺跡

所　在　地　佐久市大字太田部西屋敷221－1外

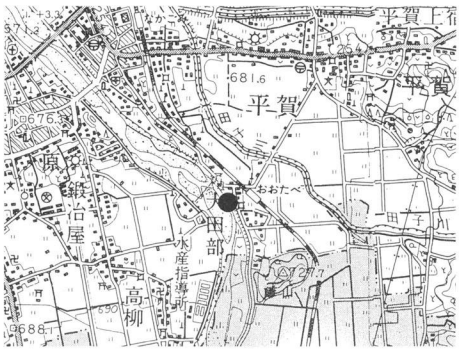
調査委託者　佐久建設事務所

開発事業名　緊急地方道路整備事業
（県道川上佐久線）

調 査 期 間　平成9年10月21日～12月11日

調 査 面 積　1,904㎡

調査担当者　林　幸彦



久禰添遺跡Ⅰ位置図（1：50,000）

立地と経過

久禰添遺跡Ⅰは、千曲川の右岸に沿って南北に長く展開し離れ山北裾に接している。対象地は、JR小海線太田部駅西方100ｍの地点にあり、標高685ｍを測る。弥生時代～平安時代の複合遺跡である。佐久建設事務所の県道川上佐久線整備事業計画地一帯は、千曲川との比高10ｍ弱であり、氾濫による遺構への影響が懸念されたので、試掘調査を実施した。多量の礫・砂に覆われた遺構が確認され、記録保存のための発掘調査が行われることになった。

調査の概要

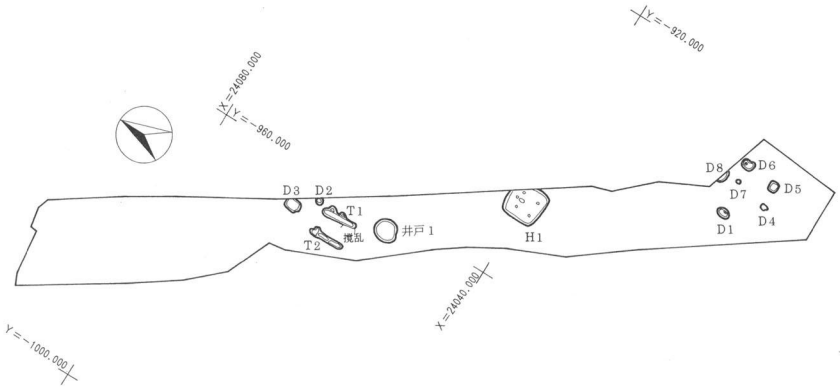
調査対象地は、南班が家屋移動後の宅地、北半が畑地である。表土下0.3～0.5ｍで河床礫・砂層・シルト質土の地山である。

対象地ほぼ中央から、覆土の大半を礫と砂が堆積している弥生時代後期の竪穴住居址1軒が検出された。消失住居であって、住居南半に氾濫による流失からのがれた炭化材が出土した。一辺5ｍを測り方形を呈する。北側の主柱穴間に炉がある。

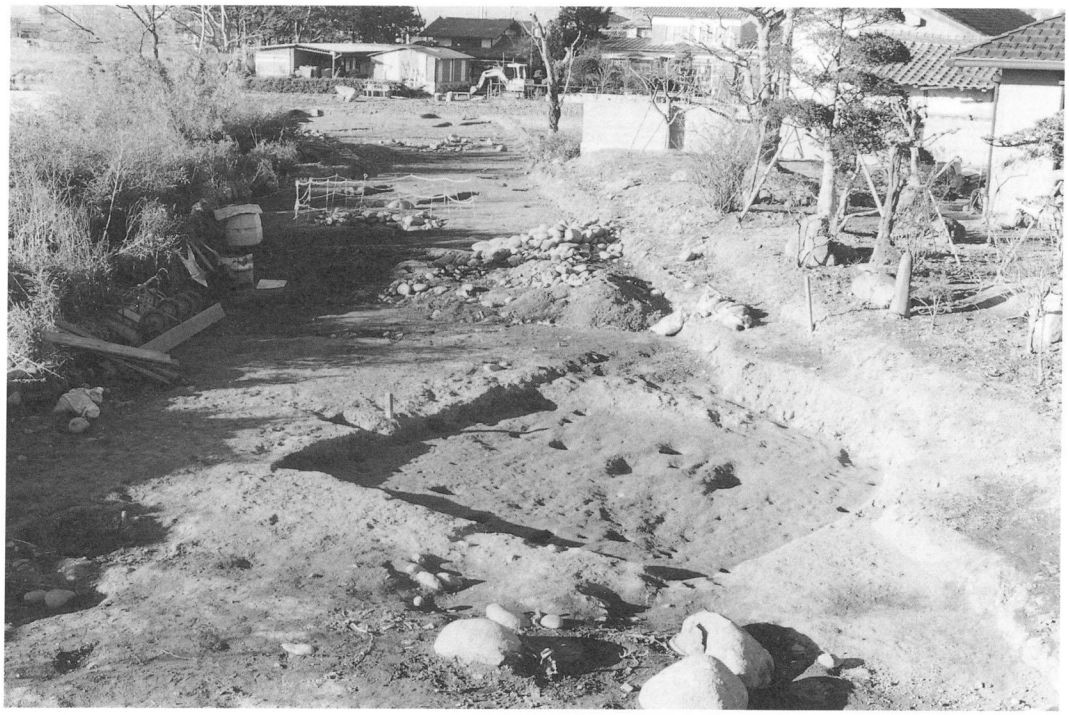
井戸址（南方から）

対象地の北側からは、中世の陶磁器類が出土したが、掘建柱建物址等の遺構は検出されなかった。中央付近と南側には数基の土坑が確認された。

中央部からは、石組みの井戸址も検出された。



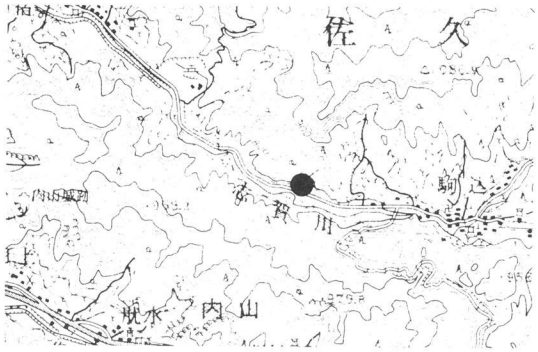
久禰添遺跡Ⅰ調査全体図（1：500）



久禰添遺跡Ⅰ調査全景（南方から）

17　地ヶ入遺跡

所　在　地　佐久市大字志賀字畳石1875他
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　緊急地方道整備事業
佐久市駒込
調 査 期 間　平成９年４月24日～９月26日
調 査 面 積　7,100㎡
調査担当者　羽毛田卓也



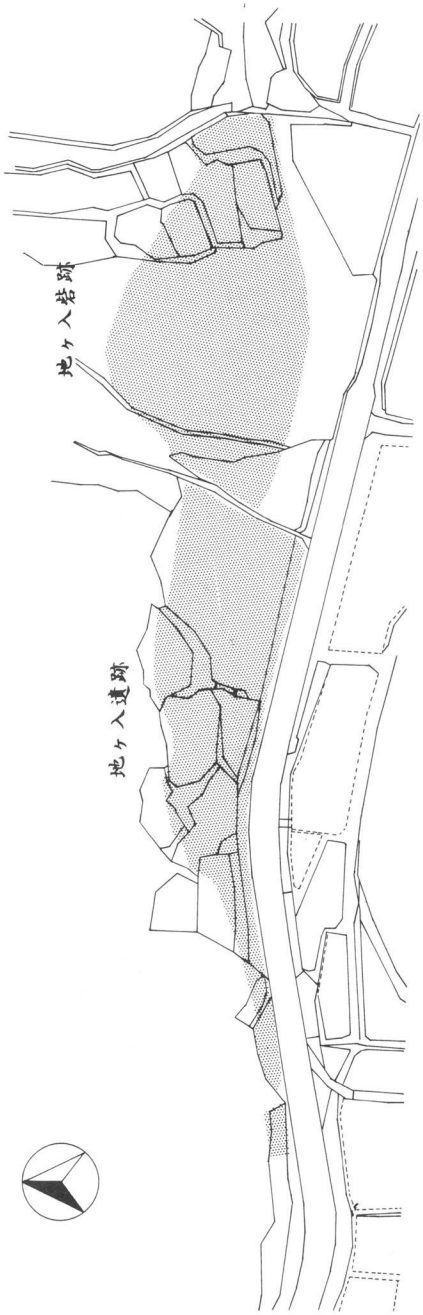
地ヶ入遺跡位置図（１：50,000）

経過と立地

地ヶ入遺跡は佐久市の東方山中に存在する縄文時代と平安時代の遺跡である。今回の調査地点は北側に中世の山城である笠原城を背景とした志賀川段丘最上面と、志賀川に向かい尾根状に飛び出した小山体である。標高は段丘平坦面で780m前後、突出尾根頂で807mを測る。

今回佐久建設事務所による緊急地方道整備事業に伴い調査を実施した。小山体の試掘調査を行った結果、中世の砦跡と確認されたため「地ヶ入砦跡」とし、調査を実施した。

地ヶ入遺跡中世集落　（東より）



地ヶ入遺跡・地ヶ入砦調査位置図（1：2,000）

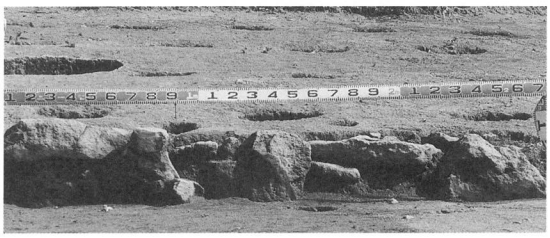
調査概要

今回の調査により、笠原城の出丸突端部であろう砦跡と隣接する中世集落が発見された。砦跡からは、頂上付近の岩陰から五輪を伴う中世墳墓が3基が、集落からは斜面と岩盤を利用した火葬施設が検出された。

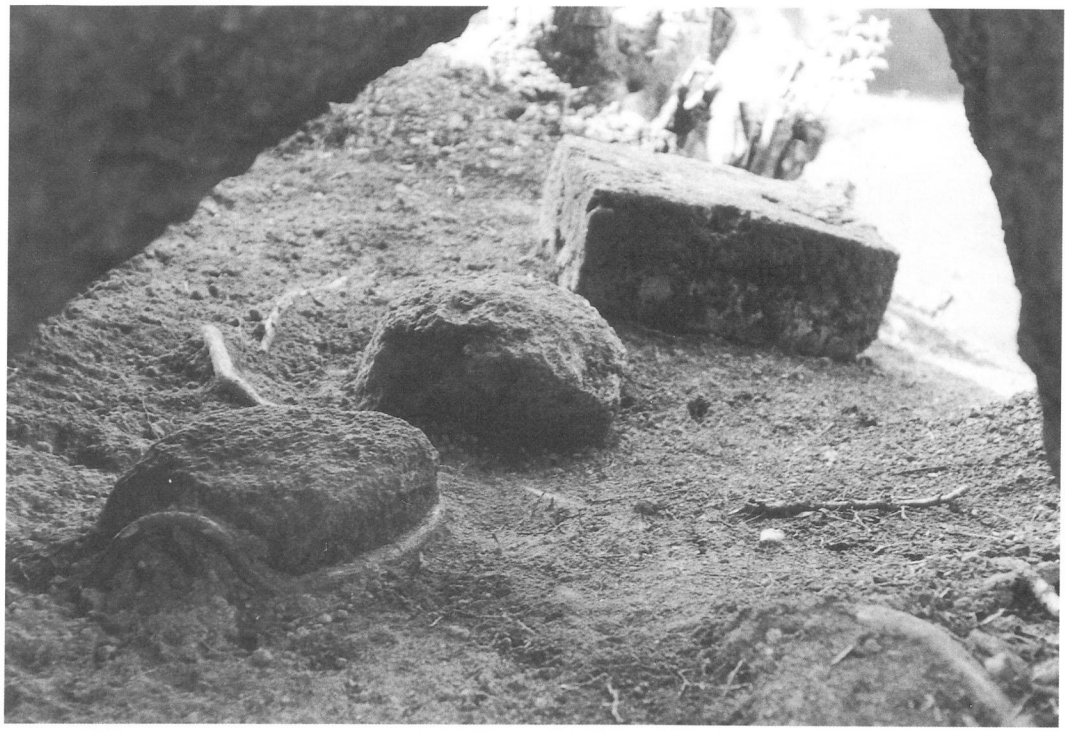
検出された遺構

地ヶ入砦跡	曲輪・段曲輪	多数
	石垣	1ヶ所
	墳墓	3基
地ヶ入遺跡	竪穴遺構	7軒
	土坑	7基
	地下式土坑	1基
	火葬施設	1基
	柱穴・柵列	多数
	石垣	3ヶ所
	道祖神（江戸後期）	1ヶ所
	馬頭観音（江戸後期）	1ヶ所
	縄文時代の遺物包含層	3ヶ所

中世の大型竪穴建物址（南西より）



中世の大型竪穴建物址　北側石垣



砦頂上岩陰の五輪地輪検出状況

砦頂上岩陰の中世墓（五輪下部掘り下げ状況）

地ヶ入砦跡　全景（西方より）

地ヶ入砦跡　全景（東方より）

18　地ヶ入遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字志賀字畳石1856外

調査委託者　佐久建設事務所

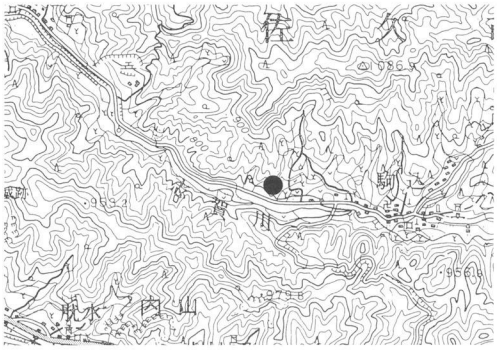
開発事業名　緊急地方道路整備事業

佐久市駒込

調 査 期 間　平成９年８月28日～10月20日

調 査 面 積　3,880㎡

調査担当者　林　幸彦



地ヶ入遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

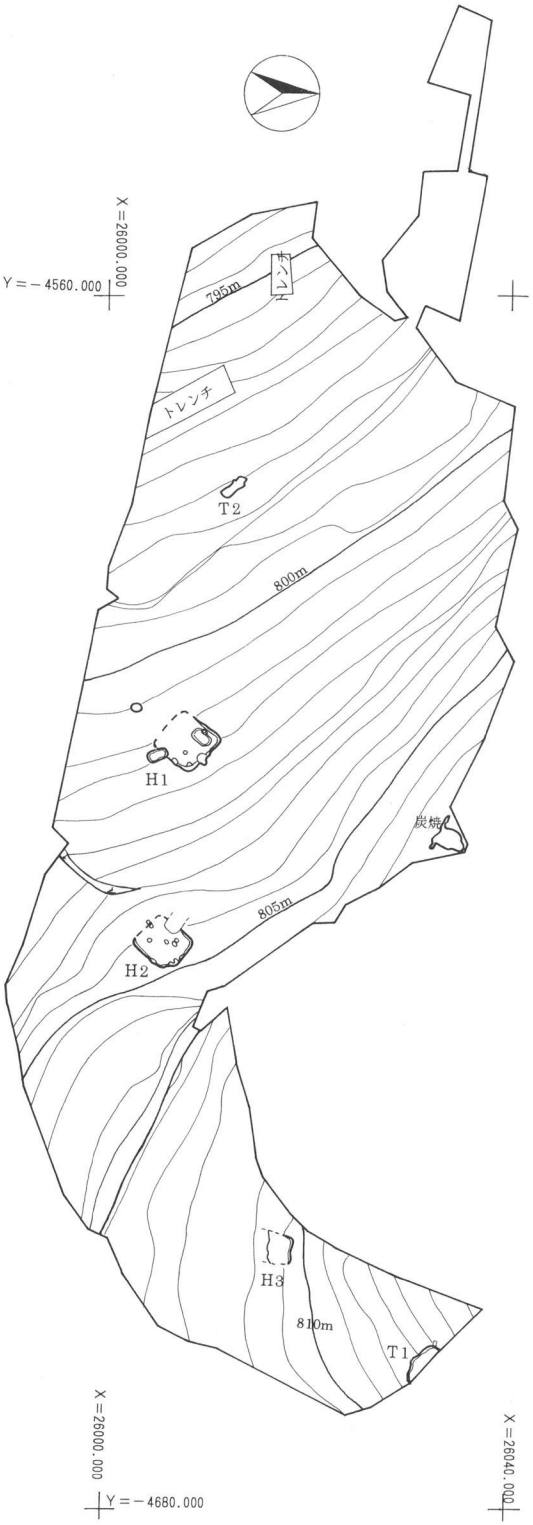
立地と経過

地ヶ入保遺跡Ⅱの眼下には、県道南野牧・浅間線と志賀川が西に並走している。遺跡は標高800ｍを測り、志賀川北側の極小規模な東西に細長い台地上にある。東側の畳石遺跡、西側の地ヶ入遺跡Ⅰとは、志賀側に南流する小河川により分かれている。県道改良工事に先立ち、昨年の試掘調査の結果により、発掘調査を実施することになった。

地ヶ入遺跡Ⅱ調査区（北方から）

調査の概要

調査の結果、平安時代の竪穴住居址３軒、特殊遺構２基、縄文時代中期の土坑１基が検出され、また、各グリッドの遺物包含層からは、多くの縄文時代早期～中期の土器・石器が出土した。



地ヶ入遺跡Ⅱ調査全体図（1：750）

地ヶ入遺跡Ⅱ調査区（北方から）

19　岩村田遺跡群　中宿遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字中宿808－1

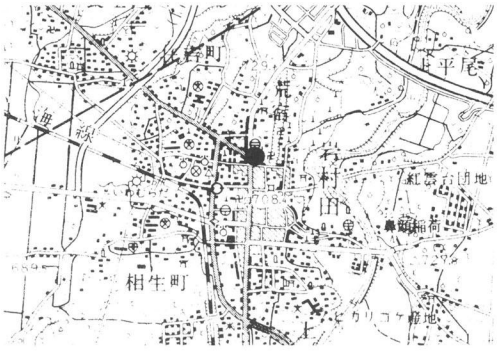
調査委託者　医療法人三世会金沢病院

開発事業名　病院増築

調 査 期 間　平成９年４月１日～４月24日

調 査 面 積　450㎡

調査担当者　佐々木宗昭



中宿遺跡位置図（１：50,000）

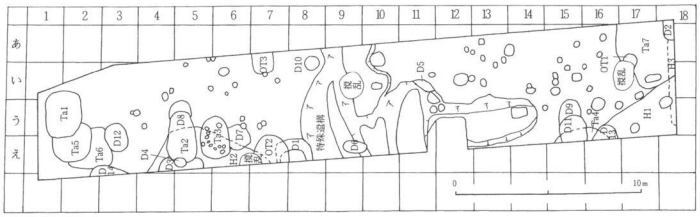
経過と立地

中宿遺跡は佐久市岩村田に所在し、田切り台地上に細長く展開する縄文時代から中世にかけての複合遺跡である岩村田遺跡群の南東部に位置し、標高は約710m を測る。

今回医療法人三世会金沢病院が病院拡張事業を計画したため試掘調査を実施した。試掘調査の結果遺構が確認されたため本調査を実施した。

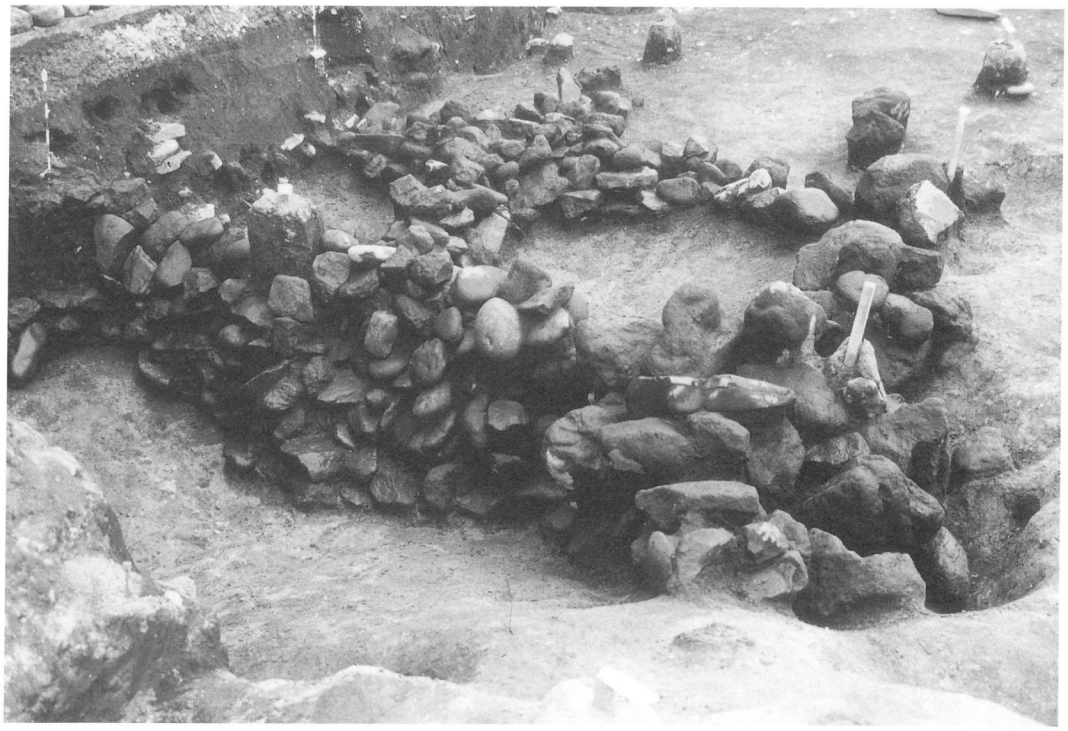
調査の概要

調査の結果、住居址３軒（古墳時代後期２軒・時代不明１軒）、中近世の竪穴建物址７軒、土坑14基、墓坑３基、ピット群、特殊遺構１ヶ所が検出された。遺物は古墳時代の土器、中近世の陶磁器・土師質土器・土鍋・火鉢・羽口・鉄滓・鉄製品・石製品・古銭・銅製品・宝篋印塔相輪下部と上部・五輪塔地輪部と火輪部などが出土した。また志野織部の向付破片・織部大皿破片などの近世の貴重な陶器も出土した。



中宿遺跡全体図（１：400）

特殊遺構（南方より）



特殊遺構　集石検出状況（東方より）

20　宮の上遺跡群　割地遺跡

所　在　地　佐久市大字横和字割地218他
調査委託者　社団法人佐久市開発公社
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成９年４月９日～４月23日
調 査 面 積　745㎡
調査担当者　羽毛田卓也

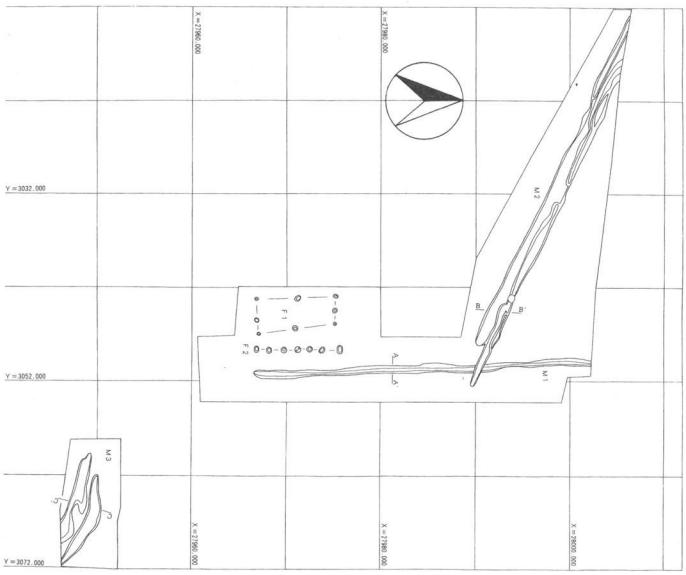
割地遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

宮の上遺跡群は佐久市中央部に展開する縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は、遺跡群南東端の帯状台地中央に位置する。佐久市開発公社による宅地造成事業が計画されたため試掘調査を行った結果、遺構が検出されたため今回調査を実施した。

調査概要

調査の結果、中世の建物址１棟・柵列１条・溝状遺構１条、近世の道路址２条が検出された。遺物は、石鏃や土師器・陶磁器などが出土した。



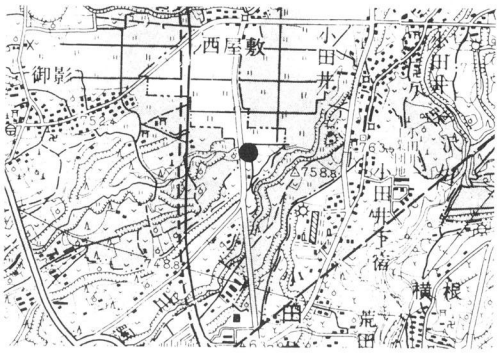
割地遺跡全体図（１：800）

道路址全景（東方より）

中世の大型建物址（南より）

21　曽根城遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字小田井字曽根城197－3
調査委託者　株式会社平和不動産
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成９年４月７日～４月12日
調 査 面 積　約80㎡
調査担当者　羽毛田卓也



曽根城遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

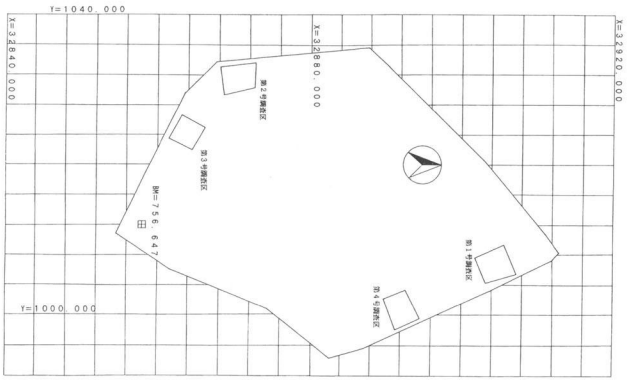
経過と立地

曽根城遺跡は、佐久市北方の小田井地籍に所在する縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。前回平成４年度の試掘調査の際に、奈良時代の住居址が検出されている。今回の調査地点は、本遺跡中央北端の標高757m内外を測る帯状台地中央に位置する。

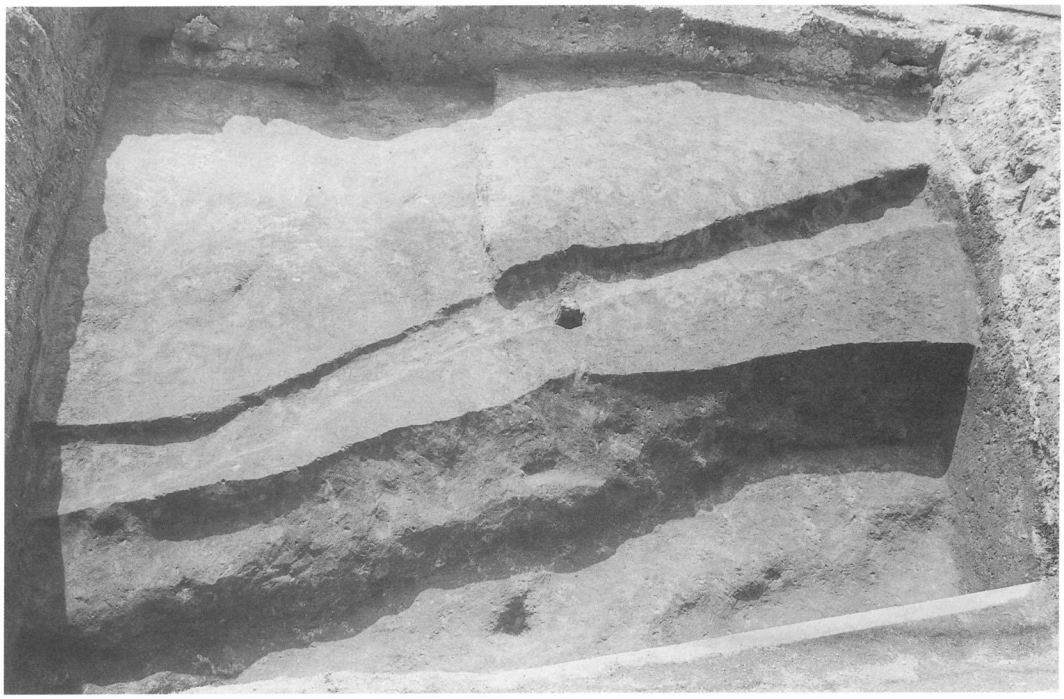
今回株式会社平和不動産が行う宅地造成に伴い試掘調査を行った結果多数の遺構が確認されたため本調査を実施した。また調査は宅地造成により破壊が免れない浄化槽設置部分のみ実施した。

調査概要

調査の結果、柱根を残したままの柱穴址１基、中近世の溝状遺構２条、古代の洪水流路跡３ヶ所等が確認された。遺物は古代の土師器・須恵器、中近世の陶磁器、石製品等が出土した。



曽根城遺跡Ⅱ調査区全体図（１：1,000）



中近世の溝址・ピット址全体写真（東より）

方形に加工された柱根の検出状態

22　蛇塚Ｂ遺跡群　野馬久保遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字新子田字野馬久保1930他

調査委託者　与志本林業株式会社

開発事業名　宅地造成

調 査 期 間　平成９年５月８日～５月20日

調 査 面 積　約1,000㎡

調査担当者　羽毛田卓也

野馬久保遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

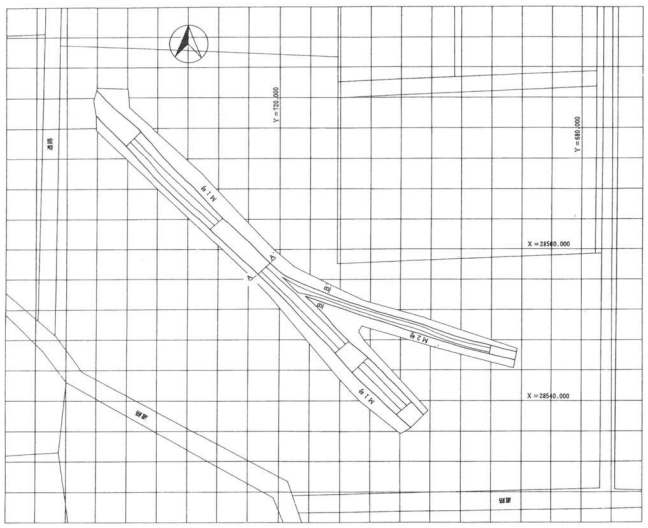
経過と立地

蛇塚Ｂ遺跡群は佐久市中央東よりに所在する平安時代の遺跡群である。前回平成２年度の調査では平安時代の住居址と溝状遺構が確認されている。今回の調査地は本遺跡群南西端の標高703ｍ内外を測る帯状台地緩斜面に位置する。

今回、与志本林業株式会社が行う宅地造成に伴い試掘調査をした結果遺構が確認されたため、本調査を実施した。

調査概要

調査の結果、平安時代と考えられる溝状遺構２条が検出された。遺物は平安時代の墨書土器を含む土師器・須恵器・石製品、縄文時代の土器・石器等が出土した。



野馬久保遺跡Ⅱ全体図（１：1,000）

溝址全体写真（北西より）

溝址調査風景

23　周防畑遺跡群南近津遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字
南近津1163－６他

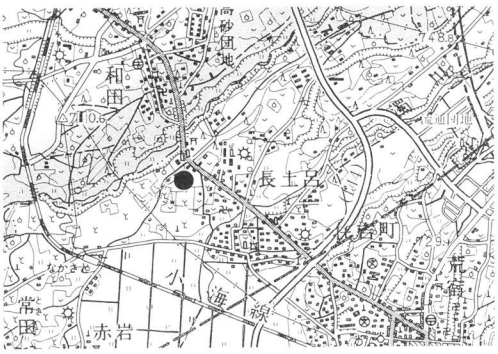
調査委託者　株式会社アメック

開発事業名　宅地造成

調 査 期 間　平成９年

調 査 面 積　2,020㎡

調査担当者　林　幸彦



周防畑遺跡群南近津遺跡位置図（１：50,000）

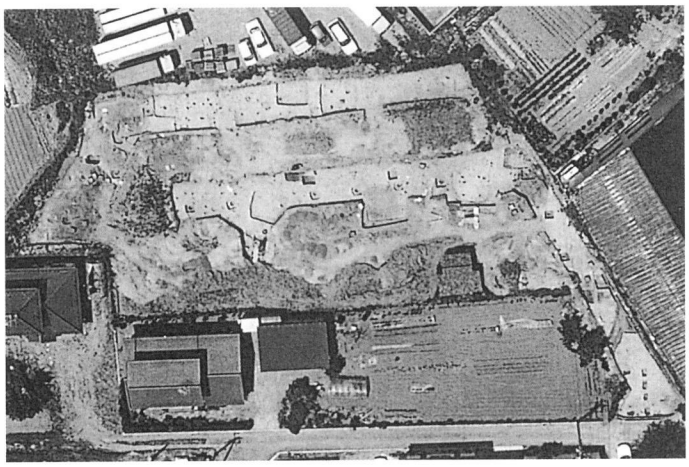
立地と経過

周防畑遺跡群は、佐久市の北部、田切り地形に挟まれた南西に長くのびる台地上に位置する。田切を挟んだ西方には近津遺跡群、東方には芝宮遺跡群・長土呂遺跡群が存在する。本遺跡群では周防畑Ａ遺跡、周防畑Ｂ遺跡、若宮遺跡Ⅰ、Ⅱの発掘調査が行われており、弥生時代後期～平安時代の竪穴住居址、掘建柱建物址、円形周溝墓等が調査されている。

昨年、株式会社アメックの宅地造成計画に伴い試掘調査を実施し、14軒の竪穴住居址が確認された。協議の結果、開発対象地の擁壁・道路部分の記録保存を、平成９年度に行うことになった。

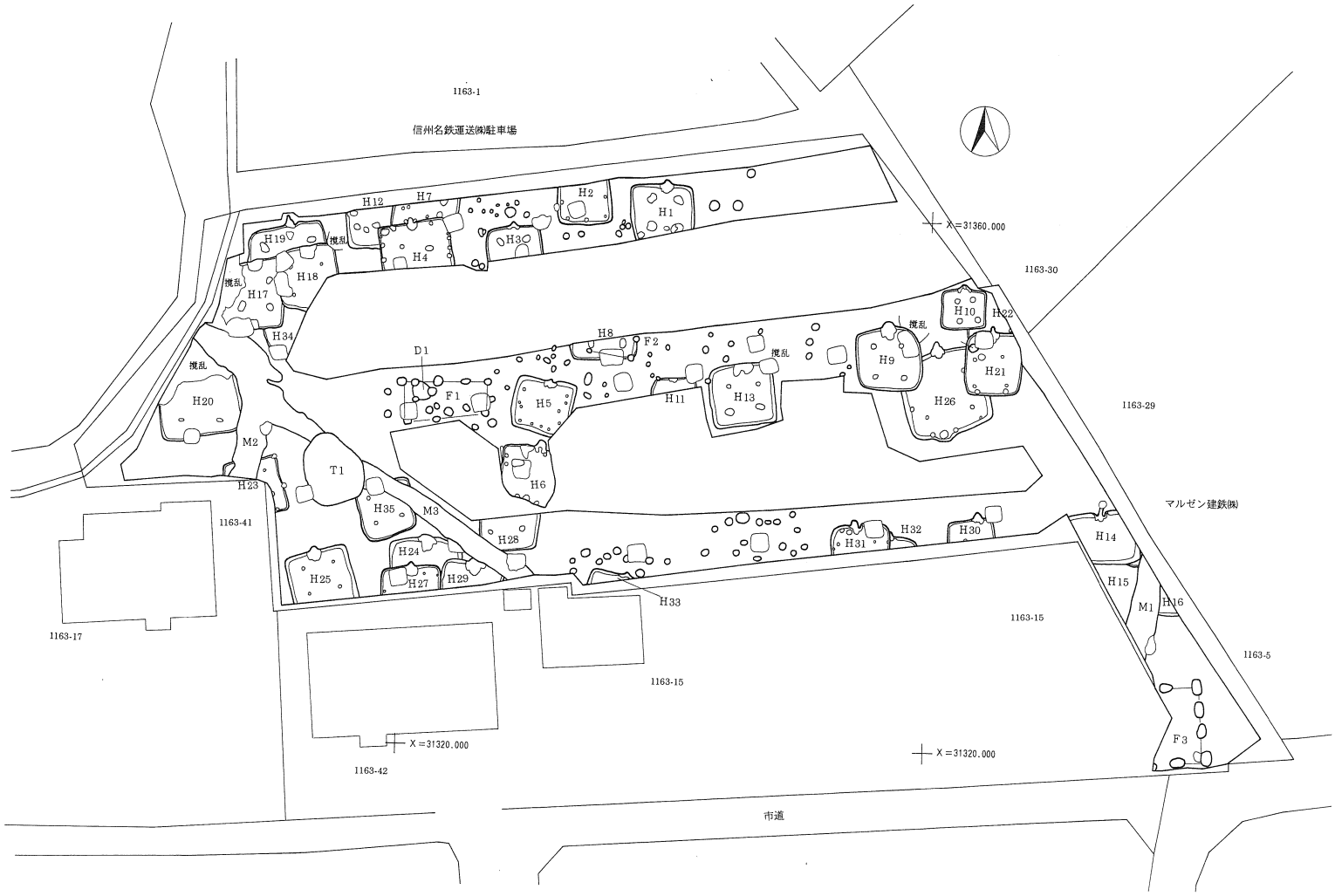
調査の概要

調査の結果、古墳時代～平安時代の竪穴住居址35軒、掘建柱建物址３棟、溝３条、土坑１基等が検出された。


周防畑遺跡群　南近津遺跡航空写真

遺物は、弥生時代後期土器古墳時代～平安時代の土師器・須恵器、鉄器、石器等が出土した。

墨書土器「大井」もみられる。



周防畑遺跡群南近津遺跡　調査全体図（1：500）

Ⅳ　前田遺跡群
姫子石遺跡調査報告書

例　言

・本書は平成８年度に調査した、長野県佐久市大字塚原に所在する前田遺跡群姫子石遺跡の発掘調査報告書である。

遺跡名　前田遺跡群姫子石遺跡

所在地　長野県佐久市大字塚原字井戸上1405－1、1405－2、1410－1、1409、1423、1422、1420
1421、1499
塚原字姫子石1494、1498、1500、1501、1502－２

・本調査は、佐久市新幹線高速道課の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。

・本調査は、冨沢一明を担当者として実施した。

・本書の執筆は、冨沢一明が行った。

・本調査に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

・遺跡の略称　TMH

・遺構の略称　竪穴状遺構→Ta　土坑→D　溝状遺構→M　掘立柱建物址→F

・遺構・遺物の縮尺は図中にスケールを付した。

・遺構の海抜標高は、各遺構ごとに統一し、スケール上に明記した。

・土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

・写真図版中の遺物の縮尺はその都度明記した。

前田遺跡群　姫子石遺跡

所　在　地　佐久市大字塚原字姫子石1405－1
外13筆

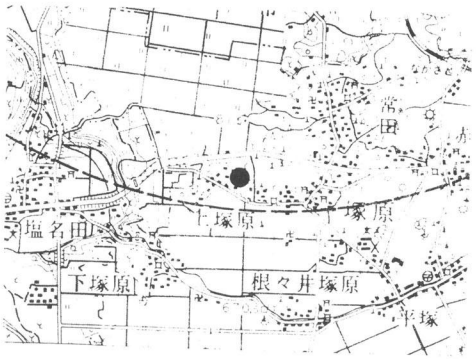
調査委託者　佐久市　新幹線高速道課

開発事業名　市道建設

調 査 期 間　平成８年４月１日～５月17日

調 査 面 積　3,377㎡

調査担当者　冨沢一明



姫子石遺跡位置図（１：50,000）

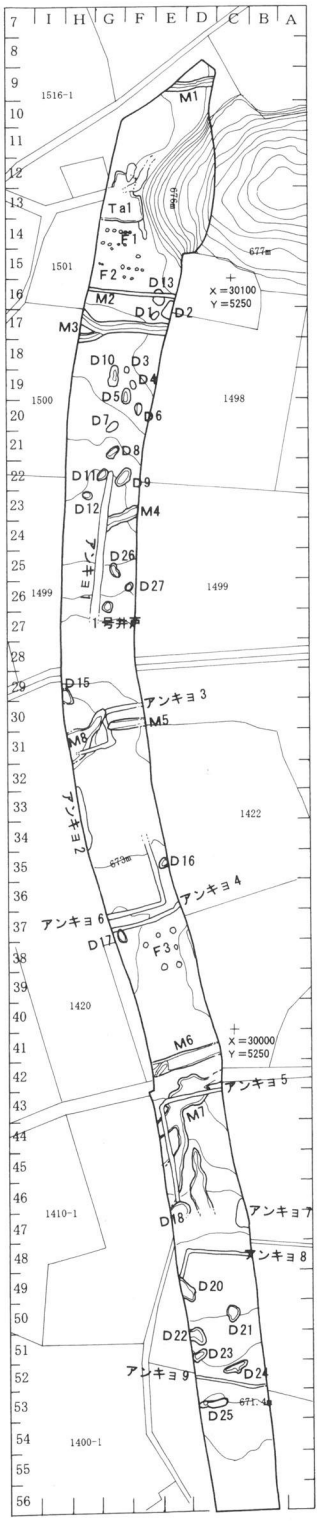
経過と立地

前田遺跡群は佐久市塚原に所在する。塚原地籍は浅間山の噴火による「塚原泥流」に覆われ、山体の崩落物質と噴出物で形成された「流れ山」が数多く見られる地域である。今回調査を行った姫子石遺跡の標高は673m前後を測り、南傾斜の地形である。周辺の遺跡としては、古墳時代前期の墳墓が発見された藤塚古墳群、同じく集落址が検出された藤塚遺跡と常田居屋敷遺跡などが所在する。今回、佐久市により市道新設工事が計画され試掘調査を行った結果、遺構が確認された為、発掘調査を行う運びとなつた。

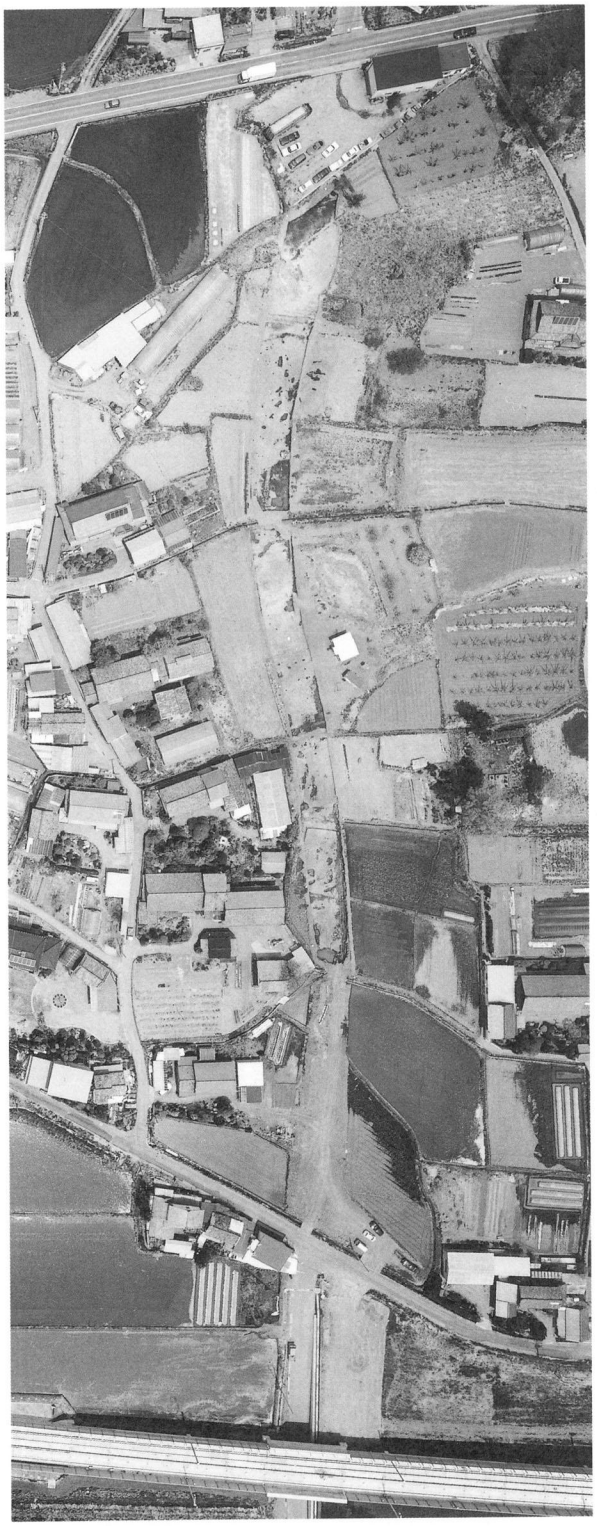
調査概要

本調査では、竪穴状遺構１基、土坑25基(D14.D19は欠番)、溝状遺構８本、掘立柱建物址３棟を検出した。出土遺物としては、縄文土器片、弥生土器高坏片、古式土師器甕・高坏片、内耳土鍋、陶器類、石臼、五輪塔などがあった。遺跡略記号は(TMH)とした。

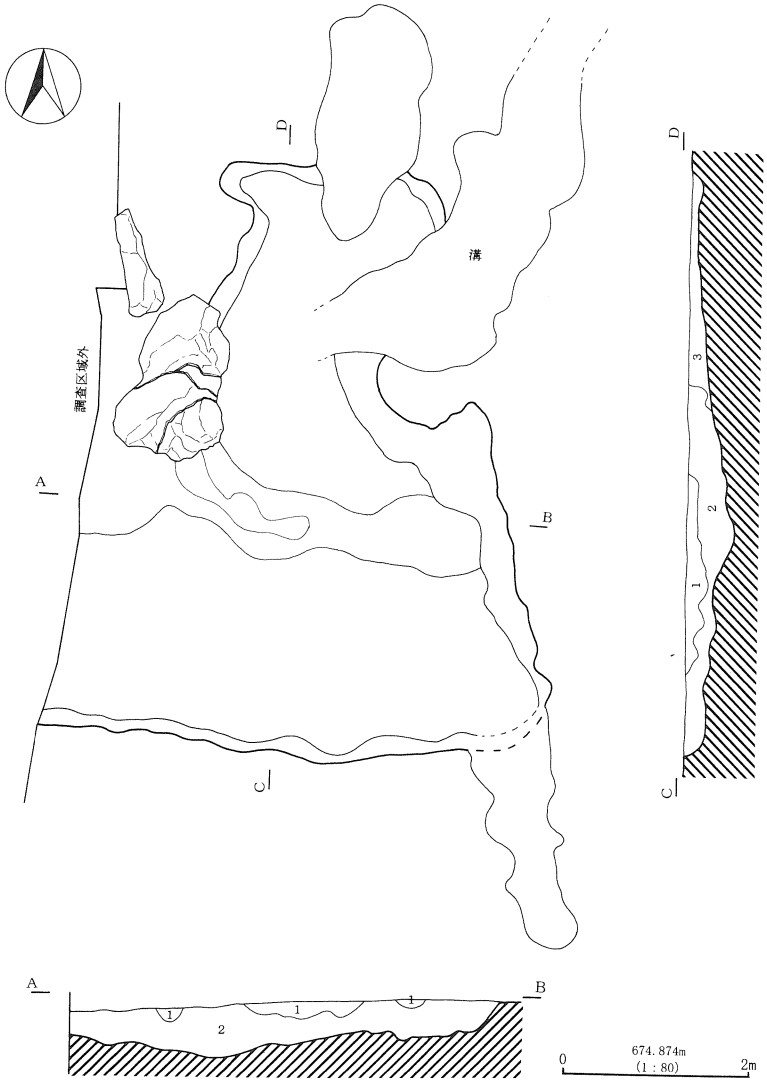
姫子石遺跡北側調査区全景（南より）



姫子石遺跡調査全体図（1：1,000）



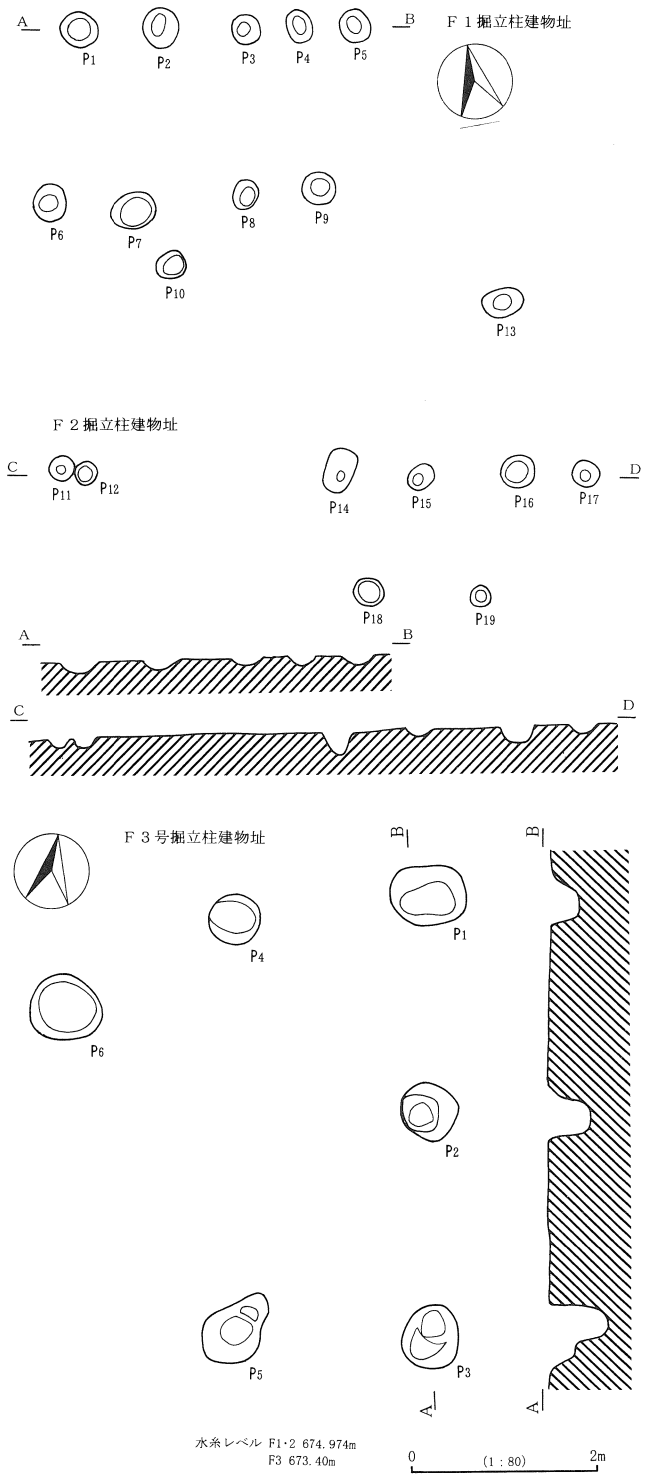
姫子石遺跡航空写真（株式会社協同測量社撮影）



1層　褐灰色土　10YR4/1　しまり、粘性弱く、炭化物を多く含む
2層　褐灰色土　10YR4/1　しまり、粘性弱い。小石を多く含む。軽石・ロームブロックを含む。
3層　褐 色 土　10YR4/6　しまりあり、粘性弱い。ローム粒子を多く含む。

Ta 1 竪穴状遺構実測図

本址は調査区の北側 F12～14、G12～14Gr に位置する。本遺構の東側には東西40m、南北25m、高さ３ｍの「流れ山」が存在し、流れ山を巡る区画溝によって残存状況は不良である。また西側には姫子石古墳群１号墳が所在するが、調査範囲では存在を確認できなかった。規模は検出値で東西壁長5.3m、南北壁長5.7m で、深さは16cmを測る。床と考えられる部分はは軟質で、貼床やピットは検出されなかった。遺構中央の巨石は地山の中に検出され、本址を構築中には表面が露出していたと考えられる。本址からの出土遺物は無かった。



F１・２・３号掘立柱建物址実測図

F１掘立柱建物址

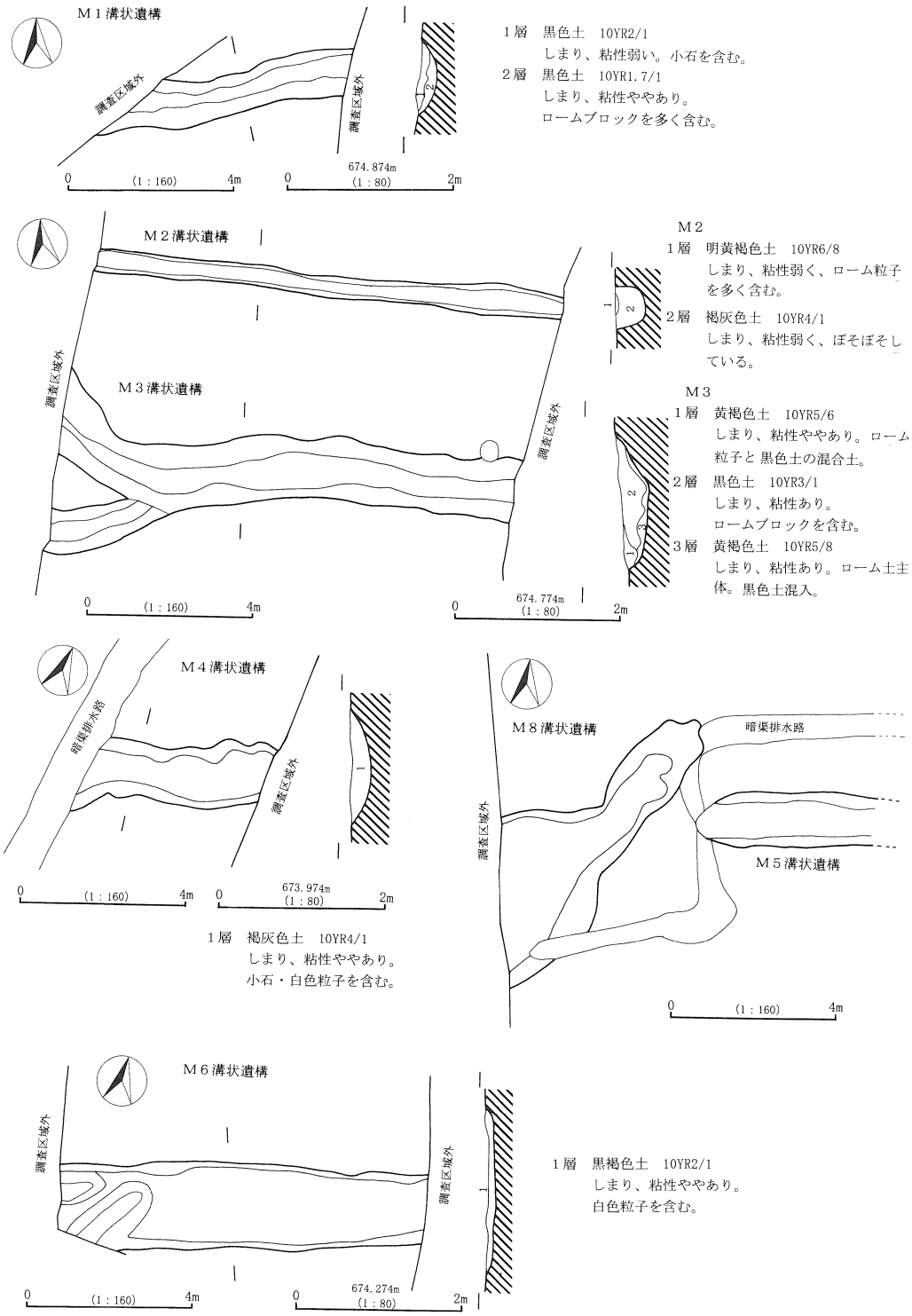
本 址 はF14.15Gr・G14.15Grに位置する。側柱式の掘立柱建物址と考えられるが規則性が弱く整然としない。規模はP１～P５が2.95m、P１～P６が1.80mを測る。ピットはほぼ円形を呈し、深さは６～14cmを測る。長軸方位はN－81°－Wを示す。

F２掘立柱建物址

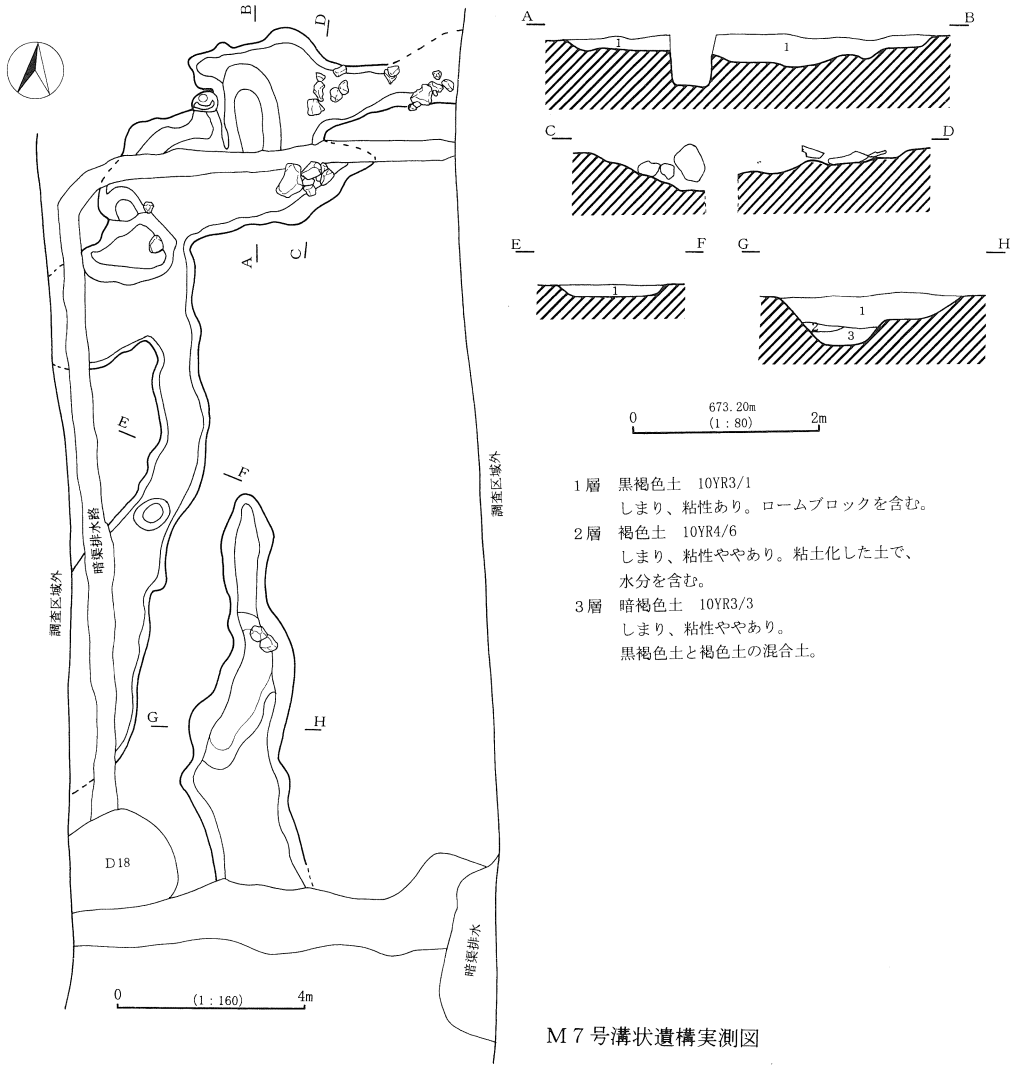
本 址 はF14.15・G14.15Grに位置する。側柱式の掘立柱建物址と考えられるが規則性が弱く整然としない。規模はP11～P17が5.56mを測る。ピットはほぼ円形を呈し、深さは３～22cmを測る。長軸方位はN－81°－Wを示す。以上のことより、F１とF２は不規則ではあるが、一つの建物址とも考えられる。

F３掘立柱建物址

本 址 はE37.38・F37.38Grに位置する。側柱式の掘立柱建物址と考えられるがP２に対応するピットが検出できなかった。規模はP１～P３が4.8mを測る。ピットはほぼ円形を呈し、深さは29～61cmを測る。長軸方位はN－10°－Wを示す。



M１～６・８溝状遺構実測図

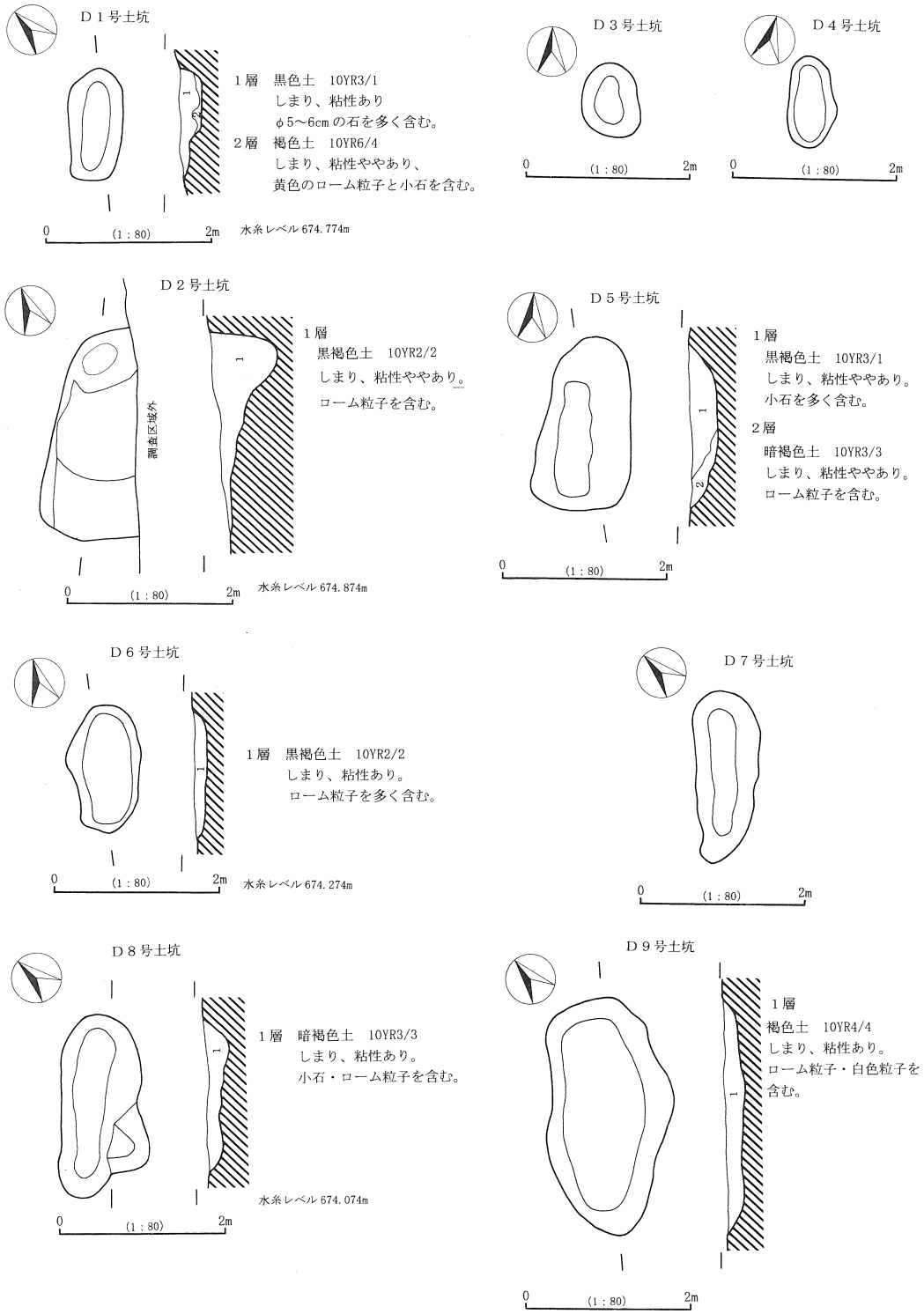


1層　黒褐色土　10YR3/1
しまり、粘性あり。ロームブロックを含む。
2層　褐色土　10YR4/6
しまり、粘性ややあり。粘土化した土で、
水分を含む。
3層　暗褐色土　10YR3/3
しまり、粘性ややあり。
黒褐色土と褐色土の混合土。

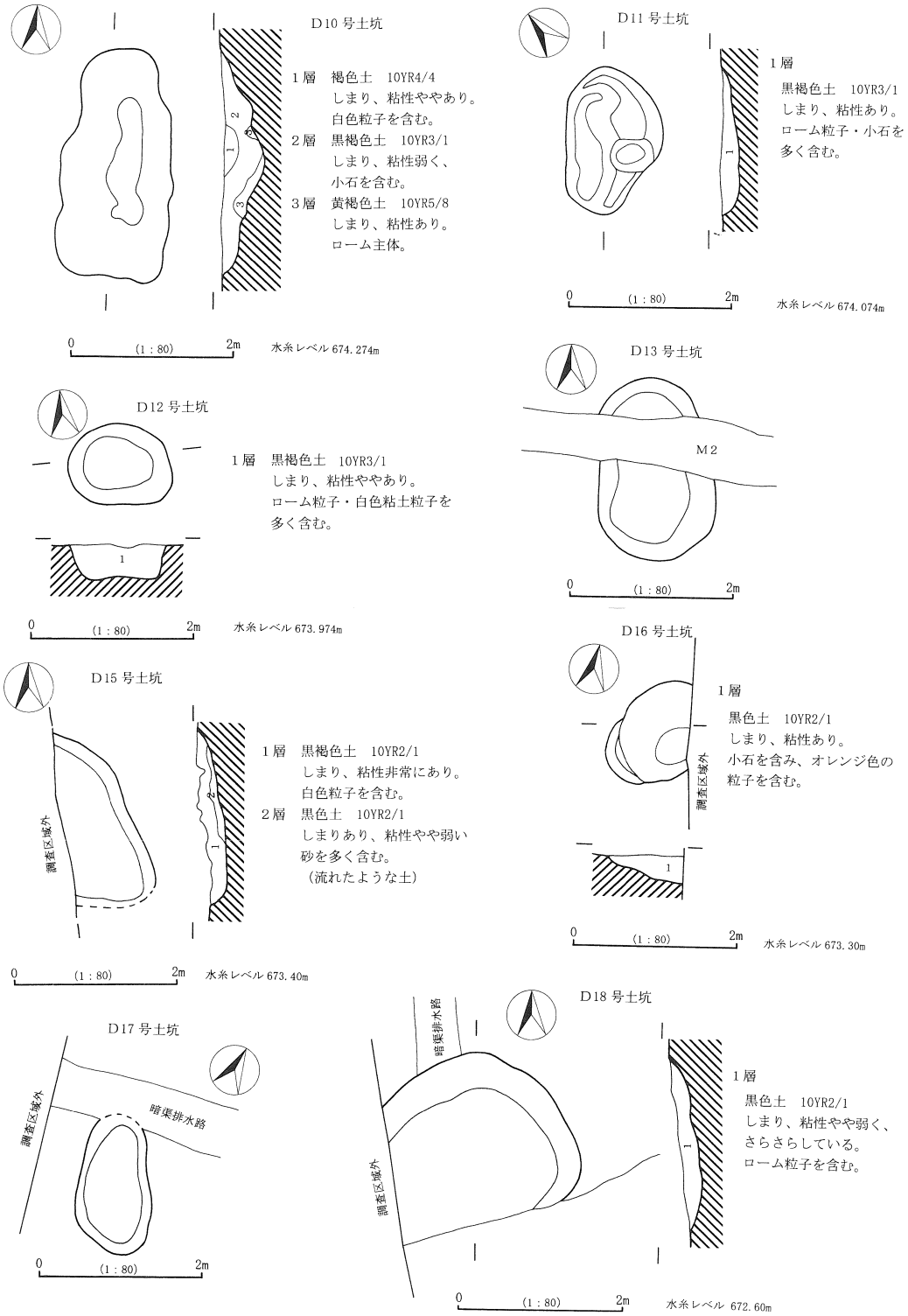
M７号溝状遺構実測図

溝状遺構規模一覧表

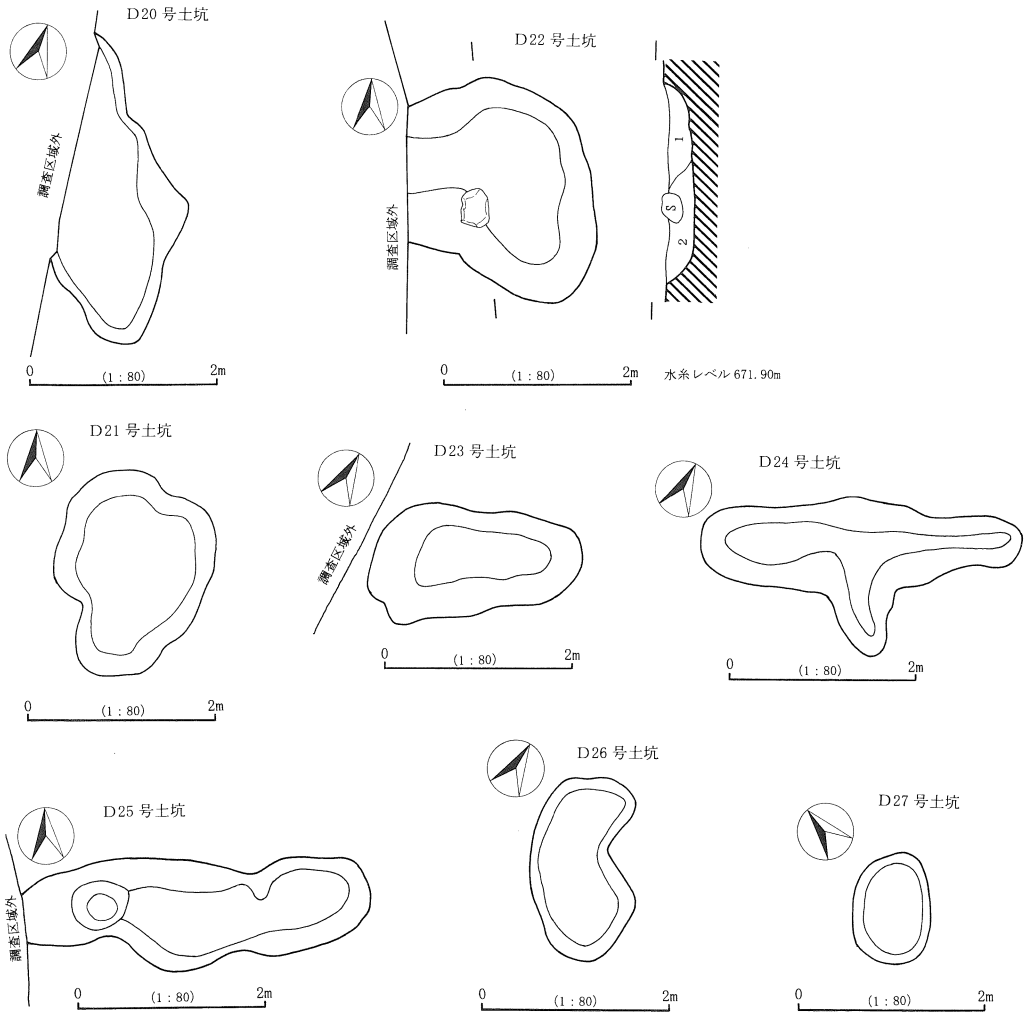
遺構名	検出位置	検出長(m)	幅(m)	深さ(m)	備　　考
M１	D-９・E-９	5.15	0.9	0.2	
M２	E～H-16	11.25	0.5	0.33	近世陶器出土、地籍境の溝か
M３	E～H-17	11.00	1.5	0.32	
M４	F-23・G-23	4.15	1.5	0.13	縄文土器片・土師器坏片出土
M５	F-30・G-０	4.20	1.3	0.14	近世陶器出土、地籍境の溝か
M６	D-41・E-41	8.58	2.1	0.35	
M７	D・E－42～46	18.00	2.9	0.18	流水の痕跡があり、磨耗した弥生土器片出土
M８	F-30・G-30	6.50	1.6	0.08	流水の痕跡あり


D１号土坑
１層　黒色土　10YR3/1
しまり、粘性あり
φ5～6cmの石を多く含む。
２層　褐色土　10YR6/4
しまり、粘性ややあり、
黄色のローム粒子と小石を含む。
0　(1：80)　2m
水糸レベル 674.774m
D３号土坑
0　(1：80)　2m
D４号土坑
0　(1：80)　2m
D２号土坑
調査区域外
１層
黒褐色土　10YR2/2
しまり、粘性ややあり。
ローム粒子を含む。
0　(1：80)　2m
水糸レベル 674.874m
D５号土坑
１層
黒褐色土　10YR3/1
しまり、粘性ややあり。
小石を多く含む。
２層
暗褐色土　10YR3/3
しまり、粘性ややあり。
ローム粒子を含む。
0　(1：80)　2m
D６号土坑
１層　黒褐色土　10YR2/2
しまり、粘性あり。
ローム粒子を多く含む。
0　(1：80)　2m
水糸レベル 674.274m
D７号土坑
0　(1：80)　2m
D８号土坑
１層　暗褐色土　10YR3/3
しまり、粘性あり。
小石・ローム粒子を含む。
水糸レベル 674.074m
0　(1：80)　2m
D９号土坑
１層
褐色土　10YR4/4
しまり、粘性あり。
ローム粒子・白色粒子を
含む。
0　(1：80)　2m

D１～９実測図

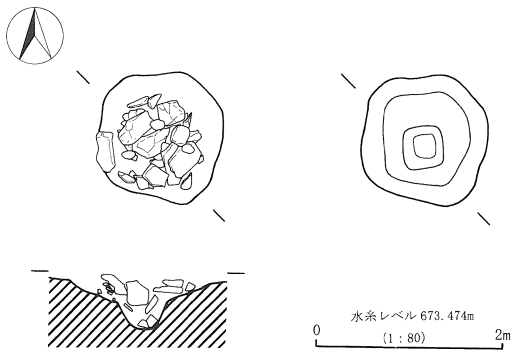

D10 号土坑
1層　褐色土　10YR4/4
しまり、粘性ややあり。
白色粒子を含む。
2層　黒褐色土　10YR3/1
しまり、粘性弱く、
小石を含む。
3層　黄褐色土　10YR5/8
しまり、粘性あり。
ローム主体。
0 (1：80) 2m
水糸レベル 674.274m
D11 号土坑
1層
黒褐色土　10YR3/1
しまり、粘性あり。
ローム粒子・小石を
多く含む。
0 (1：80) 2m
水糸レベル 674.074m
D12 号土坑
1層　黒褐色土　10YR3/1
しまり、粘性ややあり。
ローム粒子・白色粘土粒子を
多く含む。
0 (1：80) 2m
水糸レベル 673.974m
D13 号土坑
M2
0 (1：80) 2m
D15 号土坑
1層　黒褐色土　10YR2/1
しまり、粘性非常にあり。
白色粒子を含む。
2層　黒色土　10YR2/1
しまりあり、粘性やや弱い
砂を多く含む。
（流れたような土）
調査区域外
0 (1：80) 2m
水糸レベル 673.40m
D16 号土坑
1層
黒色土　10YR2/1
しまり、粘性あり。
小石を含み、オレンジ色の
粒子を含む。
調査区域外
0 (1：80) 2m
水糸レベル 673.30m
D17 号土坑
暗渠排水路
調査区域外
0 (1：80) 2m
D18 号土坑
暗渠排水路
1層
黒色土　10YR2/1
しまり、粘性やや弱く、
さらさらしている。
ローム粒子を含む。
調査区域外
0 (1：80) 2m
水糸レベル 672.60m

D10～18実測図



D20～27実測図

1号井戸址



1号井戸址実測図

本址はG－26Grに位置する。規模は長軸が1.3m、深さは最深部で56cmを測る。形態は隅丸の方形で中央部に径45cmの一段深い掘り込みを持つ。礫は組まれたものではなく、廃棄した様な状態であった。出土遺物は中世の所産と考えられる東海系のこね鉢片が1点出土している。

土坑規模一覧表

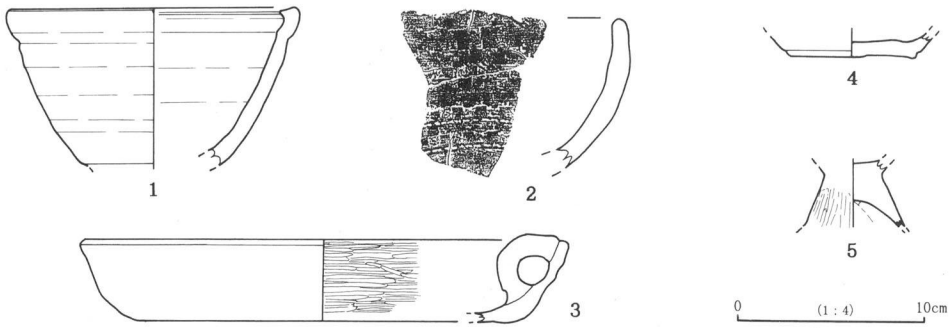
遺構名	検出位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	長軸方位	備　考
D 1	E－17	楕円形	1.33	0.65	0.22	N－48°－E	
D 2	E－16	不整形	2.40		0.68	N－32°－E	
D 3	F－18	円　形	0.88	0.66	0.12	N－2°－E	
D 4	F－19	楕円形	1.10	0.60	0.12	N－14°－W	
D 5	F－19	楕円形	2.05	1.10	0.48	N－2°－E	
D 6	F－20	楕円形	1.50	0.90	0.19	N－10°－E	
D 7	G－20	楕円形	2.04	0.80	0.43	N－48°－E	
D 8	G－21	不整形	2.20	0.95	0.28	N－53°－E	
D 9	F－22	楕円形	2.85	1.50	0.23	N－36°－E	
D10	G－21	不整形	2.70	1.35	0.38	N－2°－E	
D11	G－22	不整形	1.78	1.18	0.42	N－43°－E	
D12	H－23	円　形	1.25	0.97	0.38	N－90°－E	
D13	E－16	楕円形	2.20	1.403	0.31	N－5°－W	
D14							欠番
D15	H－29	不　明	2.00		0.18	N－35°－W	
D16	E－35	不　明	1.30		0.33	N－44°－E	
D17	G－37	楕円形	1.65	0.90	0.19	N－24°－W	
D18	E－46	不　明	2.10		0.34	N－48°－E	
D19							欠番
D20	D－49	不　明	3.30	1.30	0.17	N－30°－W	
D21	C－50	不整形	2.20	1.70	0.25	N－10°－E	
D22	D－51	不　明	2.50		0.32	N－21°－W	
D23	D－51	楕円形	2.20	1.08	0.45	N－60°－E	
D24	C－52	不整形	3.44	0.85	0.37	N－63°－E	
D25	C－53	不整形	3.70	1.20	0.21	N－87°－E	
D26	G－25	不整形	1.95	0.85	0.13	N－24°－W	
D27	F－26	円　形	1.17	0.80	0.10	N－56°－E	

今回の調査では道幅ということもあり遺構全体を把握できなかった土坑もある。また、出土遺物は非常に少く、遺物が出土した土坑は、D12から土師器片が１点、D15から古式土師器の高坏脚部が１点、D18から須恵器坏片が１点、D20から近世染付け皿片が１点の４遺構のみである。以上のことから土坑の構築時期等の考察は困難であるが、25基のうち長軸方位が近似するものがあり、これらの数値によりグルーピングが可能と思われる。グループとしては、３っのグループが想定でき、D1.7.11.16.18とD3.5.9とD23.24である。このうちD18からは須恵器坏片が出土しているため、D１のグループは古代律令期の所産とも推定できる。しかし、出土遺物はあまりにも少なく、時期の設定及び使用目的等の性格付けは周辺部の調査をまってから結論とした方がよいであろう。

暗渠排水路

調査では、近現代の所産と考えられる暗渠排水路が８カ所確認された。構築状況は何れも壁を垂直に掘り込み、底部付近には人頭大の礫を置き、上部向かうに従って礫は小型のものを使用していた。石の中には、五輪塔に使用された空風部や石臼等も混入していたが、大部分は塚原泥流に入っている軽石であった。今回確認されたこれら暗渠排水路は調査区北側の１号暗渠以外は現地籍にほぼ沿うように構築されていた。臼や五輪塔等が出土したのが１号暗渠であることから、１号暗渠は他の物に比べ構築時期が異なるとも考えられる。

出土遺物



姫子石遺跡出土遺物実測図

今回の出土遺物は、遺構の検出数に比例して非常に少量であった。上と写真に示した遺物の他には、近世陶器類、縄文土器片、弥生土器片が数点あるのみである。１はＭ７から出土した瀬戸・美濃の片口で、４はＭ５から出土した瀬戸・美濃の瓶子であるる。２は５号暗渠から出土した火鉢、３も５号暗渠から出土した焙烙である。これらは何れも近世の所産と考えられる。５はＤ15から出土した古式土師器高坏の脚部である。臼の２点と五輪塔火輪は１号暗渠から、空風輪は７号暗渠から出土している。

調査のまとめ

今回の調査は道路幅と言うこともあり、遺構全体を把握できたものは少なかった。よって、今回検出された遺構をもとに調査地点の歴史的環境を復元することは非常に困難であるが、姫子石遺跡近辺に１号井戸址を使用した中世の人々の活動があり、また、近世後期に建物址が構築され人々が生活を営んだ事が解った。今後、周辺地域は開発が進む事が予想される。しかし、その裏返しとして、埋蔵文化財の発掘調査がより多くの地点で行われ、塚原地域のより具体的な歴史像にせまれることを期待したい。

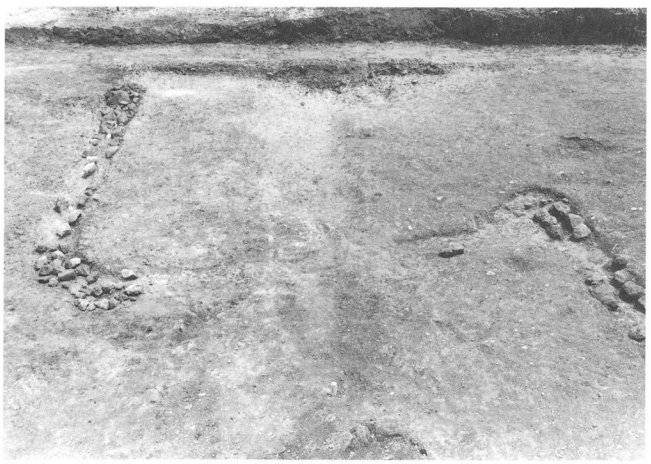
Ta１竪穴状遺構全景（東より）

Ｆ１・Ｆ２掘立柱建物址全景（東より）

Ｍ１号溝状遺構全景
（東より）

Ｍ２・３号溝状遺構全景
（東より）

Ｍ５号溝状遺構と３号暗渠全景
（西より）

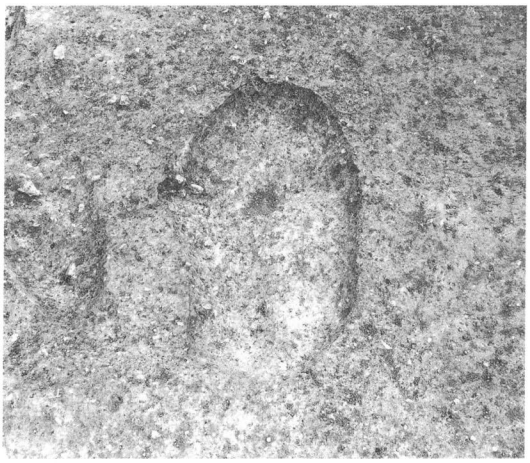


①D 1 号土坑全景

②D 3 号土坑全景

③D 4 号土坑全景

④D 5 号土坑全景



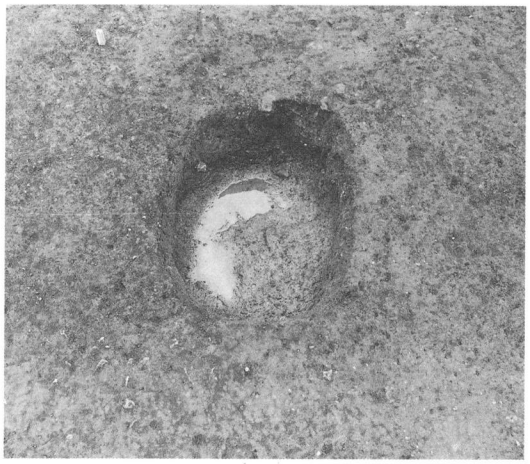
⑤D 6 号土坑全景

⑥D 7 号土坑全景

①D 8 号土坑全景

②D 9 号土坑全景

③D10号土坑全景



④D12号土坑全景

⑤D13号土坑全景

⑥D16号土坑全景

①D17号土坑全景

②D18号土坑全景

③D20号土坑全景

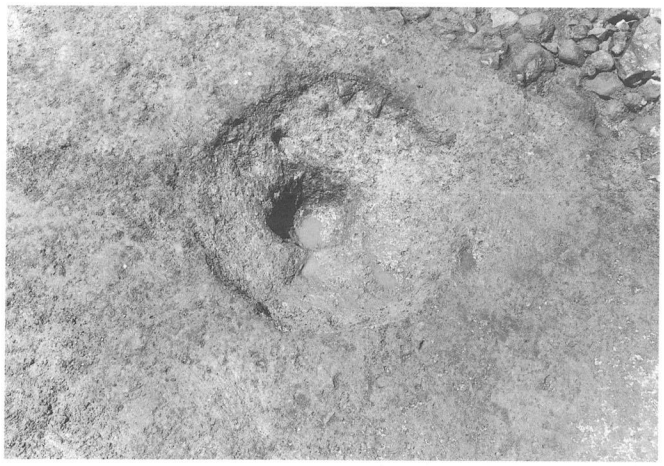
④D21号土坑全景

⑤D22号土坑全景

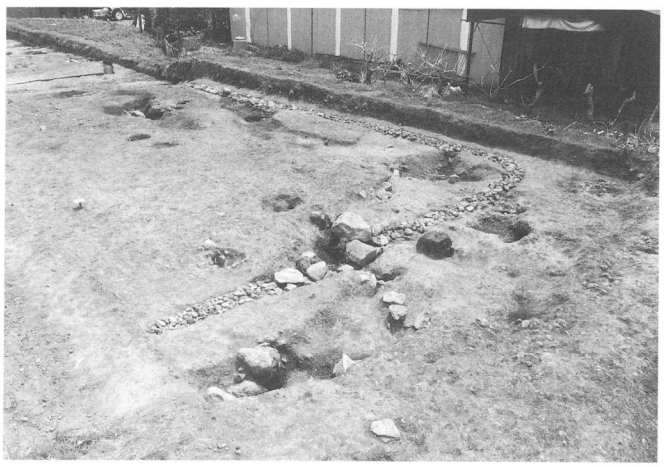
⑥D24号土坑全景

1号井戸址全景
（南より）

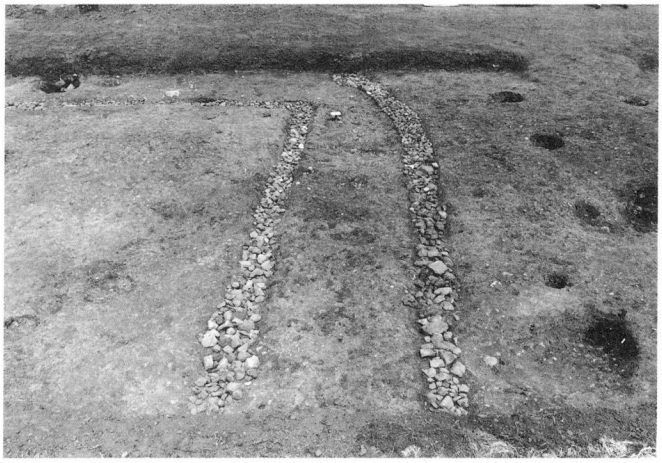
1号井戸址掘り方全景
（南より）

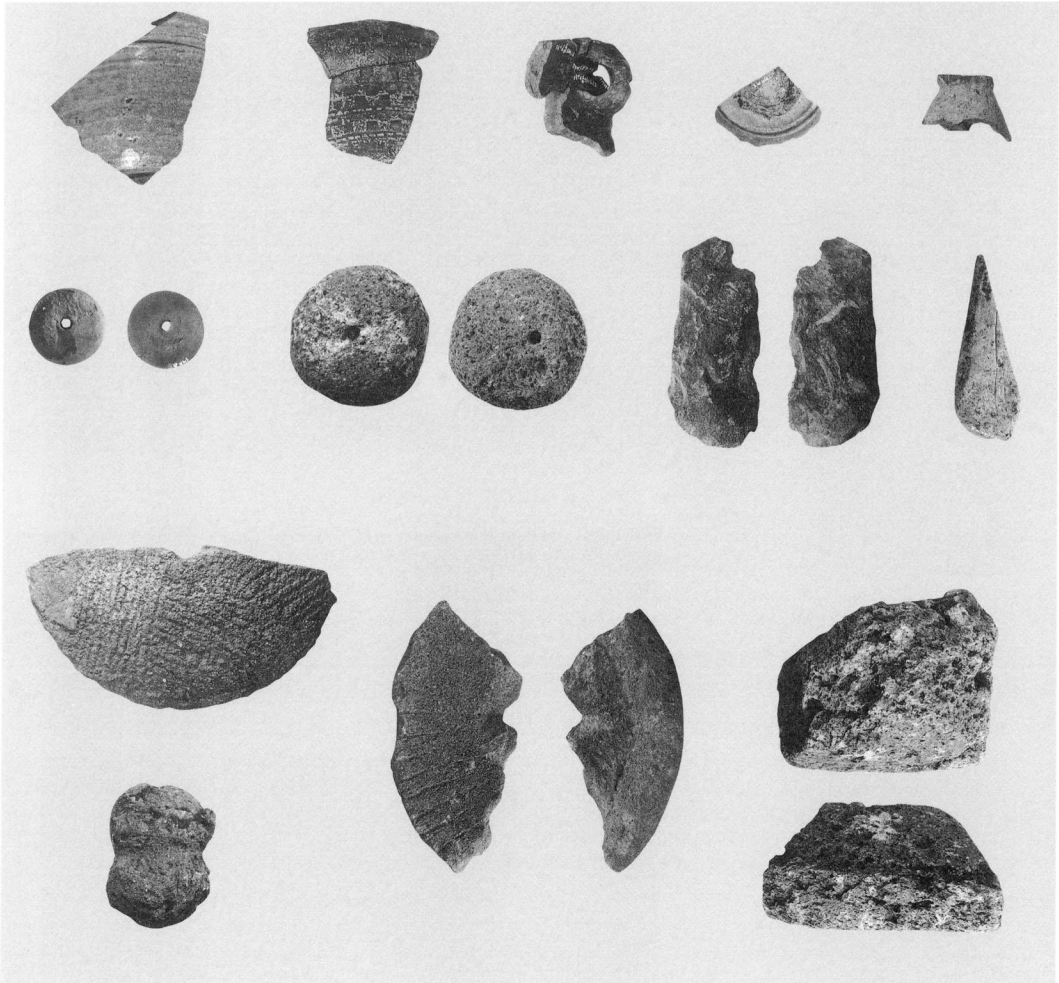


5号暗渠全景
（東より）

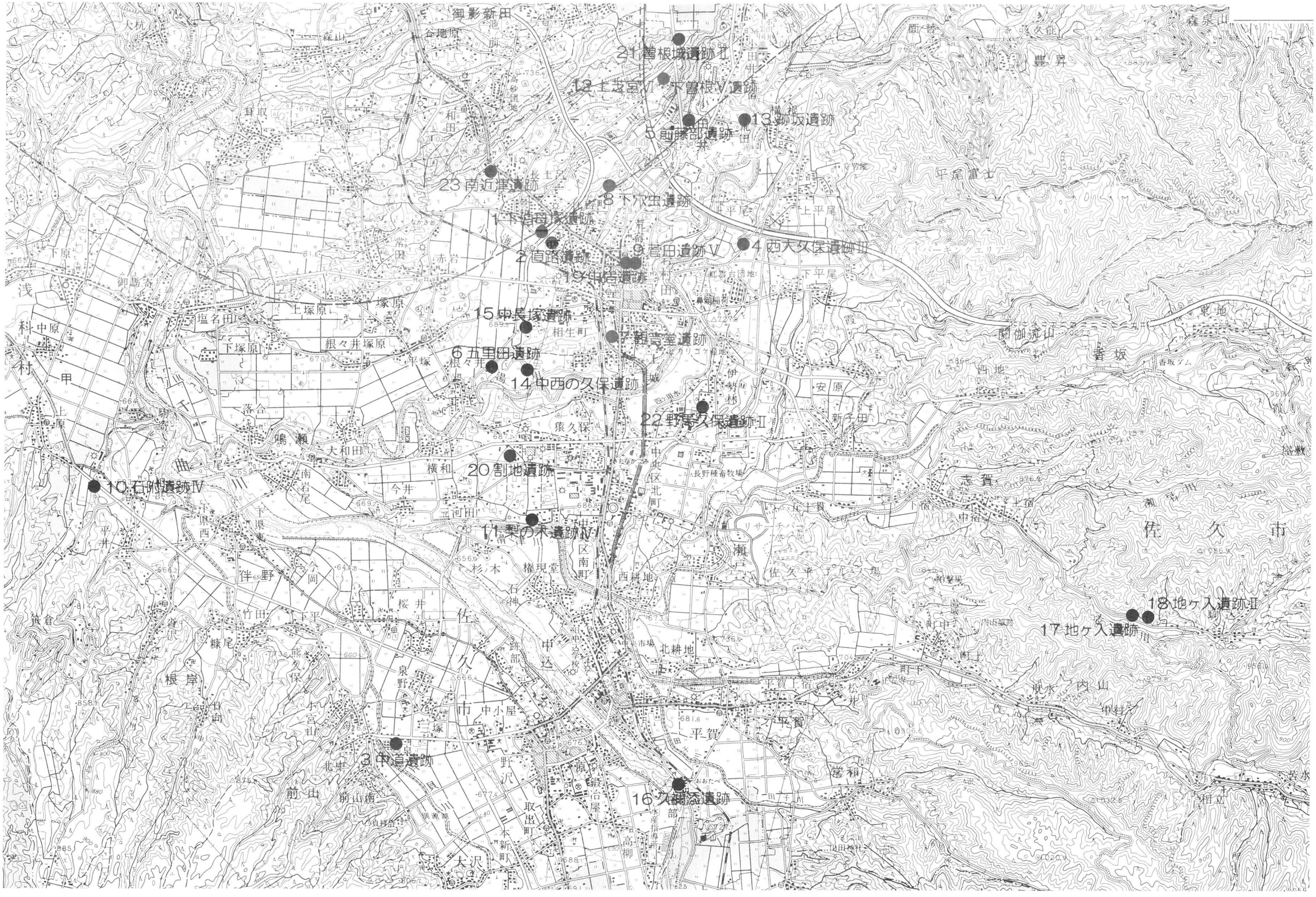


6号暗渠全景
（西より）





姫子石遺跡出土遺物



平成９年度発掘調査遺跡位置図（１：50,000）

佐久市埋蔵文化財　年報７

平成９年度

1999年３月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385－8501　長野県佐久市大字中込3,056

埋蔵文化財課

〒385－0006　長野県佐久市大字志賀5,953

電話（0267）68－7321

印　　刷　株式会社佐久印刷所